

郡山市立中学校給食センター民間活力(PPP/PFI)導入可能性調査

学校現場、児童生徒及び保護者における

ニーズ整理

(郡山市学校給食アンケート調査)

報告書

2023(令和5)年12月

郡山市

目次

第1 調査概要.....	1
1 仕様書該当	1
2 調査目的	1
3 調査対象	1
4 調査方法	1
5 調査の流れ.....	2
第2 調査内容	2
1 調査票の作成方針	2
2 具体的な設問内容.....	3
第3 調査結果	10
1 調査対象者の回答状況.....	10
2 児童生徒向け調査の結果	11
3 保護者向け調査の結果.....	28
4 教職員向け調査の結果.....	48
第4 他調査との回答比較.....	65
1 食育に関する意向調査報告書.....	65
2 食育の推進に関するアンケート調査.....	66
3 2023 年度まちづくりネットモニター第 3 回「食育について」	68
第5 調査結果のまとめ	70
1 児童生徒及び保護者、教職員の考えや実態	70
2 郡山市における学校給食のあり方.....	73

第1 調査概要

1 仕様書該当

仕様書(1)前提条件の検討・整理／エ 学校現場、児童生徒及び保護者におけるニーズの整理(アンケート調査等を行う場合、学校への協力依頼は発注者が行う)

2 調査目的

学校給食は、「学校給食が児童及び生徒の心身の健全な発達に資するもの」「学校給食の普及充実及び学校における食育の推進を図ることを目的とする。」という教育的役割を実現するために、学校給食法第二条で下表に示す目標が達成されるよう努めなければならないと定められています。

本調査では、郡山市の学校給食が、その役割を果たし続けられるよう、児童生徒及び保護者、教職員の考えや実態を的確に把握し、郡山市の学校給食のあり方における課題を整理することを目的に調査しました。

学校給食法

(学校給食の目標)

第二条 学校給食を実施するに当たっては、義務教育諸学校における教育の目的を実現するために、次に掲げる目標が達成されるよう努めなければならない。

- 一 適切な栄養の摂取による健康の保持増進を図ること。
- 二 日常生活における食事について正しい理解を深め、健全な食生活を営むことができる判断力を培い、及び望ましい食習慣を養うこと。
- 三 学校生活を豊かにし、明るい社交性及び協同の精神を養うこと。
- 四 食生活が自然の恩恵の上に成り立つものであることについての理解を深め、生命及び自然を尊重する精神並びに環境の保全に寄与する態度を養うこと。
- 五 食生活が食にかかわる人々の様々な活動に支えられていることについての理解を深め、勤労を重んずる態度を養うこと。
- 六 我が国や各地域の優れた伝統的な食文化についての理解を深めること。
- 七 食料の生産、流通及び消費について、正しい理解に導くこと。

3 調査対象

市立学校に通う児童生徒及び保護者、教職員を対象とします。

4 調査方法

電子媒体でアンケートを配布し、回答を受領します。

5 調査の流れ

調査の流れは、以下のとおりです。

項目	時期
アンケート票の準備	2023(令和5)年8月～9月上旬
アンケート票配信	2023(令和5)年9月上旬～中旬
回答期間(2週間程度を想定)	2023(令和5)年9月中旬～下旬
とりまとめ	2023(令和5)年10月～12月

第2 調査内容

1 調査票の作成方針

食習慣、学校給食、食育の主に3つの項目について確認します。児童生徒向けの設問最大20問、保護者向けの設問最大20問、教職員向けの設問最大20問以内にまとまるように作成しました。

表・調査票の作成方針

項目	意図
家での食習慣について (①②朝食・夕食の頻度、朝食・夕食の献立バランスなど) (③生活習慣で問題と感ずることなど)	食習慣を把握することで、学校給食の意義の明確化、献立作成に活かしていく。
学校給食について (①提供量、味付け、温度、残渣の有無、給食時間の不足状況など) (②学校給食に期待すること、食物アレルギー対応の印象、給食費など) (③学校給食の改善点、食べ残しを減らす取組など)	現在の学校給食への満足状況を把握することで、今後の学校給食の運営に活かしていく。
食育について (①②食事のとり方やマナー、家庭で実践していることなど) (③食育に対する取組の実施状況、栄養教諭との連携状況など)	食育への考え方を把握することで、今後の食に関する指導に活かしていく。

※(凡例)①児童生徒向け調査での視点、②保護者向け調査での視点、③教職員向け調査での視点

※設問が30問近くなると、数が多くなり、後半になるにつれて良い回答が得られなくなる可能性があります。

2 具体的な設問内容

児童生徒向け、保護者向け、教職員向け、それぞれの設問内容と選択肢は、次に示すとおりです。

1) 児童生徒向け調査の質問一覧

問1

(1)あなたは、1週間に何日ぐらい朝食を食べていますか。【全員回答】

【選択肢】・毎日 ・週に6日 ・週に4～5日 ・週に2～3日 ・週に1日 ・食べない（単一回答）

(2)朝食を毎日食べない、一番の理由を教えてください。【朝食を食べない日があると回答した方】

【選択肢】・おなかがすかないから(食欲がないから) ・時間がないから ・朝食が用意されていないから ・太りたくないから ・その他（単一回答）

問2

(1)あなたは、1週間に何日ぐらい夕食を食べていますか。【全員回答】

【選択肢】・毎日 ・週に6日 ・週に4～5日 ・週に2～3日 ・週に1日 ・食べない（単一回答）

(2)夕食を毎日食べない、一番の理由を教えてください。【夕食を食べない日があると回答した方】

【選択肢】・おなかがすかないから(食欲がないから) ・時間がないから ・夕食が用意されていないから ・太りたくないから ・その他（単一回答）

問3 家での食事の食べ方やマナーについて【全員回答】

(1)家では、食事を味わったり、会話しながら食べるなど、楽しみながら食べていますか。

【選択肢】・いつも楽しみながら食べている ・ときどき楽しみながら食べている ・楽しみながら食べることはあまりしない ・楽しみながら食べない（単一回答）

(2)家では、食事の最初と最後に「いただきます」「ごちそうさま」を言っていますか。

【選択肢】・いつも言っている ・ときどき言っている ・あまり言わない ・言わない（単一回答）

(3)家での食事のときにテレビや本、スマホ、タブレットなどを見ながら食べることはありますか。

【選択肢】・いつも見ながら食べている ・ときどき見ながら食べている ・見ながら食べることはあまりしない ・見ながら食べない（単一回答）

(4)家では、好きなものだけ食べることはありますか。

【選択肢】・いつも好きなものだけ食べる ・ときどき好きなものだけ食べる ・好きなものだけ食べることはあまりしない ・好きなものだけ食べることはしない（単一回答）

(5)家での食事で出されたものは残さず食べていますか。

【選択肢】・いつも残さず食べている ・できるだけ残さずに食べようと思っているが、ときどき残すことがある・できるだけ残さずに食べようと思っているが、いつも食事を残す ・「残さずに食べよう」などとあまり気にしていない（単一回答）

問4 学校給食について
(1)給食の量は多いですか。【全員回答】
【選択肢】・多い ・やや多い ・ちょうどよい ・やや少ない ・少ない (単一回答)
(2)給食は残さず食べていますか。【全員回答】
【選択肢】・いつも残さずに食べている ・できるだけ残さずに食べようと思っているが、ときどき残すことがある・できるだけ残さずに食べようと思っているが、いつも食事を残す ・「残さずに食べよう」などとあまり気にしていない (単一回答)
(3)給食を残すとき、一番残すものはどれですか。【給食を残すことがある方】
【選択肢】・ごはん・パン・めん・汁物(みそ汁、スープ)・牛乳・肉料理・魚料理・野菜・豆料理・きのこ・海藻・デザート (単一回答)
(4)-1 給食の牛乳を飲んでいきますか。【全員回答】
【選択肢】・残さず飲む・ときどき残す・アレルギーなどはないがいつも残す・アレルギーなどがあるので飲めない (単一回答)
(4)-2 給食の牛乳を残す一番の理由を教えてください。【アレルギー以外で牛乳を残すと回答した方】
【選択肢】・冬場は冷たい(夏は冷たくない) ・太りたくない ・量が多い ・おいしくない (単一回答)
(5)給食を通じて苦手だったもので食べられるようになったものはありますか。【全員回答】
【選択肢】・ある ・ない ・苦手なものがない (単一回答)
(6)給食の味付けについて教えてください。【全員回答】
【選択肢】・味が濃い ・味がやや濃い ・味はちょうどよい ・味がやや薄い ・味が薄い (単一回答)
(7)給食の温度について教えてください。【全員回答】
【選択肢】・温かい ・ちょうどよい ・冷たい (単一回答)
(8)給食を食べる時間は足りていますか。【全員回答】
【選択肢】・足りている ・あまり足りていない(短い) ・全く足りていない(とても短い) (単一回答)
(9)給食当番のときに一番困っていることを教えてください。【全員回答】
【選択肢】・よそよそときの用具(おたまやしゃもじなど)が使いづらい ・よそよそときの一人分の量がむずかしい ・よそよそ時間が足りない ・給食室から給食を運ぶのが大変 ・衛生面が気になる ・特になし ・その他 (単一回答)

2) 保護者向け調査の質問一覧

問1 お子さんの生活習慣で心配なことは何ですか。【全員回答】

【選択肢】・欠食・偏食・睡眠不足・就寝時間が遅いこと・運動不足・肥満・痩せすぎ・特になし・その他（単一回答）

問2

(1)あなたの家庭では、お子さんと一緒に朝食を食べていますか。【全員回答】

【選択肢】・毎日・週に6日・週に4～5日・週に2～3日・週に1日・一緒に食べていない（単一回答）

(2)一緒に朝食を食べられない一番の理由は何ですか。【朝食と一緒に食べない日がある家庭】

【選択肢】・子どもの登校時間が早いため・子どもの弁当を作るため・出勤時間の関係・朝食を食べないため・その他（単一回答）

(3)朝食では、主食(ごはんやパン、麺)と副食(おかず)のバランスを考えますか。【朝食を食べない家庭以外】

【選択肢】・いつもそうしている・時々そうしている・ほとんどそうしていない・いつもそうしていない（単一回答）

問3

(1)あなたの家庭では、お子さんと一緒に夕食を食べていますか。【全員回答】

【選択肢】・毎日・週に6日・週に4～5日・週に2～3日・週に1日・一緒に食べていない（単一回答）

(2)一緒に夕食を食べられない一番の理由は何ですか。【夕食と一緒に食べない日がある家庭】

【選択肢】・子どもの下校時間が遅いため・塾などに行く時間が夕食時と重なるから・仕事の関係・一緒に食べる習慣がないため・夕食を食べないため・その他（単一回答）

問4

(1)-1 現在の給食についてどのように思いますか。【全員回答】

【選択肢】・満足・やや満足・やや不満・不満（単一回答）

(1)-2 改善すべきだと思われる項目を選んでください。【「やや不満、不満」と回答した方】

【選択肢】・献立の内容を見直してほしい・給食の量が少ない・使われている食材に不安がある・その他（単一回答）

(2)ご家庭で給食の話をしますか。【全員回答】

【選択肢】・よく話す・たまに話す・あまり話さない・全く話さない（単一回答）

(3)各家庭に配付している献立予定表を見ていますか。【全員回答】

【選択肢】・よく見ている・たまに見ている・あまり見ていない・全く見ていない（単一回答）

(4)給食で良いと思うことは何ですか。【全員回答】

【選択肢】

- ・栄養バランスが整っていること ・好き嫌いがなくなる
- ・食事の準備や後片付けを通して協調性を養うこと
- ・衛生管理が配慮され、安全安心に食べられること
- ・弁当を作らなくてよいこと
- ・食事マナーがよくなること
- ・子ども達が同じものを一緒に食べ、コミュニケーション能力を養えること
- ・献立に変化があり、毎日違うものを食べることができること
- ・子ども達が給食を楽しみにしていること
- ・食育のきっかけとなること
- ・その他（3つまで回答可）

(5)学校給食に期待するものは何ですか。【全員回答】

【選択肢】・栄養バランスの良さ ・豊富なメニュー ・おいしさ ・適温での提供 ・食物アレルギーの対応 ・地元の食材・事業者の活用 ・安全、安心 ・給食費を安くおさえること ・食育の充実 ・給食だよりの充実 ・特になし（3つまで回答可）

(6)学校給食を通じて改善されたことは何ですか。【全員回答】

【選択肢】・以前より野菜を食べるようになった ・嫌いなものも食べようとするようになった ・食べ物話題が増えた ・食に関心を持つようになった ・特になし ・その他（3つまで回答可）

(7)献立内容で配慮してほしいことは何ですか。【全員回答】

【選択肢】

- ・季節に合った旬の食材を使用してほしい
- ・地元の食材を使ってほしい
- ・献立の種類(バリエーション)を増やしてほしい
- ・安心安全な食材を使用してほしい
- ・栄養価を十分に満たしてほしい
- ・嗜好に合わせてほしい
- ・嗜好によらずいろいろな食材を使用してほしい
- ・デザートなどを充実してほしい
- ・現状のままでよい（3つまで回答可）

(8)学校給食を通して学んでほしいことは何ですか。【全員回答】

【選択肢】

- ・決められた時間に1日3食規則正しく食事をする
- ・栄養バランスの良い食事を理解すること
- ・食べ残しなどでもったいないと感じる心
- ・野菜や魚の旬を理解すること
- ・手洗いや食事のマナーを身に付けること
- ・好き嫌いがなくなる
- ・食事の準備や後片付けを通して協調性を養うこと
- ・地場産物の学習
- ・食物生産者への感謝の心を育むこと
- ・特になし（3つまで回答可）

(9)献立表の配付について伺います。【全員回答】

【選択肢】・スマホ等があるため WEB 配信でよい ・スマホ等はあるが紙での配付がよい ・スマホ等がないため紙での配付がよい ・どちらでもよい（単一回答）

(10)現在の給食における食物アレルギー対応の満足度はいかがですか。【全員回答】

【選択肢】・満足 ・やや満足 ・やや不満 ・不満 ・アレルギー対応状況を知らない（単一回答）

(11)磁器食器とプラ食器はどちらがよいとお考えですか。【全員回答】

【選択肢】・磁器食器の方がよい ・プラスチック食器の方がよい ・両方を使う方がよい ・どちらでもよい (単一回答) (単一回答)

問5 【全員回答】

(1)令和5年度の無償化による家計への影響はいかがですか。

【選択肢】・非常に家計が助かる ・やや家計が助かる ・あまり影響を感じない ・全く影響を感じない (単一回答)

(2)無償化を継続してほしいと思いますか。

【選択肢】・継続してほしい ・継続しなくてよい (単一回答)

問6 【全員回答】

(1)食育という言葉やその意味を知っていますか。

【選択肢】・言葉も意味も知っている ・言葉は知っているが、意味はよく分からない ・よく分からない (単一回答)

(2)食育について関心がありますか。

【選択肢】・関心がある ・やや関心がある ・あまり関心がない ・全く関心がない (単一回答)

(3)食育の主な担い手はどこだとお考えですか。

【選択肢】・家庭 ・学校 ・地域 ・国、自治体 ・その他 (単一回答)

(4)食育に関して、家庭で実践していることがありますか。

【選択肢】

- ・家庭での食卓を囲む機会の増加・充実・コミュニケーションの確保
- ・食前、食後の挨拶、箸の持ち方、姿勢、配膳、食べ方など正しいマナーの習得
- ・「もったいない」といった食物を大切に思う気持ちの育成
- ・郷土料理、伝統料理、季節や行事に関係した料理等の実践
- ・農業や漁業といった生産活動の体験
- ・地元や県内で生産、加工された食品を使用する地産地消活動の実践
- ・「早寝早起き朝ごはん」など規則正しい食生活の習慣化
- ・子どもの調理への参加、家庭の味の継承
- ・食事のバランスを意識し、食べず嫌いや偏食を減らす献立づくり
- ・その他 (3つまで回答可)

3) 教職員向け調査の質問一覧

問1 子ども達の生活習慣で問題と感じられることは何ですか。【全員回答】

【選択肢】・欠食 ・偏食 ・睡眠不足 ・就寝時間が遅いこと ・運動不足 ・肥満 ・痩せすぎ ・特になし ・その他 (単一回答)

問2 学校給食についておたずねします。

(1)現在の給食についてどのように思いますか。【全員回答】

【選択肢】・満足 ・やや満足 ・やや不満 ・不満 (単一回答)

(1)-2 改善すべきだと思われる項目を選んでください。【「不満、やや不満」と回答した方】

【選択肢】・献立の内容 ・給食の量 ・使われている食材 ・調理方法 ・衛生面 ・安全面 ・給食費 ・その他 (単一回答)

(2) 子ども達は給食の時間をどのように感じていると思いますか。【全員回答】

【選択肢】・とても楽しみにしている ・楽しみにしている ・あまり楽しみにしていない ・楽しみにしていない ・その他 (単一回答)

(3) 学校給食の味付けは子ども達にとって適切だと思いますか。【全員回答】

【選択肢】・適切である ・全体的に薄味に感じる ・全体的に濃味に感じる ・薄い時と濃い時の差がある ・その他 (単一回答)

(4) 給食の量は子ども達にとってどう思いますか。【全員回答】

【選択肢】・多い ・やや多い ・ちょうど良い ・やや少ない ・少ない (単一回答)

(5) 給食の食品や食器・ランチ皿等の数についておたずねします。【全員回答】

【選択肢】・間違いなく届いている ・時々足りないことがある ・何度も足りないことがあった ・時々多いときがある・数の間違いが多くなった気がする ・数の間違いが少なくなった気がする ・その他 (単一回答)

(6) 給食の食べ残しはどれぐらいですか。【全員回答】

【選択肢】・ほとんど残らない ・10分の1程度残る ・5分の1程度残る ・その他 (単一回答)

(7) 子ども達が給食を残す理由は何だと思いますか。【全員回答】

【選択肢】・おいしくない ・好き嫌い ・食べたことがない ・給食の時間が短い ・量が多い ・ダイエット ・噛む力が弱く食べ難い ・その他 (単一回答)

(8) 食べ残しを減らす取組をしていますか。【全員回答】

【選択肢】

- ・最初の配膳時に給食を全員に配りきる
- ・クラス全員への配食完了時に、おかわり希望者を募る
- ・教師が自ら積極的に、子ども達に配食する
- ・食が細い子ども達の様子に配慮し、声かけしながら食べ残しを減らすように促す
- ・その他 (単一回答)

(9) 給食で良いと思うことは何ですか。【全員回答】

【選択肢】

- ・栄養バランスが整っていること
- ・好き嫌いがなくなること
- ・食事の準備や後片付けを通して協調性を養うこと
- ・衛生管理が配慮され、安全安心に食べられること
- ・弁当を作らなくてよいこと
- ・食事マナーがよくなること
- ・子ども達が同じものを一緒に食べ、コミュニケーション能力を養えること
- ・献立に変化があり、毎日違うものを食べることができること
- ・子ども達が給食を楽しみにしていること
- ・食育のきっかけとなること
- ・その他（3つまで回答可）

(10) 現在の食物アレルギー対応については、どのような印象をお持ちですか。【全員回答】

- 【選択肢】・良い ・どちらかといえば良い ・どちらかといえば悪い ・悪い ・アレルギー対応状況を知らない（単一回答）

問3 食育についておたずねします。【全員回答】

(1) 食育について関心がありますか。

- 【選択肢】・関心がある ・やや関心がある ・あまり関心がない ・全く関心がない（単一回答）

(2) 食育の主な担い手はどこだとお考えですか。

- 【選択肢】・家庭 ・学校 ・地域 ・国、自治体 ・その他（単一回答）

(3) 食育の充実に特に重視することは何ですか。

【選択肢】

- ・食育の講話など特別授業等の充実
- ・教科等の学習との関連を図る
- ・食事環境の整備
- ・食物アレルギー対応など個に応じた指導の充実
- ・地場産物や郷土食等を活用した献立の充実
- ・家庭や地域と連携した食育の推進
- ・企業等と連携した食育の推進
- ・その他（単一回答）

(4) 栄養教諭と連携して食に関する指導を実施できていると思いますか。

- 【選択肢】・できている ・それなりにできている ・あまりできていない ・全くできていない ・分からない（単一回答）

第3 調査結果

1 調査対象者の回答状況

児童の回答状況

	回答数	小学1年生					小学2年生					小学3年生					小学4年生					小学5年生					小学6年生				
		性別					性別					性別					性別					性別									
		計	男	女	その他	無回答	計	男	女	その他	無回答	計	男	女	その他	無回答	計	男	女	その他	無回答	計	男	女	その他	無回答	計	男	女	その他	無回答
自校	5,981	470	436	0	20	926	461	493	0	18	972	490	468	1	22	981	481	537	2	36	1,056	540	495	2	30	1,067	440	500	2	37	979
親子(親)	59	7	4	0	0	11	5	8	0	0	13	6	6	0	0	12	7	3	0	0	10	3	0	0	0	3	3	7	0	0	10
親子(子)	54	5	5	0	0	10	4	2	0	0	6	2	4	0	1	7	6	5	0	0	11	8	3	0	0	11	1	8	0	0	9
計	6,094	482	445	0	20	947	470	503	0	18	991	498	478	1	23	1,000	494	545	2	36	1,077	551	498	2	30	1,081	444	515	2	37	998

生徒の回答状況

	回答数	中学1年生(義務教育学校7年生含む)					中学2年生(義務教育学校8年生含む)					中学3年生(義務教育学校9年生含む)				
		性別					性別					性別				
		計	男	女	その他	無回答	計	男	女	その他	無回答	計	男	女	その他	無回答
自校	103	17	15	0	2	34	12	17	0	5	34	15	17	0	3	35
親子(親)	14	4	5	0	0	9	3	1	0	0	4	1	0	0	1	
親子(子)	13	3	2	0	0	5	0	4	0	0	4	2	2	0	0	4
センター受配校	2,789	518	460	5	50	1,033	325	429	5	32	791	416	471	13	65	965
計	2,919	542	482	5	52	1,081	340	451	5	37	833	434	490	13	68	1,005

保護者の回答状況

保護者の回答状況は、次のとおりです。

	小学生保護者回答数	中学生保護者回答数
自校	6,003	68
親子(親)	74	18
親子(子)	53	11
センター受配校	-	2,128
計	6,130	2,225

教職員の回答状況

小学校教職員の回答状況

	回答数	担任をしている学年						担任以外
		1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	
自校	562	64	48	56	52	54	54	234
親子(親)	14	2	1	1	0	1	2	7
親子(子)	18	1	1	3	1	2	2	8
計	594	67	50	60	53	57	58	249

中学校教職員の回答状況

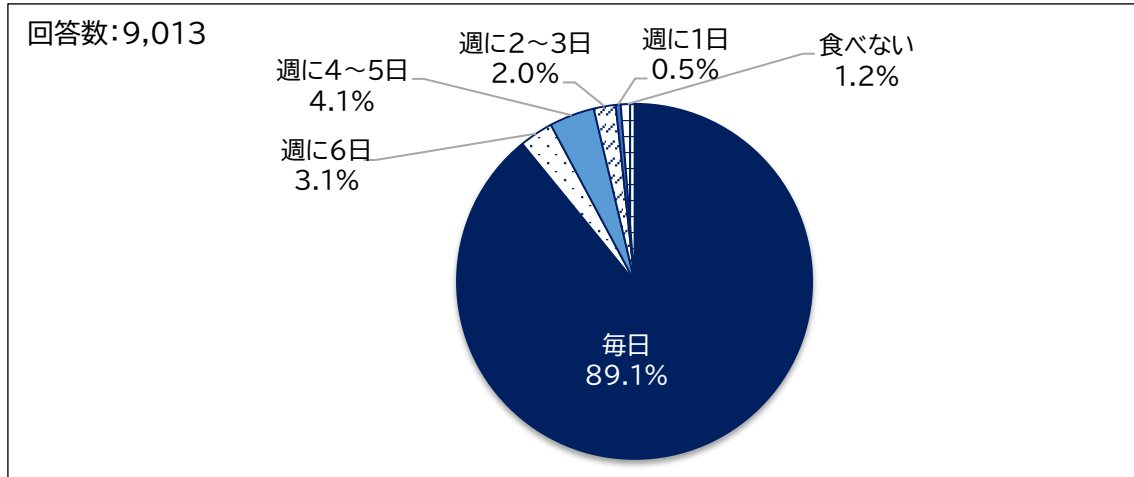
	回答数	担任をしている学年			担任以外	
		1学年	2学年	3学年	中学校勤務	義務教育学校勤務
自校	29	3	2	1	15	8
親子(親)	0	0	0	0	0	0
親子(子)	6	0	0	0	6	0
センター受配校	242	33	44	35	130	0
計	277	36	46	36	151	8

※中学1年生の担任は、義務教育学校7年生を含む。中学2年生の担任は、義務教育学校8年生を含む。中学3年生の担任は、義務教育学校9年生を含む。

2 児童生徒向け調査の結果

問1

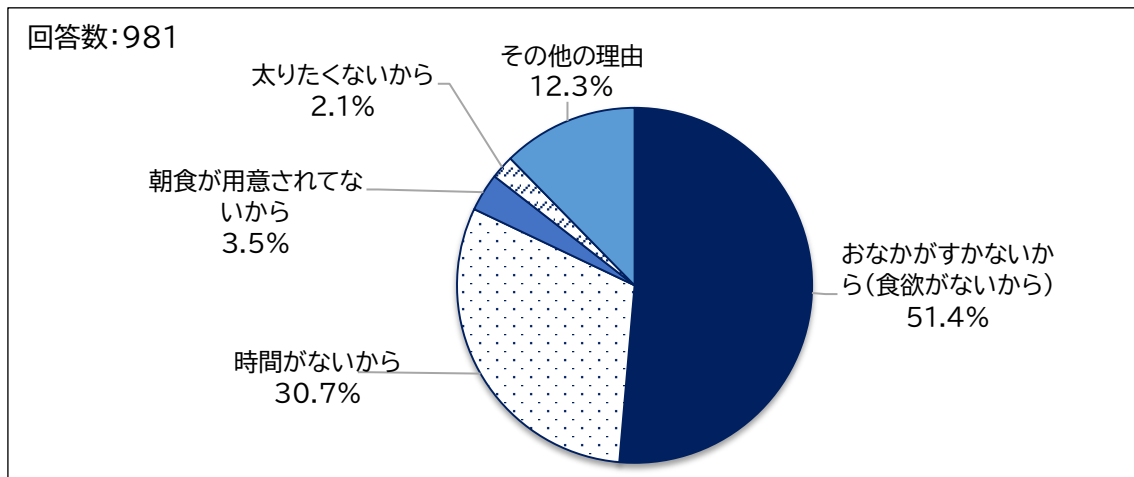
(1) あなたは、1週間に何日ぐらい朝食を食べていますか。(単一回答)



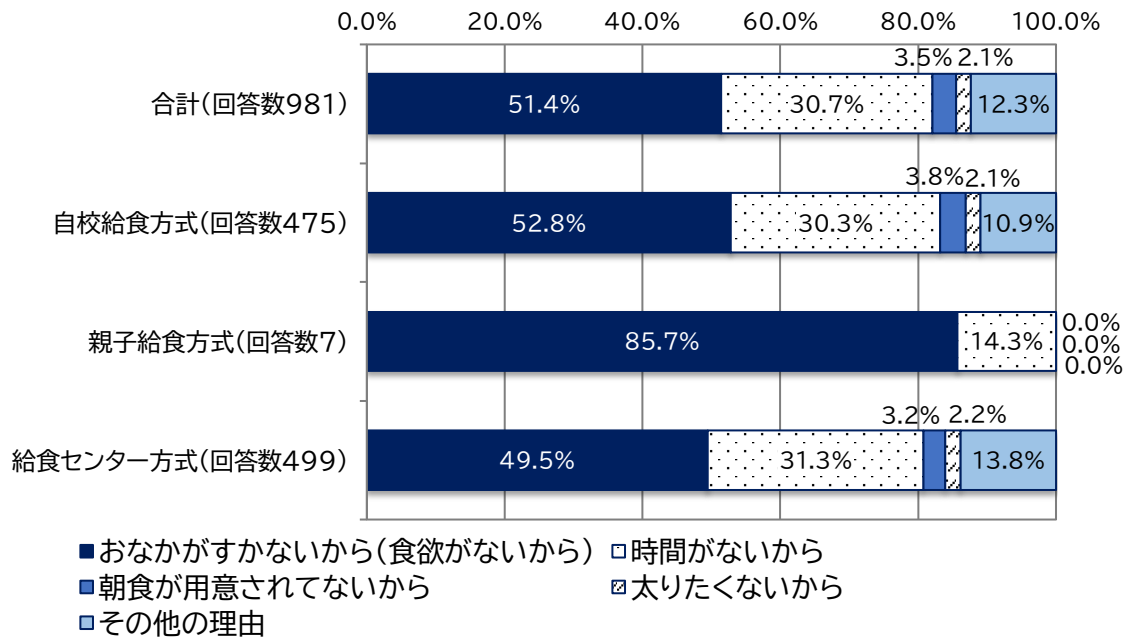
【まとめ】

- ・1週間のうち、毎日朝食を食べている児童生徒は、全体の89.1%を占めています。
- ・1週間のうち、1日でも朝食を食べていない日があると答えた児童生徒は、全体の10.9%です。

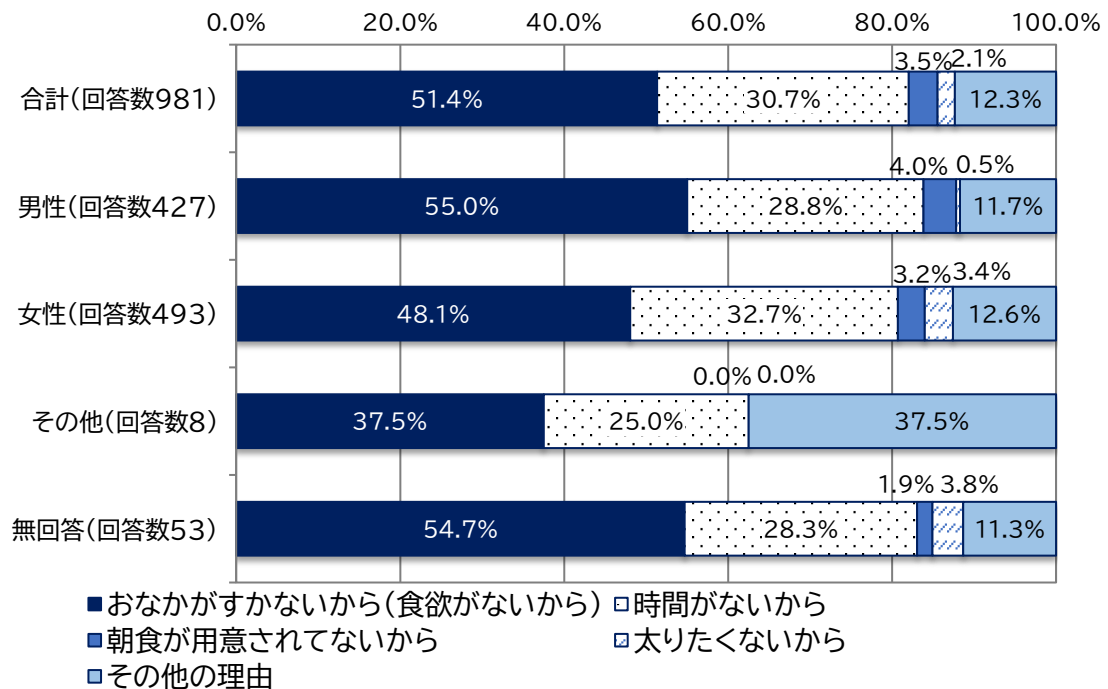
(2) 朝食を毎日食べない、一番の理由を教えてください。(問1(1)で「週に6日」「週に4~5日」「週に2~3日」「週に1日」「食べない」と回答した児童生徒のみ・単一回答)



提供方式別クロス集計



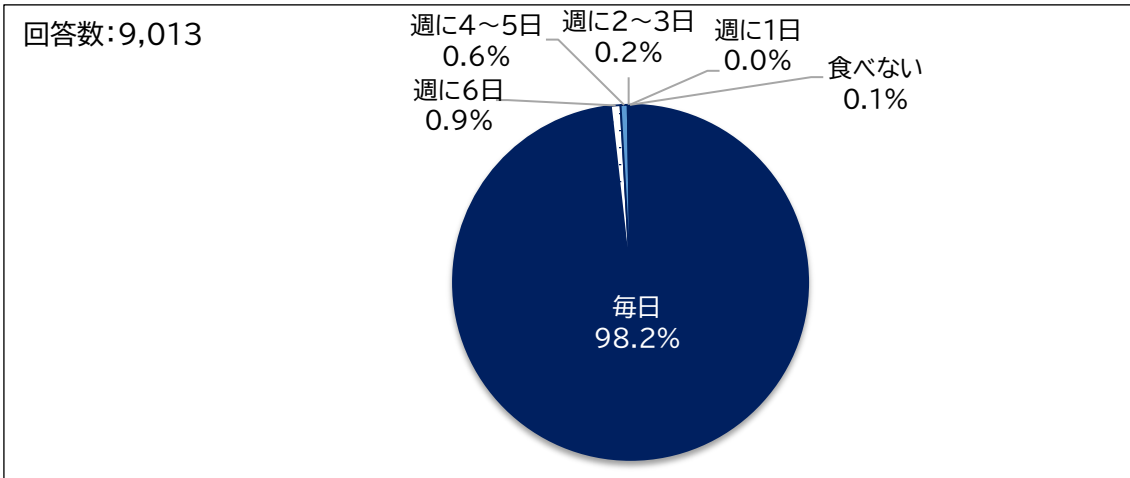
性別クロス集計



【まとめ】
 ・(1)で1週間のうち、1日でも朝食を食べていない日があると答えた児童生徒に対し、「朝食を毎日食べない、一番の理由を聞きました。結果、「おなかがすかないから(食欲がないから)」が全体の51.4%、「時間がないから」が30.7%、「朝食が用意されていないから」が3.5%、「太りたくないから」が2.1%となっています。
 ・その他の理由としては、「起きる時間が遅いから」、「眠いから/寝ているから」が挙げられています。

問2

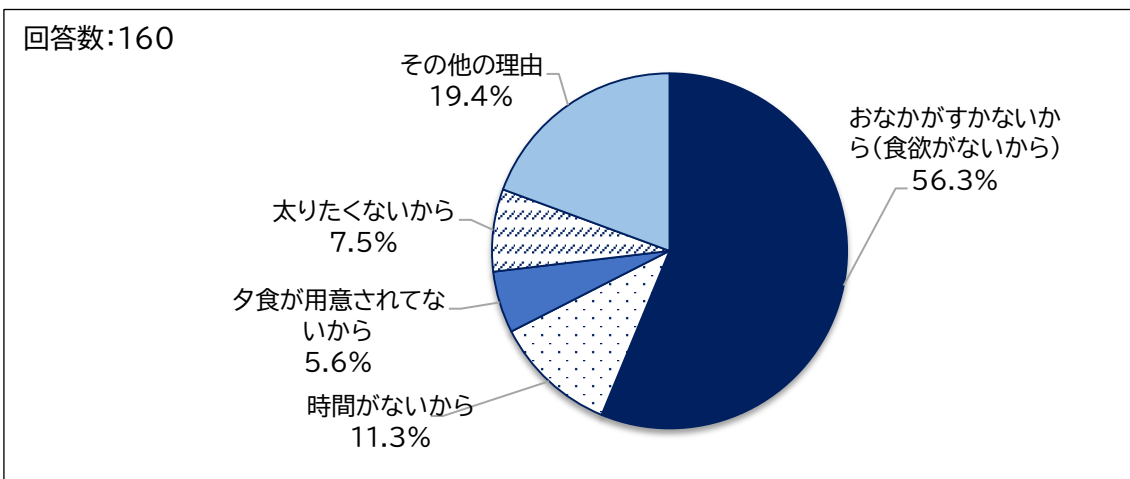
(1) あなたは、1週間に何日ぐらい夕食を食べていますか。(単一回答)



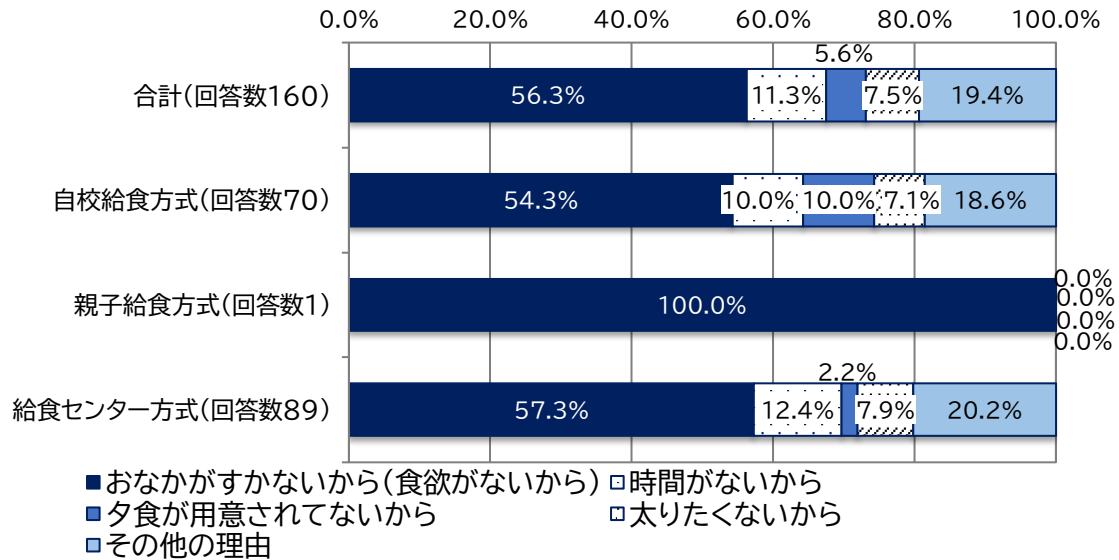
【まとめ】

- ・1週間のうち、毎日夕食を食べている児童生徒は、全体の98.2%を占めており、ほとんどの児童生徒が、夕食を毎日食べています。
- ・1週間のうち、1日でも夕食を食べていない日があると答えた児童生徒は、全体の1.8%です。

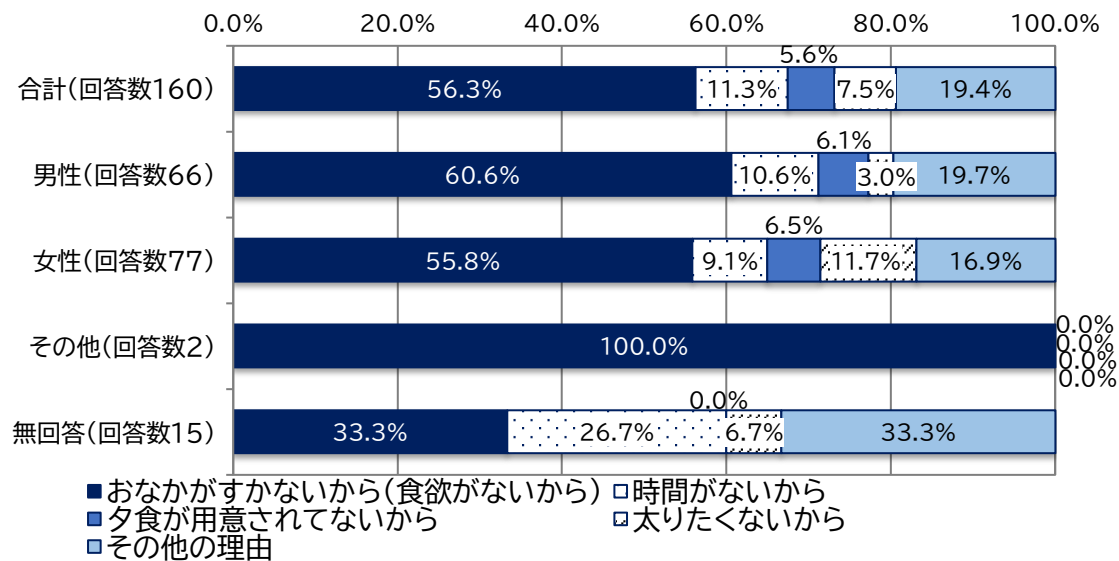
(2) 夕食を毎日食べない、一番の理由を教えてください。(問2(1)で「週に6日」「週に4~5日」「週に2~3日」「週に1日」「食べない」と回答した児童生徒のみ・単一回答)



提供方式別クロス集計



性別クロス集計

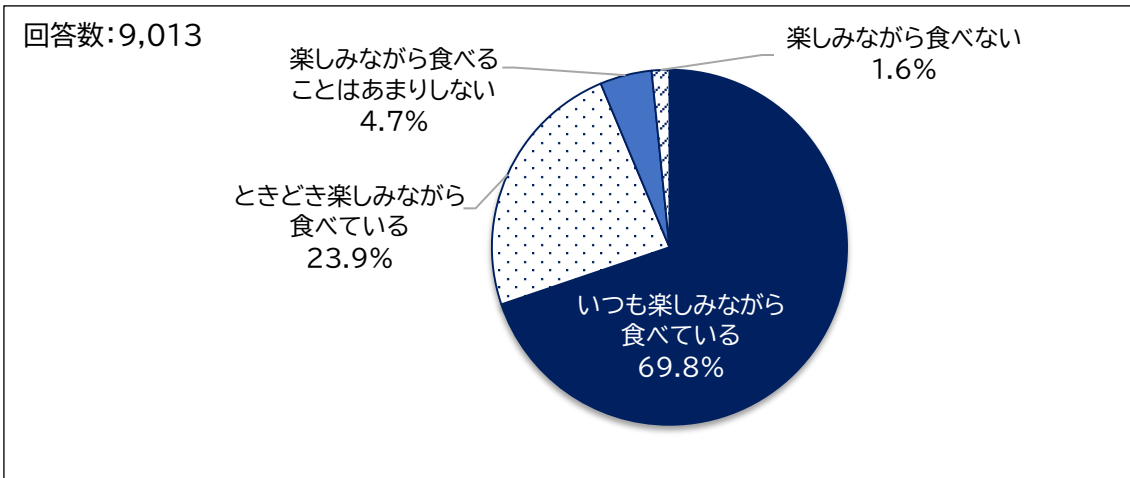


【まとめ】

- ・(1)で 1 週間のうち、1 日でも夕食を食べていない日があると答えた児童生徒に対し、「夕食を毎日食べない、一番の理由を聞きました。結果、56.3%の児童生徒が、「おなかがすかないから(食欲がないから)」と回答しました。
- ・その他の理由として、「眠いから/寝ているから」や「疲れて夕食前に寝てしまうから」が挙げられています。

問3 家での食事の食べ方やマナーについて

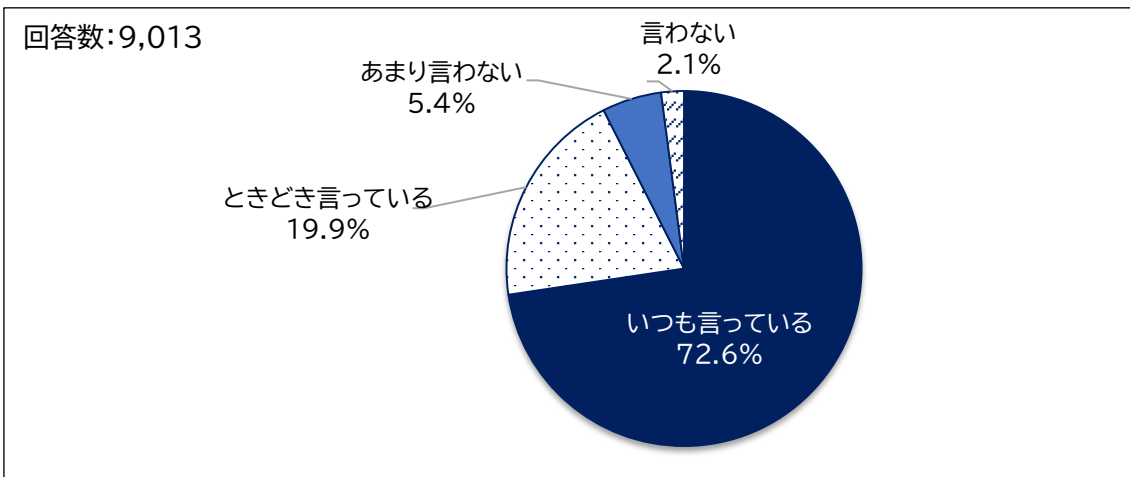
(1) 家では、食事を味わったり、会話しながら食べるなど、楽しみながら食べていますか。(単一回答)



【まとめ】

- ・「いつも楽しみながら食べている」と回答した児童生徒は、全体の 69.8%を占めています。
- ・「いつも楽しみながら食べている」と「ときどき楽しみながら食べている」と回答した児童生徒は、全体の 93.7%となっています。
- ・「楽しみながら食べることはあまりしない」と「楽しみながら食べない」と回答した児童生徒は、全体の 6.3%となっています。

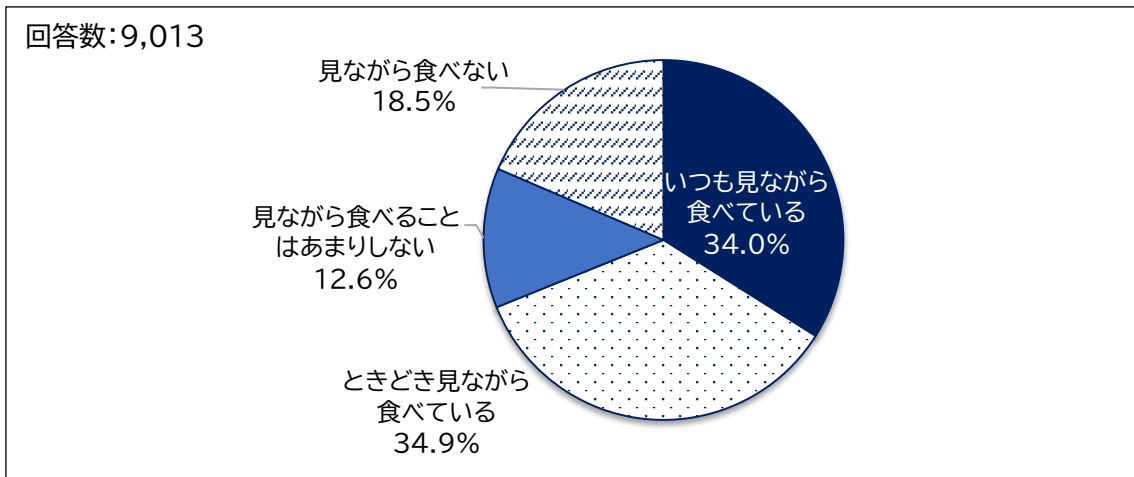
(2) 家では、食事の最初と最後に「いただきます」「ごちそうさま」を言っていますか。(単一回答)



【まとめ】

- ・食事の最初と最後に「いただきます」「ごちそうさま」と「いつも言っている」児童生徒は、全体の 72.6%となっています。
- ・「いつも言っている」と「ときどき言っている」と回答した児童生徒は、92.5%となっています。
- ・「あまり言わない」と「言わない」と回答した児童生徒は、7.5%となっています。

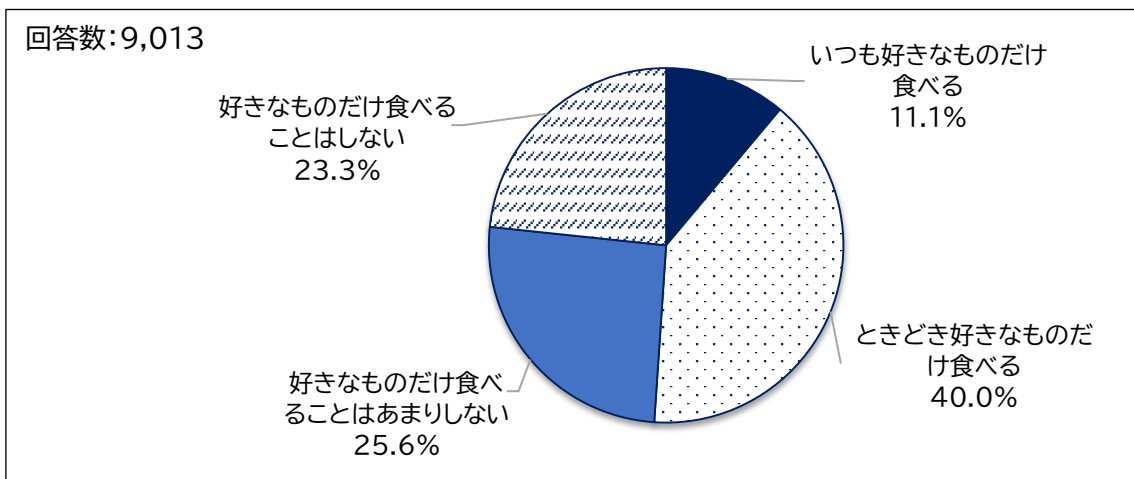
(3) 家での食事のときにテレビや本、スマホ、タブレットなどを見ながら食べることはありますか。
(単一回答)



【まとめ】

・家での食事のときにテレビや本、スマホ、タブレットなどを、「いつも見ながら食べている」と回答した児童生徒は、全体の 34.0%となっており、「ときどき見ながら食べている」と回答した児童生徒は、全体の 34.9%となっております。合計で、68.9%となり、全体の半数以上を占めています。
・「見ながら食べることはあまりしない」と「見ながら食べない」と回答した児童生徒は、全体の 31.1%です。

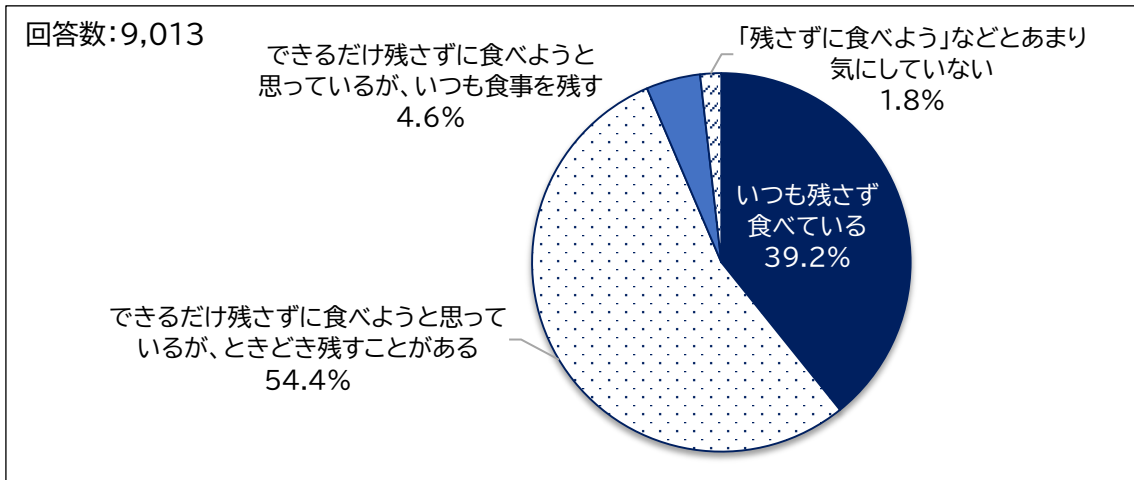
(4) 家では、好きなものだけ食べることはありますか。(単一回答)



【まとめ】

・家では、「いつも好きなものだけ食べる」と「ときどき好きなものだけ食べる」と回答した児童生徒は、全体の 51.1%で、半数以上を占めています。
・「好きなものだけ食べることはあまりしない」と「好きなものだけ食べることはしない」と回答した児童生徒は、全体の 48.9%となっております。

(5) 家での食事が出されたものは残さず食べていますか。(単一回答)

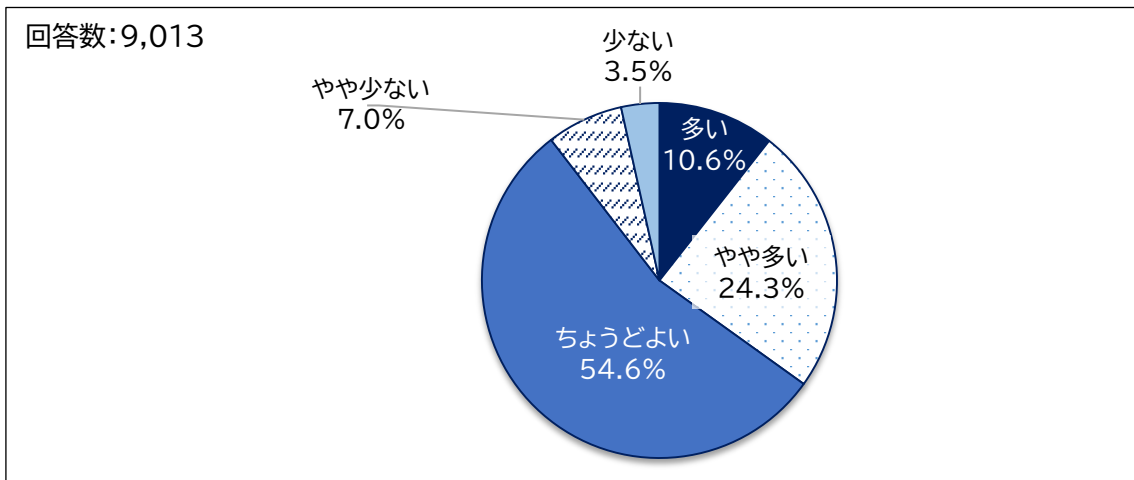


【まとめ】

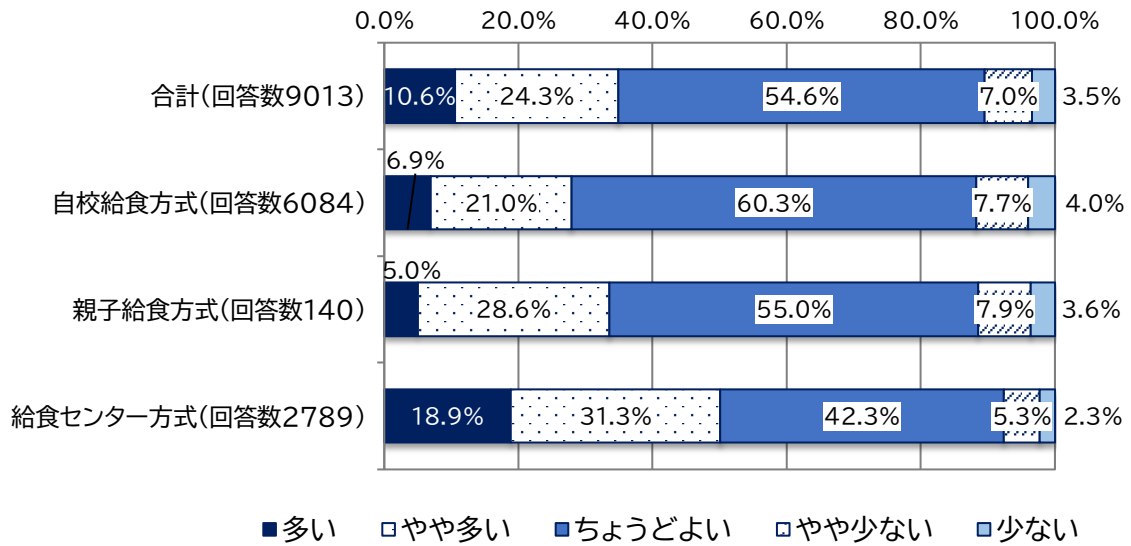
- ・家での食事が出されたものを「できるだけ残さずに食べようと思っているが、ときどき残すことがある」と回答した児童生徒は、全体の 54.4%と半数以上を占めています。
- ・「いつも残さず食べている」と「できるだけ残さずに食べようと思っているが、ときどき残すことがある」と回答した児童生徒を合わせると、全体の 93.6%となります。
- ・「できるだけ残さずに食べようと思っているが、いつも食事を残す」と「残さずに食べようなどとあまり気にしていない」と回答した児童生徒は、全体の 6.4%となっています。

問4 学校給食について

(1) 給食の量は多いですか。(単一回答)

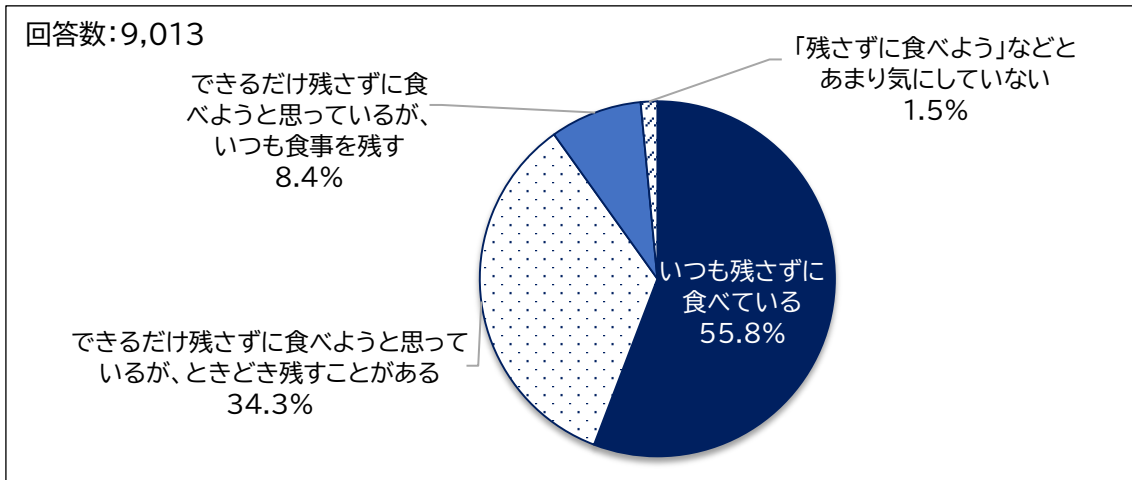


提供方式別クロス集計

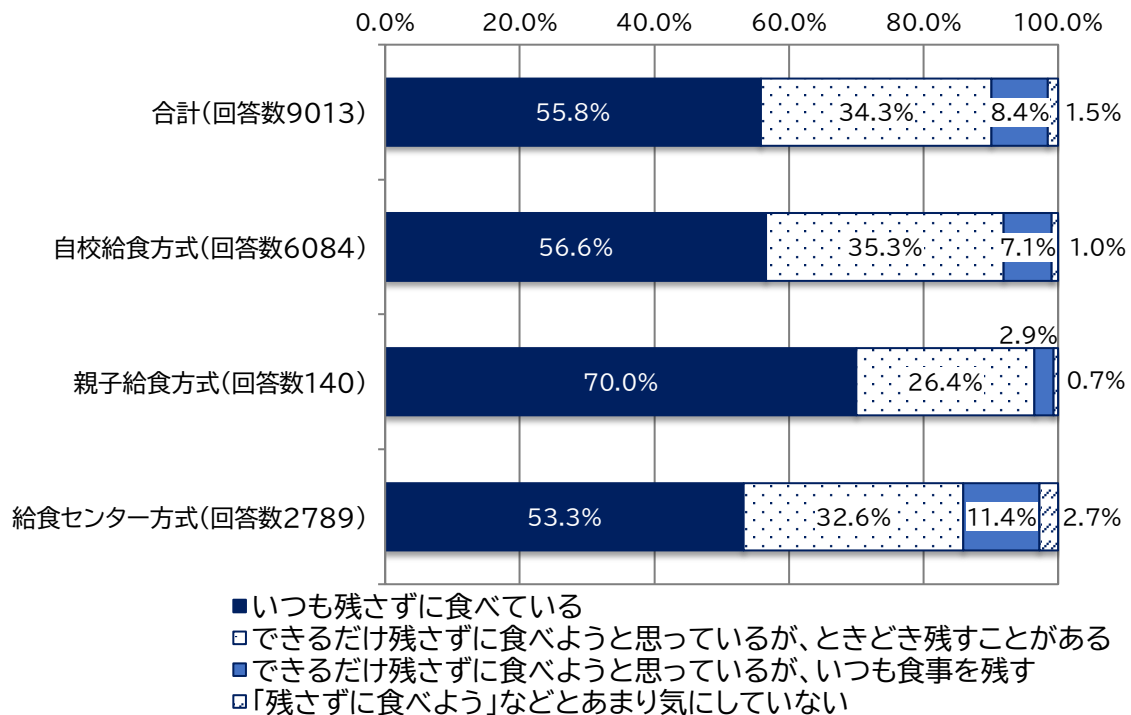


【まとめ】
 ・給食の量が「ちょうどよい」と回答した児童生徒は、全体の 54.6%、「多い」「やや多い」と回答した児童生徒は、全体の 34.9%、「少ない」「やや少ない」と回答した児童生徒は、全体の 10.5%となっています。
 ・提供方式別にみても、給食の量が「ちょうどよい」と回答した児童生徒の割合が最も多い提供方式は、自校給食方式で、60.3%です。
 ・給食センター方式の回答をみると、「多い」「やや多い」と回答している児童生徒は、50.2%、「ちょうどよい」は、42.3%となっており、全体の回答と比較すると、給食センター方式の方が、「多い」「やや多い」と回答している割合が多いことがわかります。

(2) 給食は残さず食べていますか。(単一回答)



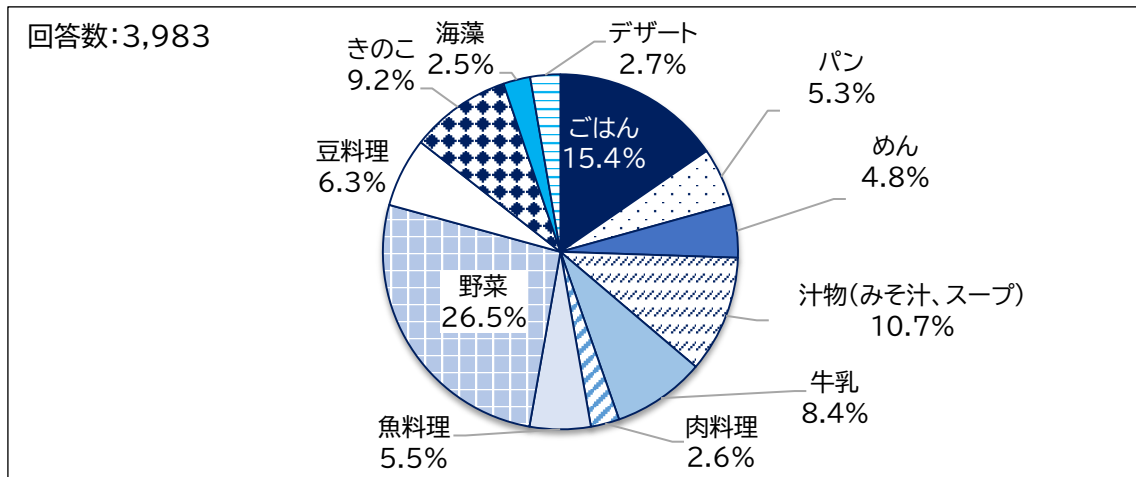
提供方式別クロス集計



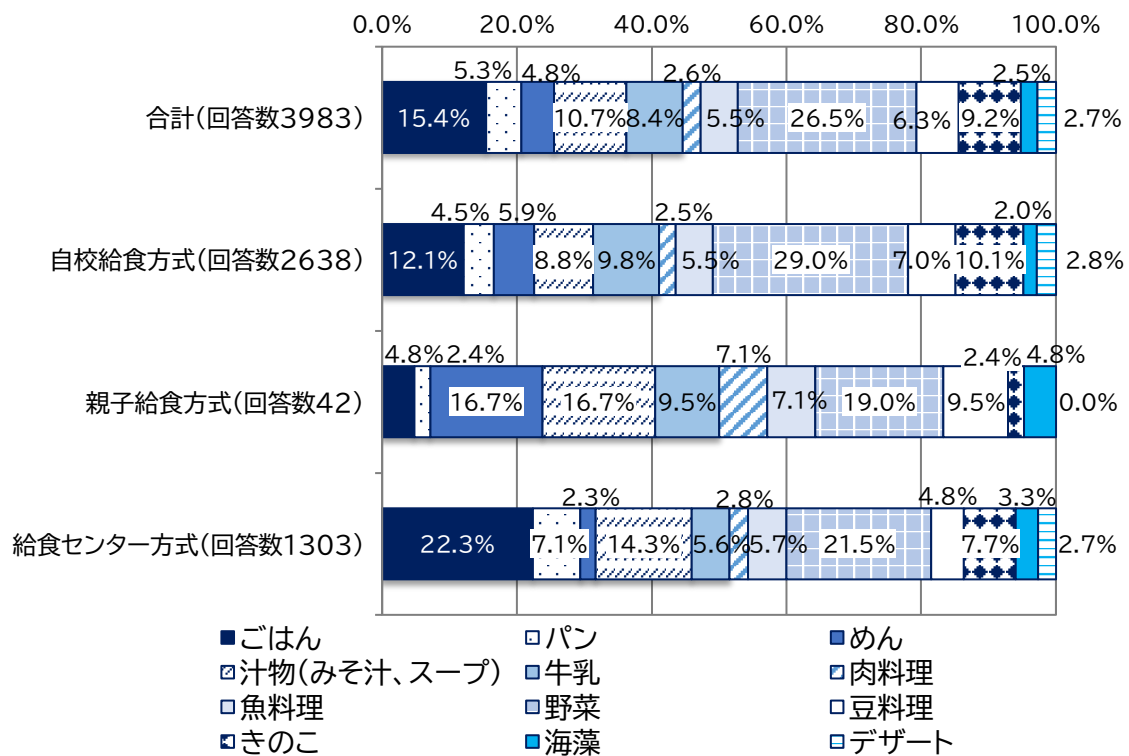
【まとめ】

- ・給食を「いつも残さずに食べている」と回答した児童生徒は、全体の 55.8%となっています。
- ・「できるだけ残さずに食べようと思っているが、ときどき残すことがある」と回答した児童生徒は、全体の 34.3%となっています。
- ・提供方式別にみると、「いつも残さずに食べている」と回答した児童生徒の割合が、最も多い提供方式は、親子給食方式の 70.0%で、全体(55.8%)と比較して、14.2 ポイントも上回っています。
- ・給食センター方式の回答をみると、「できるだけ残さずに食べようと思っているが、いつも食事を残す」と回答している児童生徒の割合が、11.4%であり、全体(8.4%)と比較すると、3.0 ポイント上回っています。

(3) 給食を残すとき、一番残すものはどれですか。((2)で「給食を残さない」以外の回答をした児童生徒・単一回答)

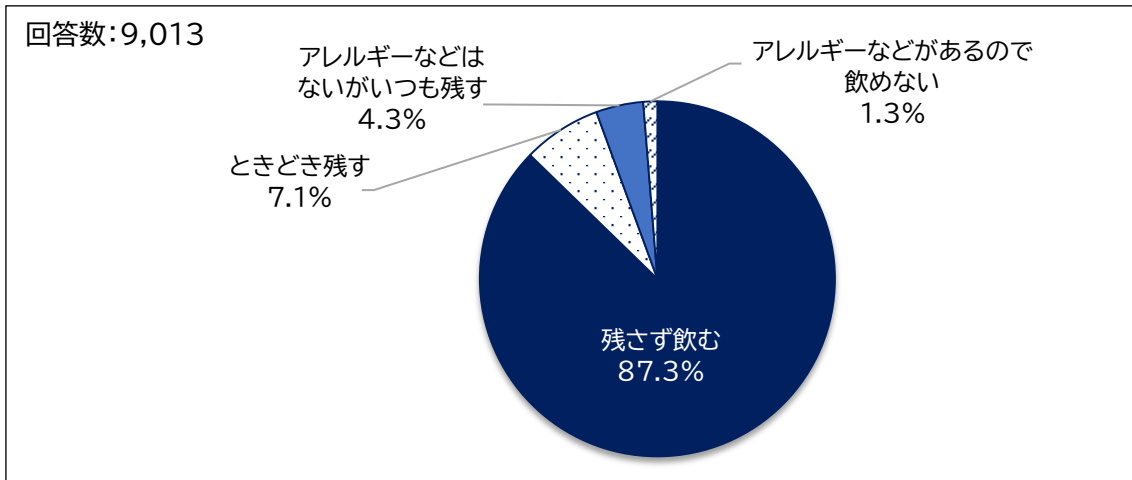


提供方式別クロス集計

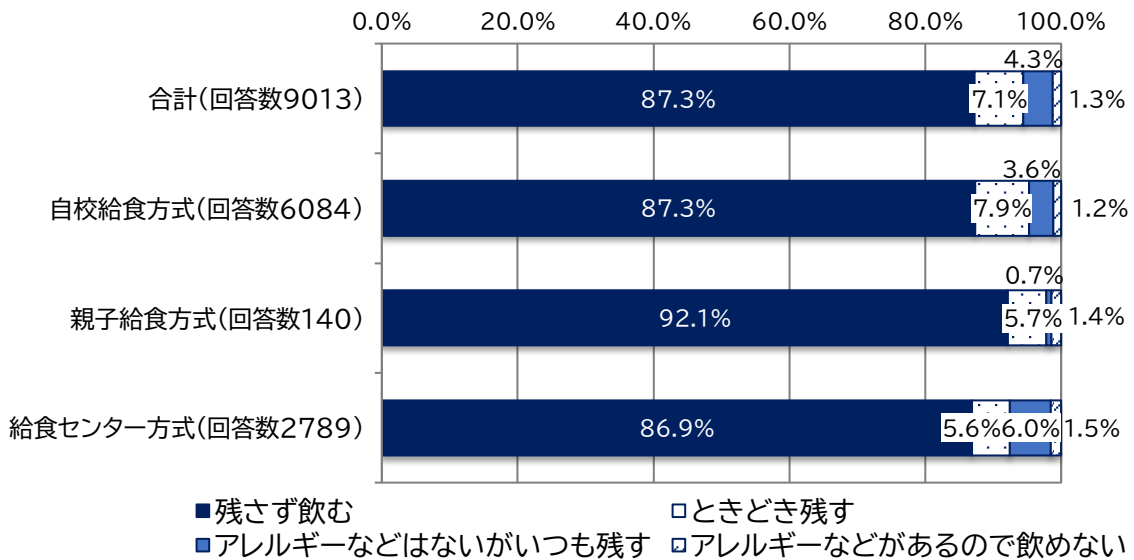


【まとめ】
 ・給食を残すとき、一番残すものとして多かった項目は、「野菜」で全体の 26.5%、次に「ごはん」で全体の 15.4%、「汁物(みそ汁、スープ)」で全体の 10.7%となっています。
 ・提供方式別にみると、「野菜」と回答した児童生徒の割合が最も多い提供方式は、自校給食方式で 29.0%、次に給食センター方式で 21.5%となっています。
 ・「ごはん」と回答した児童生徒の割合が最も多い提供方式は、給食センター方式で 22.3%、最も少ない提供方式は、親子給食方式で 4.8%です。

(4)-1 給食の牛乳を飲んでいきますか。(単一回答)



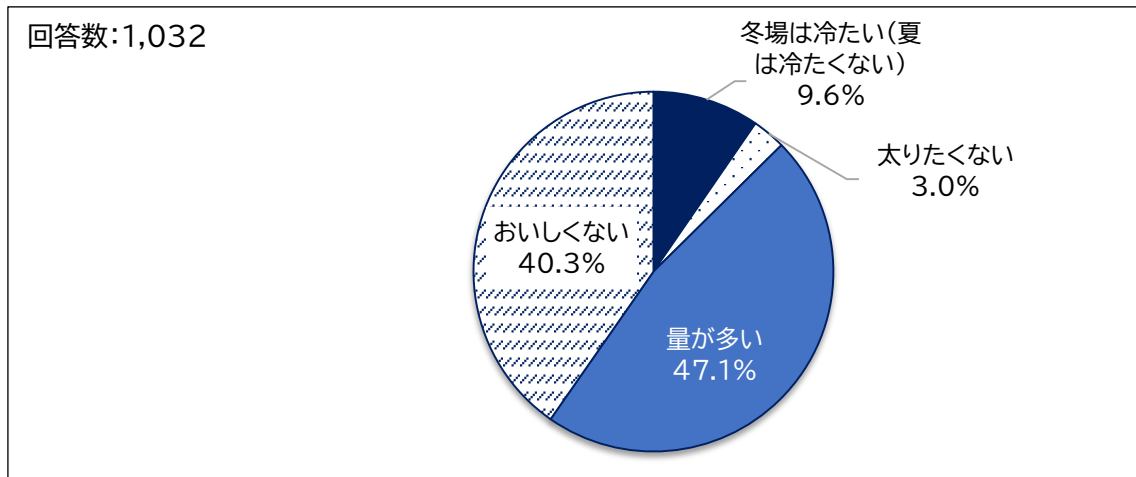
提供方式別クロス集計



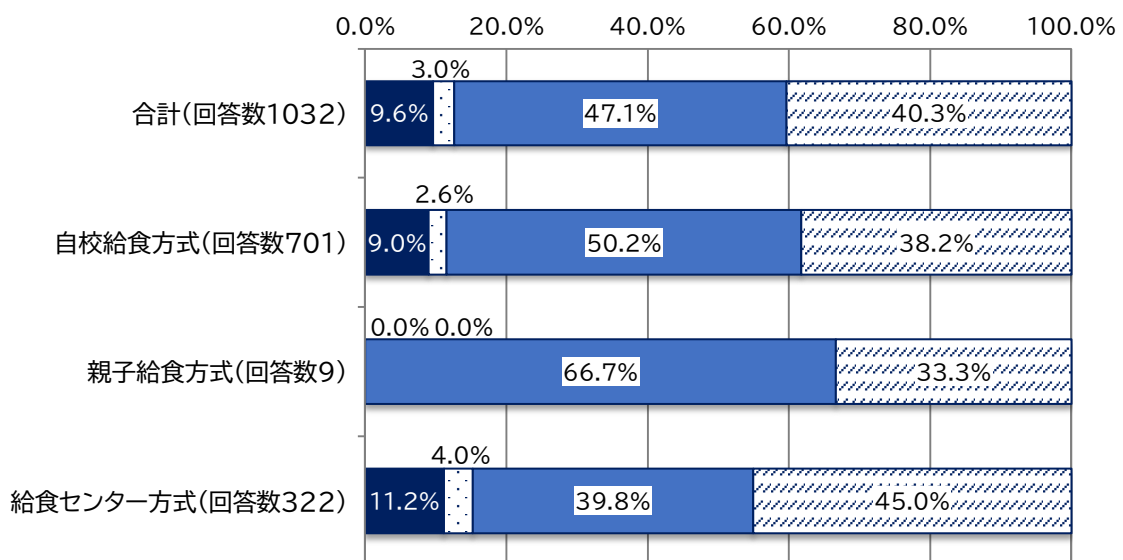
【まとめ】

- ・給食の牛乳を「残さず飲む」と回答した児童生徒は、全体の 87.3%です。
- ・給食の牛乳を「ときどき残す」と「アレルギーなどはないが、いつも残す」と回答した児童生徒は、全体の 11.4%です。
- ・提供方式別にみると、「残さず飲む」と回答した児童生徒の割合が最も多い提供方式は、親子給食方式で、全体の 92.1%です。全体(87.3%)と比較すると、4.8 ポイント上回っています。
- ・給食センター方式の回答をみると、「アレルギーなどはないがいつも残す」と回答している児童生徒の割合が 6.0%となっており、全体(4.3%)と比較すると、1.7 ポイント上回っています。

(4)-2 給食の牛乳を残す一番の理由を教えてください。((4)-1 で「ときどき残す」「アレルギーなどはないがいつも残す」と回答した児童生徒のみ・単一回答)



提供方式別クロス集計



■冬場は冷たい(夏は冷たくない) □太りたくない ■量が多い □おいしくない

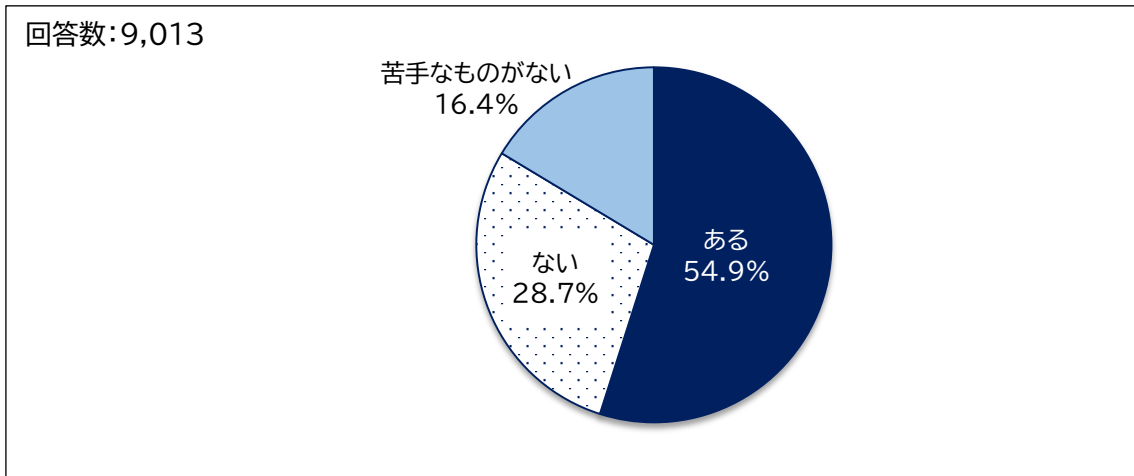
【まとめ】

・給食の牛乳を残す一番の理由として、「量が多い」と回答した児童生徒が、全体の 47.1%、「おいしくない」と回答した児童生徒が、全体の 40.3%となっています。

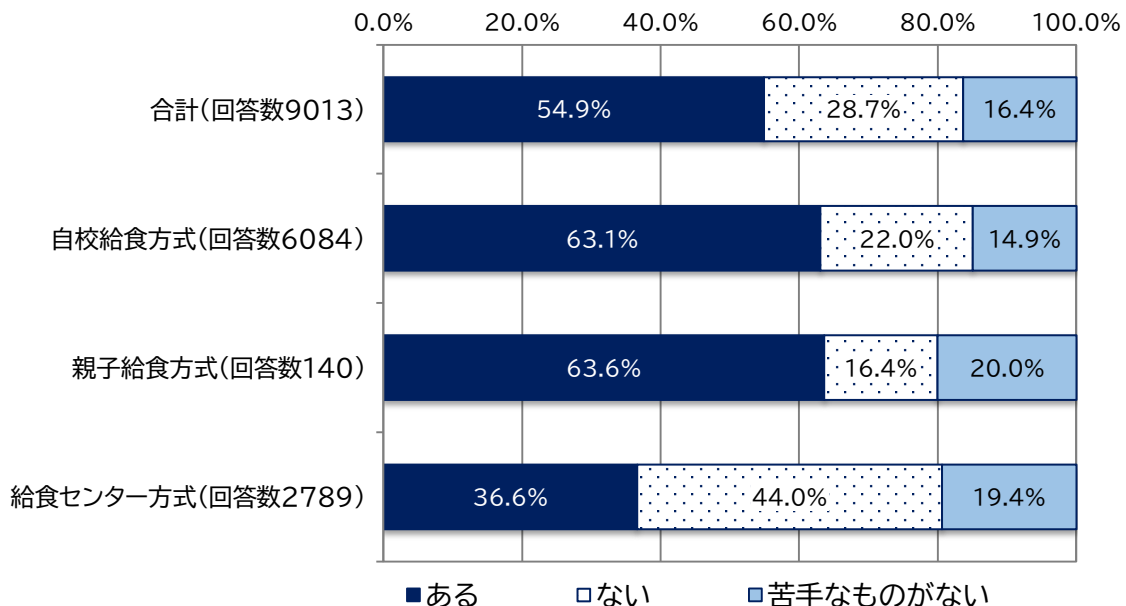
・提供方式別にみると、「量が多い」と回答した児童生徒の割合が最も多い提供方式は、親子給食方式で 66.7%となっており、全体(47.1%)と比較すると、19.6 ポイント上回っています。

・給食センター方式をみると、「おいしくない」と回答している児童生徒の割合が最も多く 45.0%となっています。さらに、「冬場は冷たい(夏は冷たくない)」と回答している児童生徒の割合が、11.2%となっており、全体(9.6%)と比較して、1.6 ポイント上回っています。

(5) 給食を通じて苦手だったもので食べられるようになったものがありますか。(単一回答)



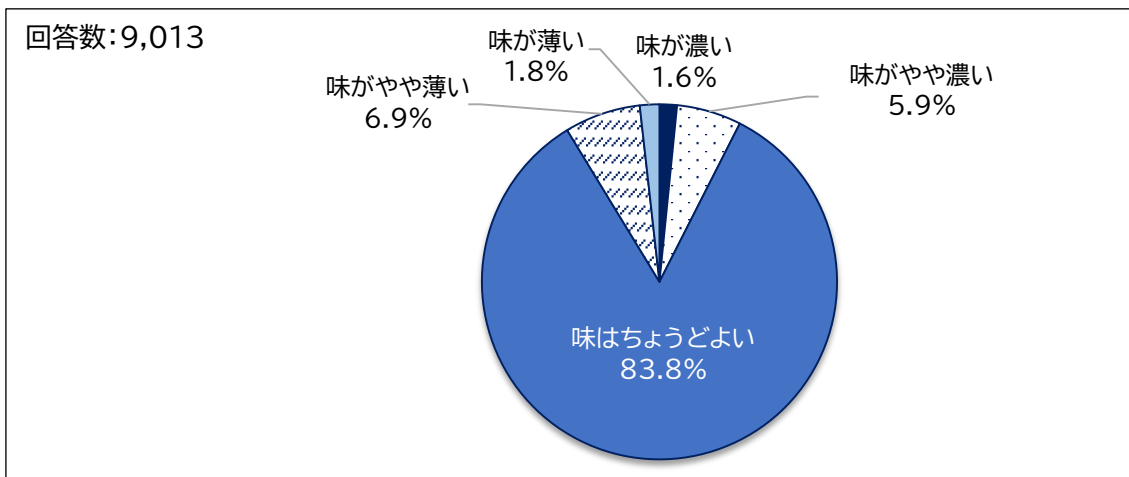
提供方式別クロス集計



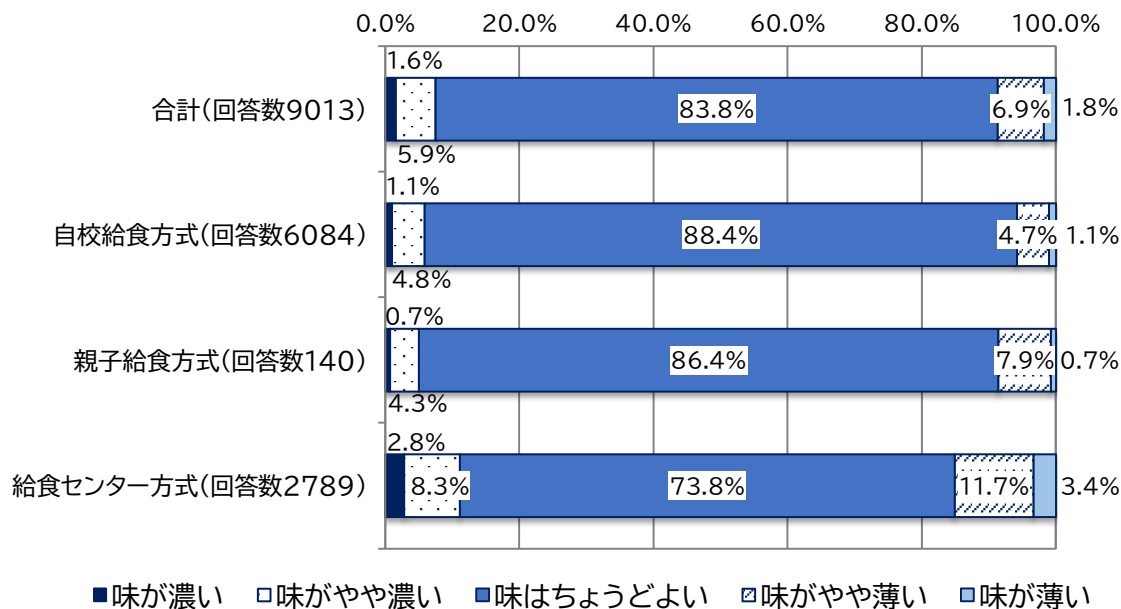
【まとめ】

- ・給食を通じて苦手だったもので食べられるようになったものが「ある」と回答した児童生徒は、全体の54.9%となっています。
- ・提供方式別にみると、給食を通じて苦手だったもので食べられるようになったものが「ある」と回答した児童生徒の割合が最も多い提供方式は、親子給食方式の63.6%で、全体(54.9%)と比較して8.7ポイント上回っています。
- ・給食センター方式をみると、給食を通じて苦手だったもので食べられるようになったものが「ない」と回答した児童生徒の割合が、44.0%となっており、「ある」と回答した児童生徒の割合(36.6%)と比較すると、7.4%上回っています。

(6) 給食の味付けについて教えてください。(単一回答)



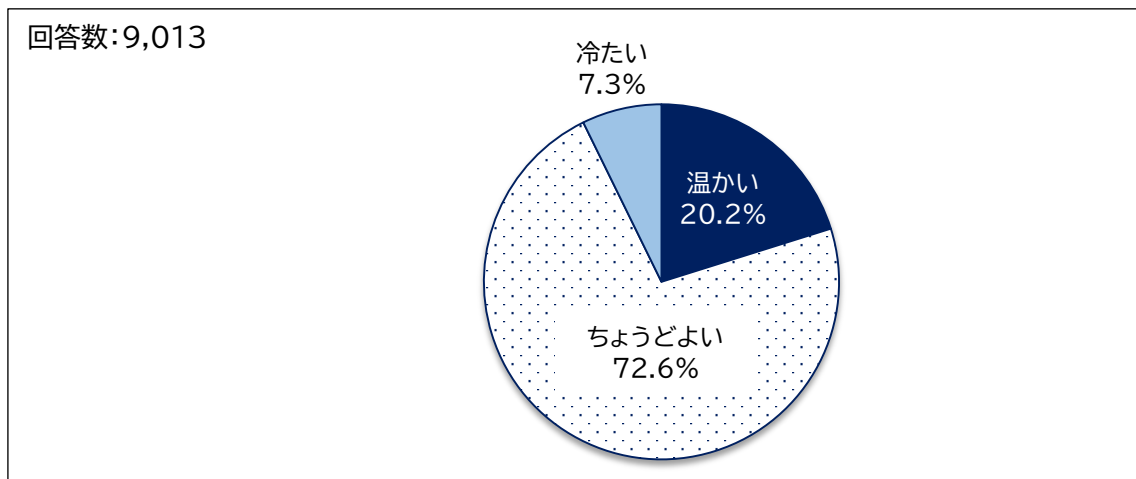
提供方式別クロス集計



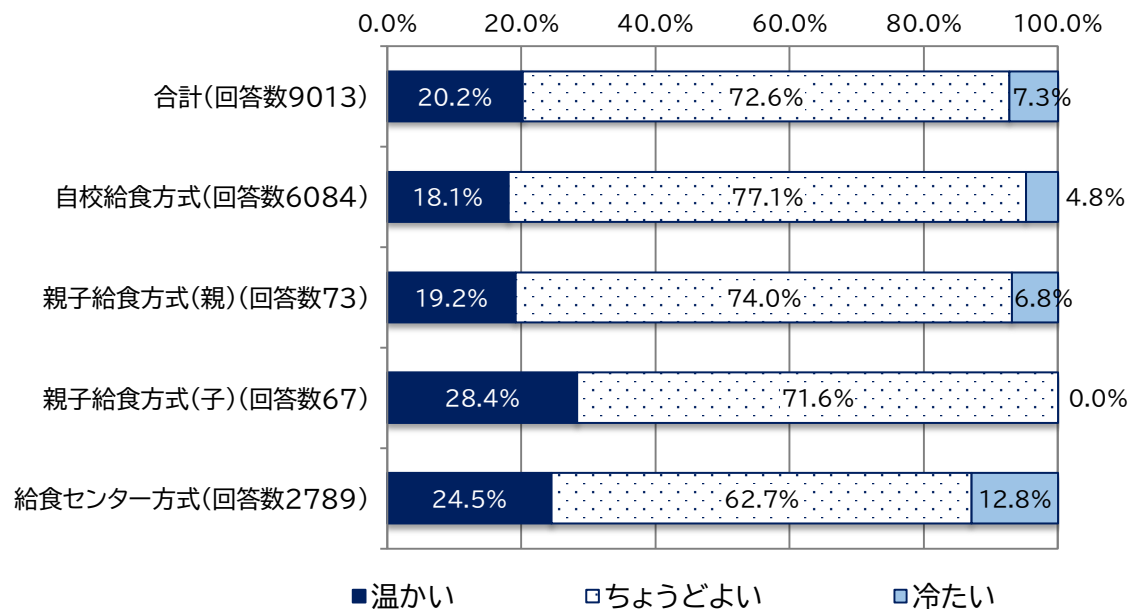
【まとめ】

- ・給食の味付けについて「味はちょうどよい」と回答した児童生徒は、全体の 83.8%となっています。
- ・給食センター方式で提供を受けている児童生徒の回答割合をみると、「味はちょうどよい」と回答した割合は、73.8%で他の提供方式と比較すると、最も割合が低いです。
- ・給食センター方式で「味がやや薄い」と回答している児童生徒の割合は、11.7%、「味がやや濃い」と回答している児童生徒の割合は、8.3%となっています。

(7) 給食の温度について教えてください。(単一回答)



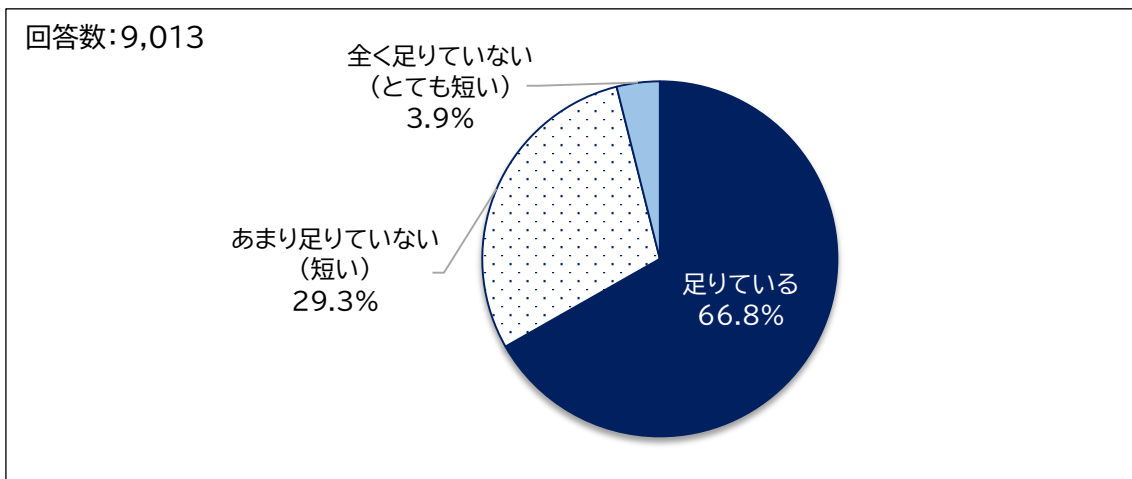
提供方式別クロス集計



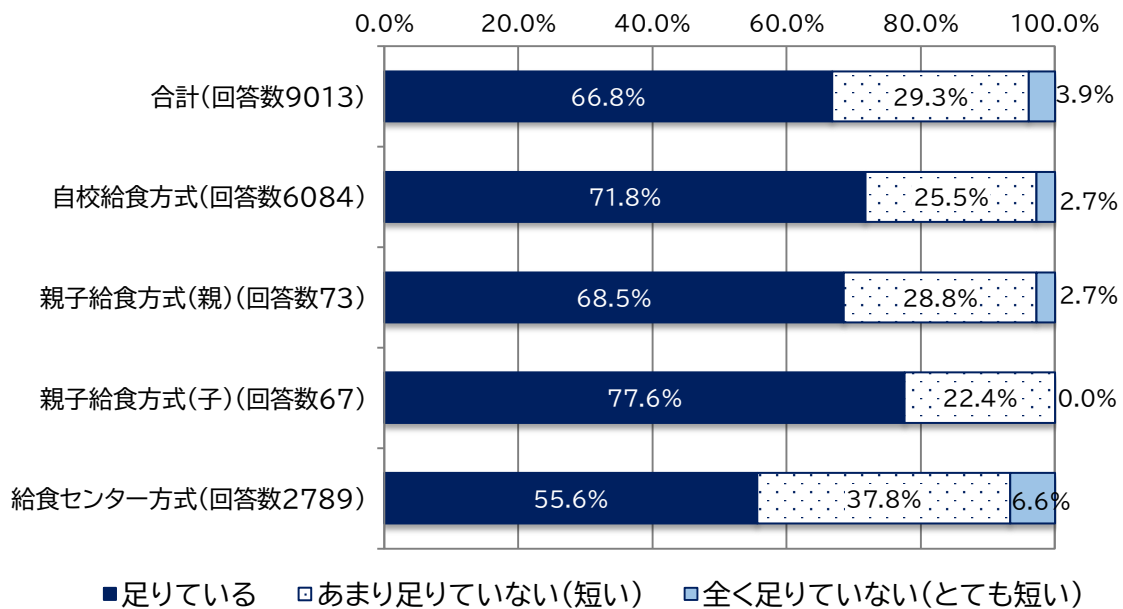
【まとめ】

- ・給食の温度について「ちょうどよい」と回答している児童生徒は、全体の72.6%となっています。
- ・給食センター方式をみると、給食の温度について、「ちょうどよい」と回答している割合が62.7%、「温かい」と回答している割合が、24.5%、「冷たい」と回答している割合が、12.8%となっています。
- ・親子給食方式(子校)をみると、「冷たい」と回答している割合は、0.0%です。

(8) 給食を食べる時間は足りていますか。(単一回答)



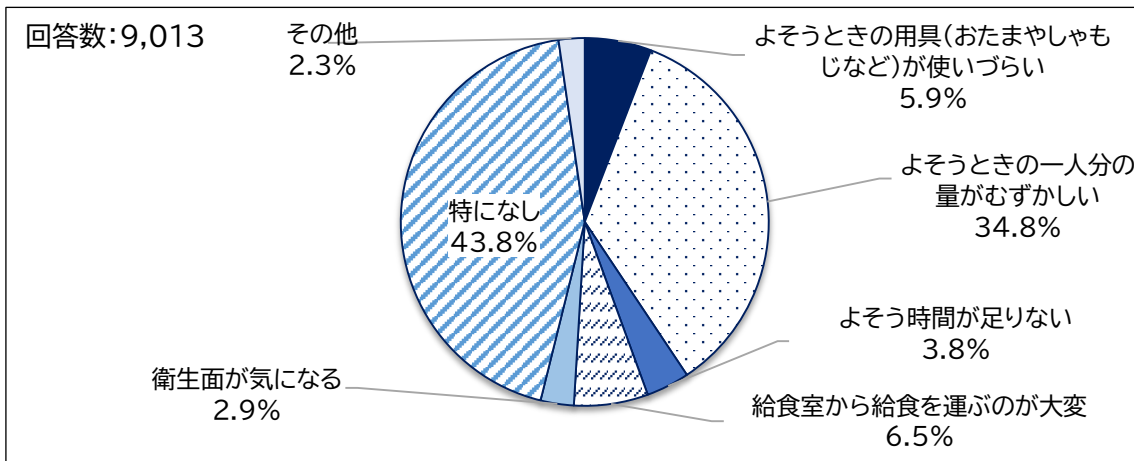
提供方式別クロス集計



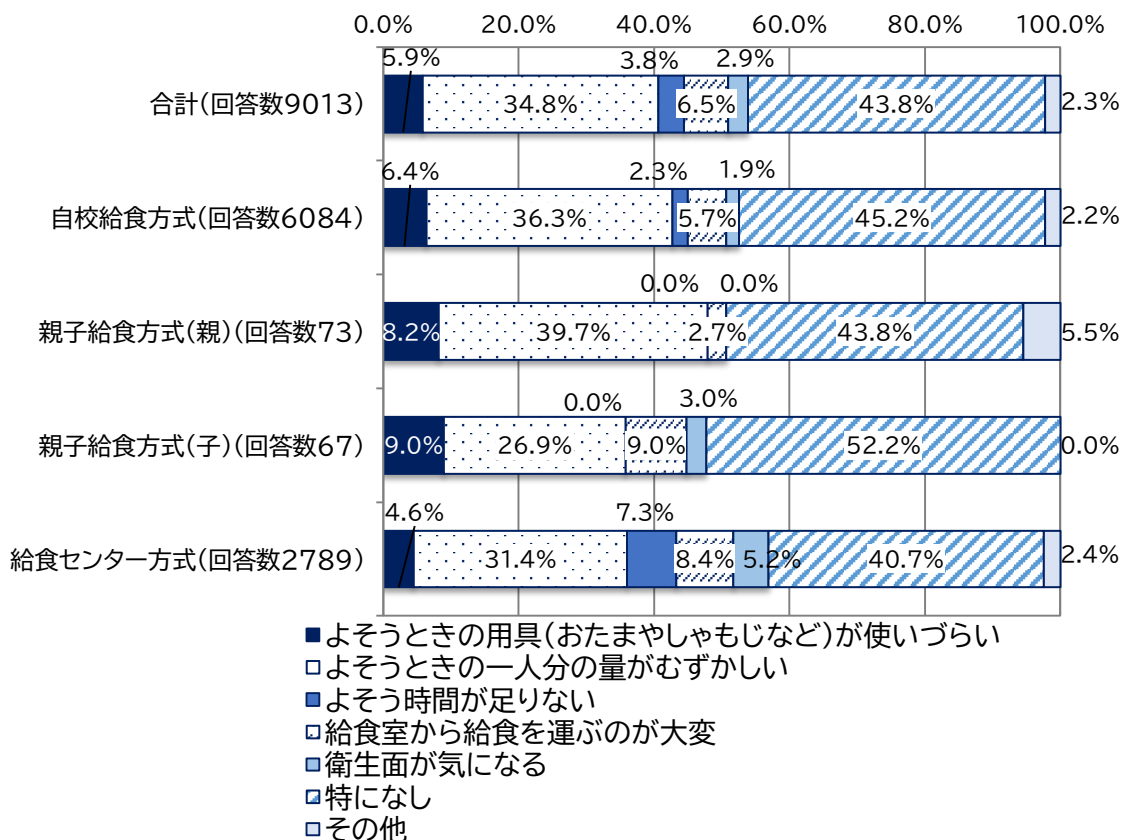
【まとめ】

- ・給食を食べる時間は、「足りている」と回答した児童生徒は、全体の 66.8%で、「あまり足りていない(短い)」は、全体の 29.3%、「全く足りていない(とても短い)」は、全体の 3.9%となっています。
- ・給食センター方式をみると、給食を食べている時間は、「足りている」と回答した児童生徒は、全体の 55.6%、「あまり足りていない(短い)」と「全く足りていない(とても短い)」と回答した児童生徒は、全体の 44.4%となっています。
- ・親子給食方式(子校)をみると、給食を食べている時間が、「全く足りていない(とても短い)」と回答した児童生徒は、0.0%となっています。

(9) 給食当番のときに一番困っていることを教えてください。(単一回答)



提供方式別クロス集計

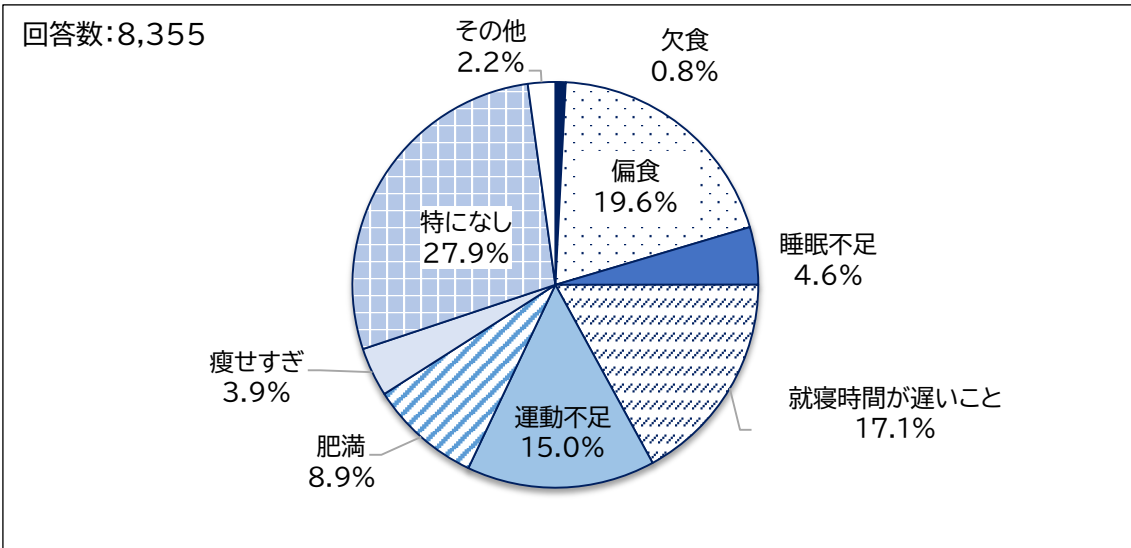


【まとめ】

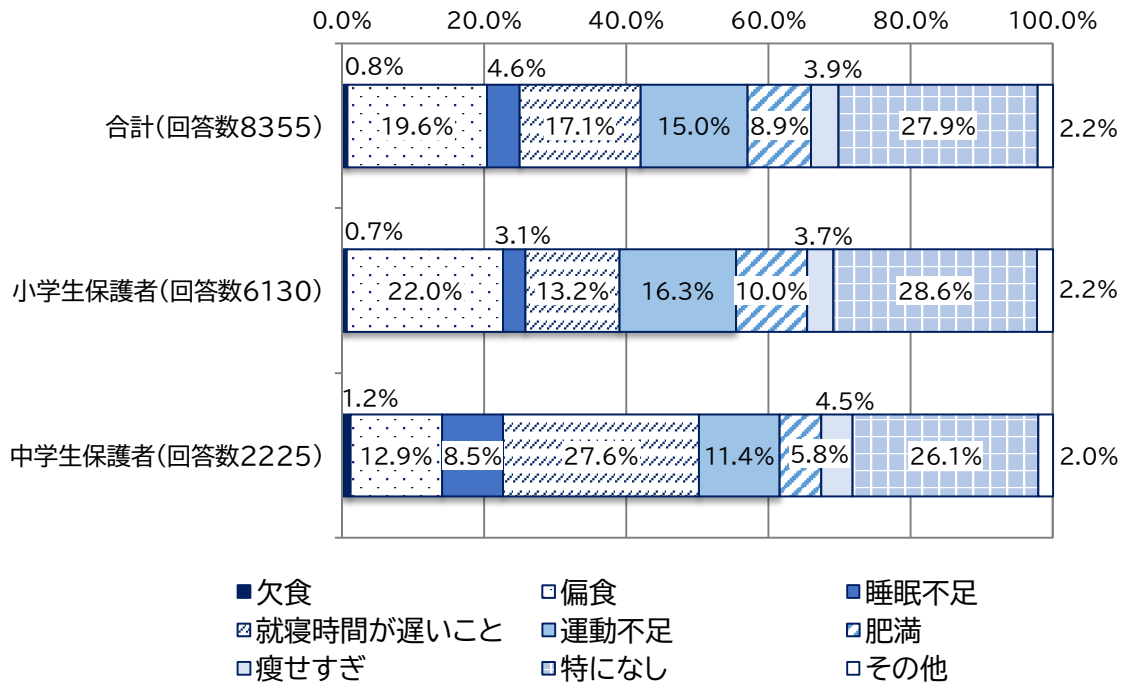
- ・給食当番のときに、なにか困っていることがあると回答している児童生徒は、全体の 56.2% で、「特になし」と回答している児童生徒は、全体の 43.8% となっています。
- ・給食センター方式をみると、「給食室から給食を運ぶのが大変」が 8.4% で、全体(6.5%)と比較すると、1.9 ポイント上回っています。
- ・給食センター方式をみると、「衛生面が気になる」と回答している児童生徒の割合が、5.2% で、全体(2.9%)と比較すると、2.3 ポイント上回っています。
- ・その他の理由としては、「左利き用の用具がない」や「エプロン/給食着」が挙げられています。

3 保護者向け調査の結果

問1 お子さんの生活習慣で心配なことは何ですか。(単一回答)



子どもの年齢別クロス集計

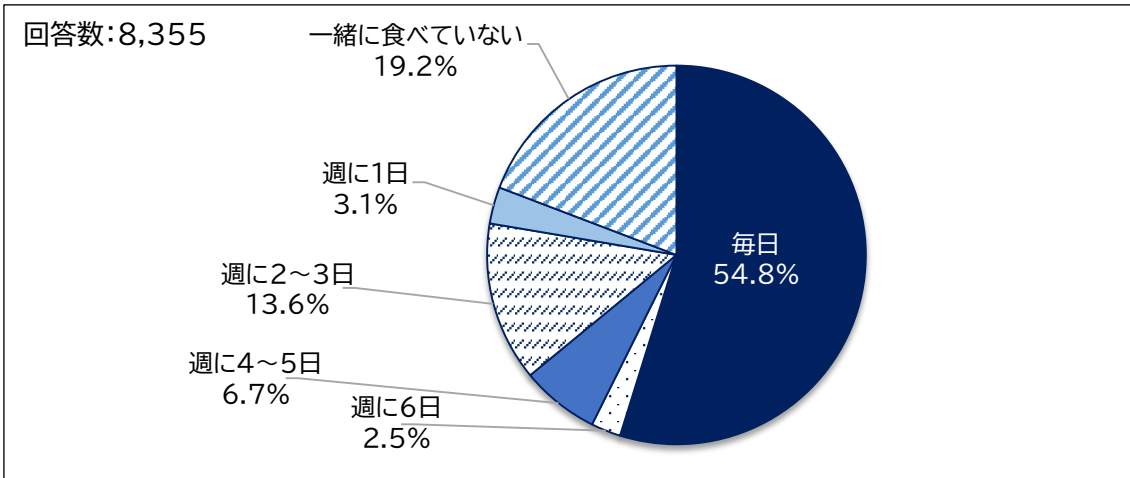


【まとめ】

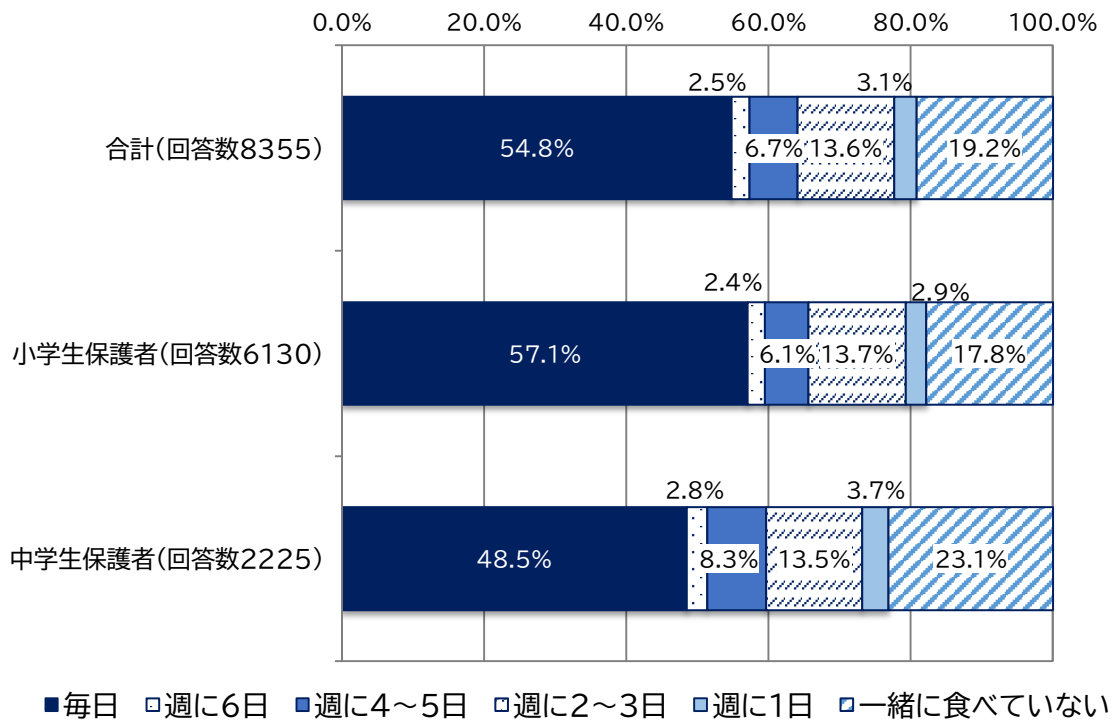
- ・お子さんの生活習慣で心配なことは、「特になし」と回答した保護者は、全体の 27.9%です。
- ・お子さんの生活習慣で心配なこととして、最も回答が多かった項目は、「偏食」で全体の 19.6%です。
- ・お子さんの年齢別でみると、小学生保護者が、生活習慣で心配していることとして、最も回答が多かった項目は、「偏食」で 22.0%、中学生保護者の場合は、「就寝時間が遅いこと」で 27.6%となっています。

問2

(1)あなたの家庭では、お子さんと一緒に朝食を食べていますか。(単一回答)



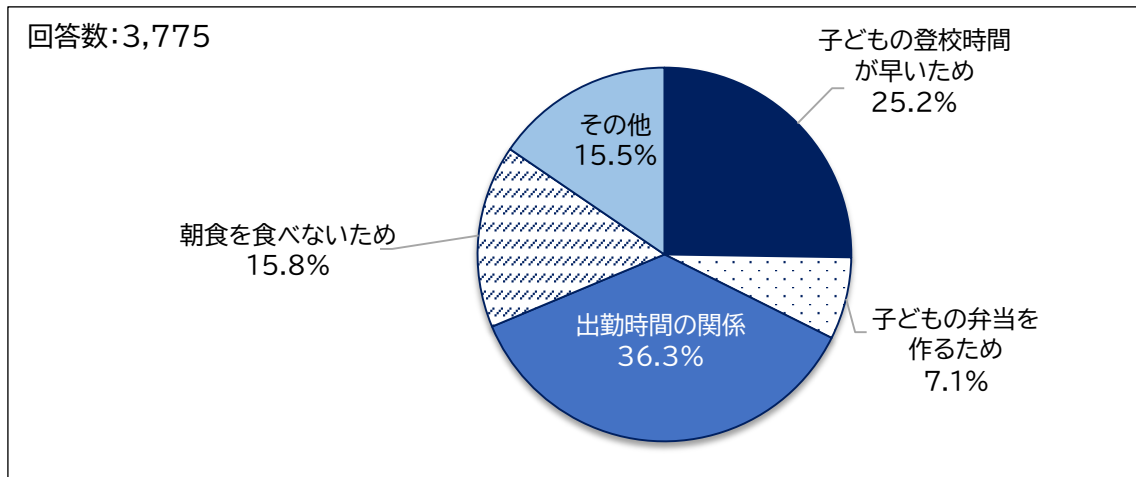
子どもの年齢別クロス集計



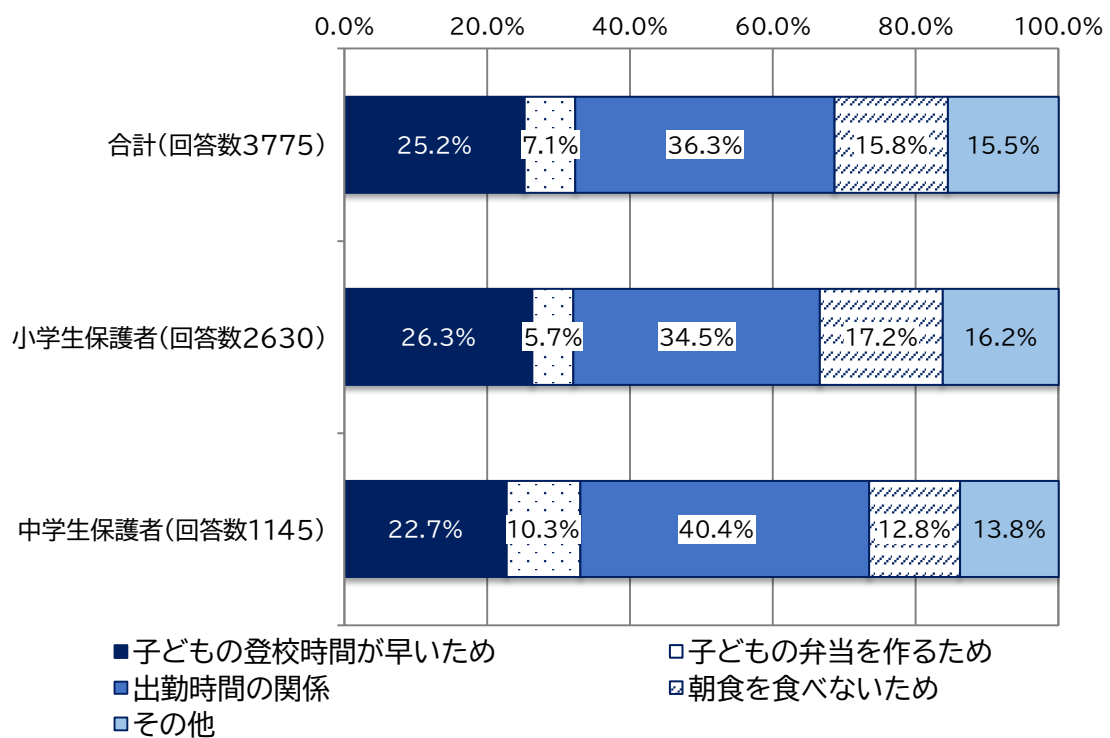
【まとめ】

・お子さんと「毎日」一緒に朝食を食べている家庭は、全体の 54.8%となっており、「一緒に食べていない」家庭は、全体の 19.2%となっています。
 ・お子さんの年齢別にみると、中学生保護者で「一緒に食べていない」と回答している割合は、23.1%で、小学校保護者(17.8%)と比較すると、5.3 ポイント上回っています。

(2)一緒に朝食を食べられない一番の理由は何ですか。(問 2(1)で「週に6日」「週に4～5日」「週に2～3日」「週に1日」「一緒に食べていない」と回答した保護者のみ・単一回答)



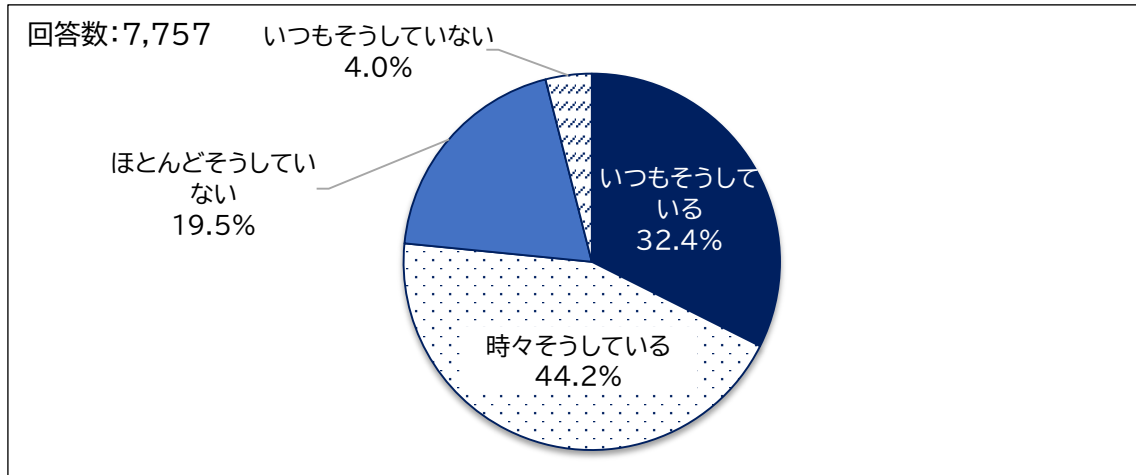
子どもの年齢別クロス集計



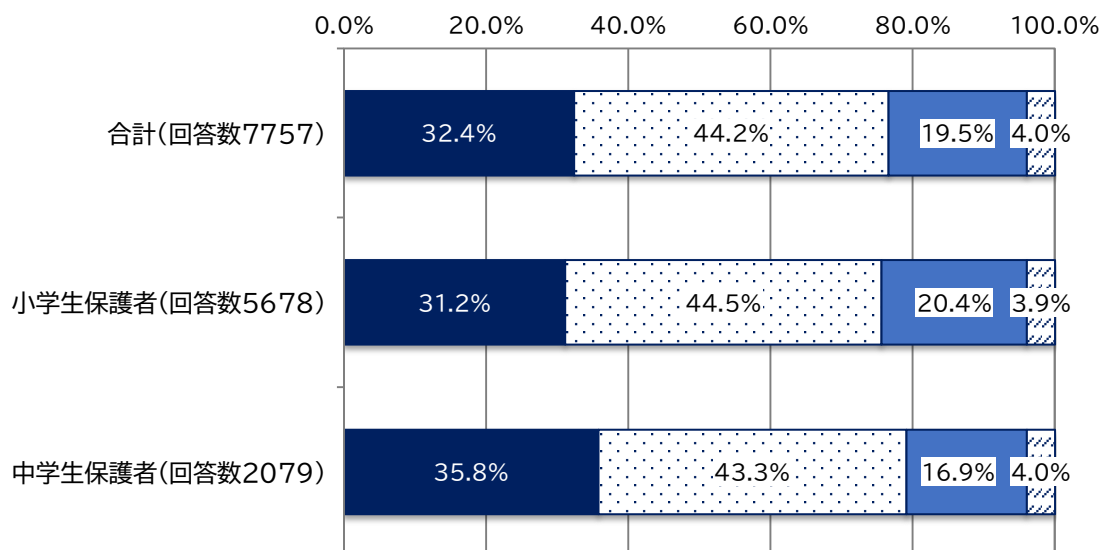
【まとめ】

・朝食を毎日一緒に食べられていないと回答した一番の理由で最も多かった項目は、「出勤時間の関係」で全体の36.3%となっています。
 ・お子さんの年齢別にみると、中学生保護者で「出勤時間の関係」と回答している割合は、40.4%で、小学校保護者(34.5%)と比較して、5.9ポイント上回っています。

(3)朝食では、主食(ごはんやパン、麺)と副食(おかず)のバランスを考えますか。(問2(1)で「毎日」「週に6日」「週に4～5日」「週に2～3日」「週に1日」と回答した保護者のみ・単一回答)



子どもの年齢別クロス集計



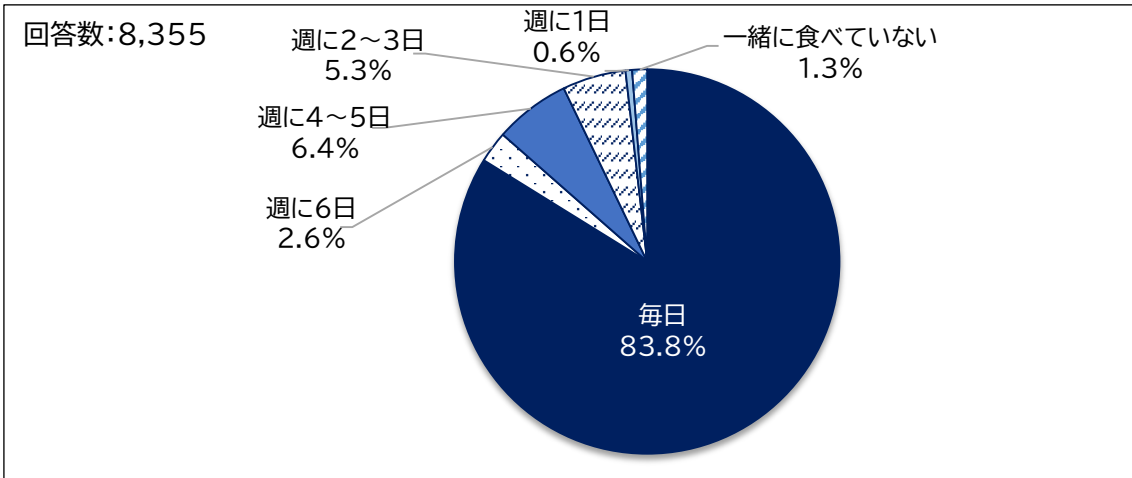
■いつもそうしている □時々そうしている ■ほとんどそうしていない □いつもそうしていない

【まとめ】

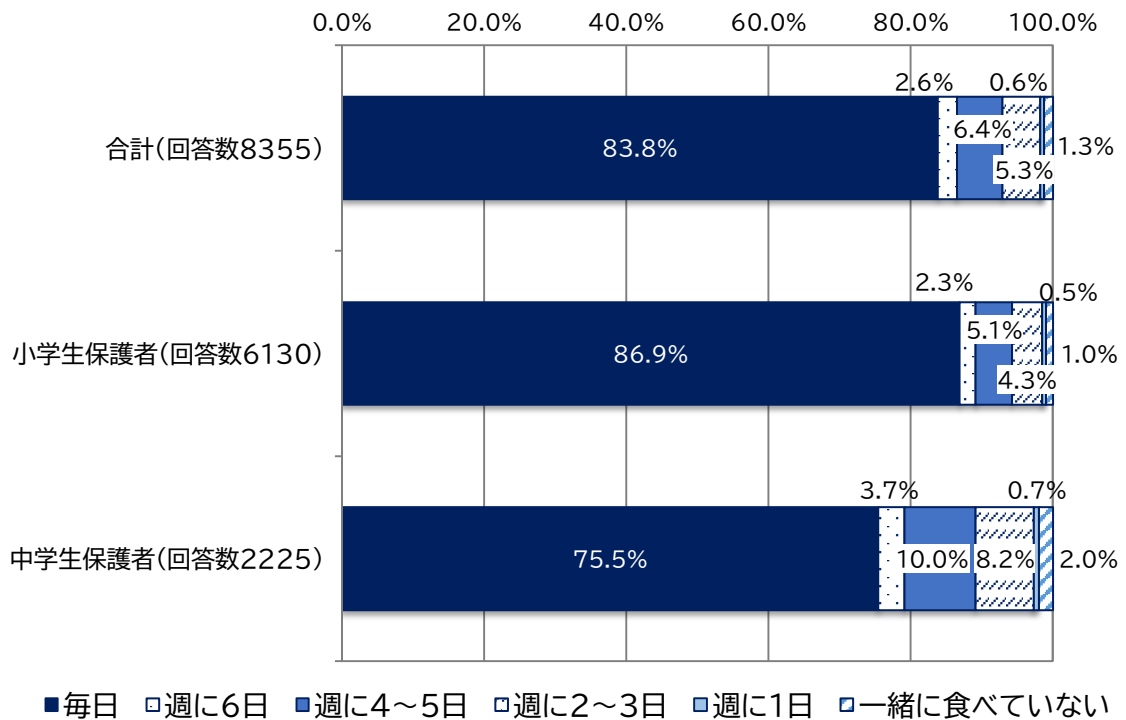
・主食と副食のバランスを「いつもそうしている(考えている)」と回答した保護者は、全体の32.4%、「時々そうしている」は、全体の44.2%で、合わせると全体の76.6%となっています。
 ・「ほとんどそうしていない」「いつもそうしていない」は、全体の23.5%となっています。
 ・お子さんの年齢別にみると、中学生保護者で「いつもそうしている」「時々そうしている」と回答している割合は、79.1%で、小学校保護者(75.7%)と比較すると、3.4ポイント上回っています。

問3

(1)あなたの家庭では、お子さんと一緒に夕食を食べていますか。(単一回答)



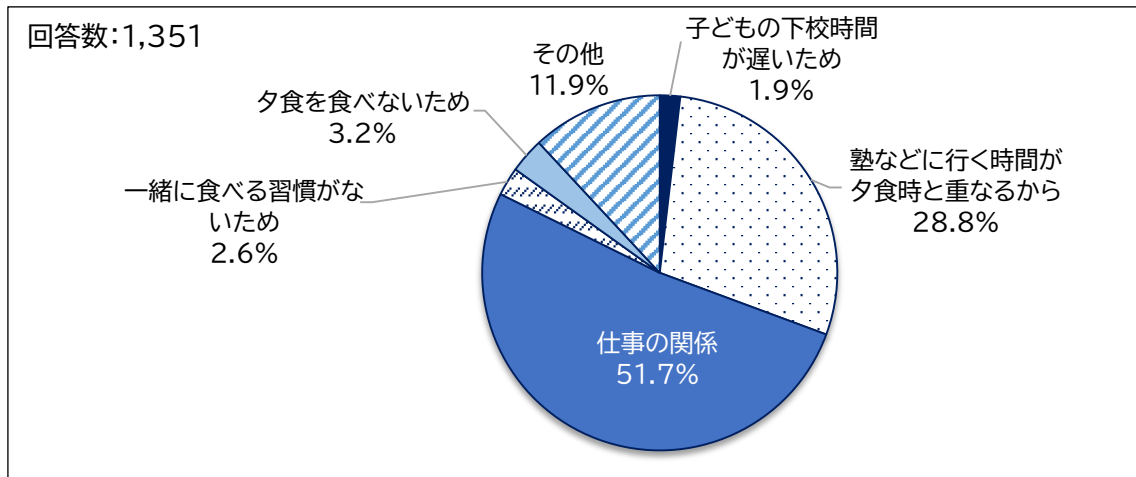
子どもの年齢別クロス集計



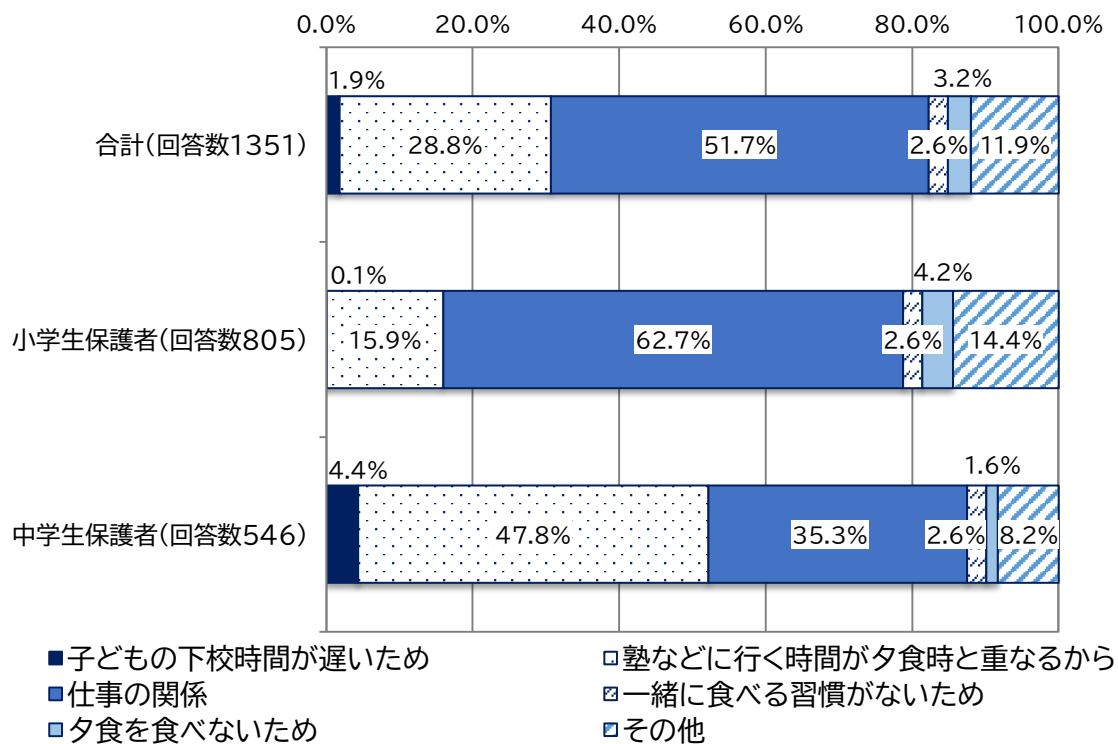
【まとめ】

・お子さんと「毎日」一緒に夕食を食べている家庭は、全体の 83.8%となっており、「週に 6 日」「週に 4~5 日」「週に 2~3 日」「週に 1 日」「一緒に食べていない」家庭は、全体の 16.2%となっています。

(2)一緒に夕食を食べられない一番の理由は何ですか。(問3(1)で「週に6日」「週に4～5日」「週に2～3日」「週に1日」「一緒に食べていない」と回答した保護者のみ・単一回答)



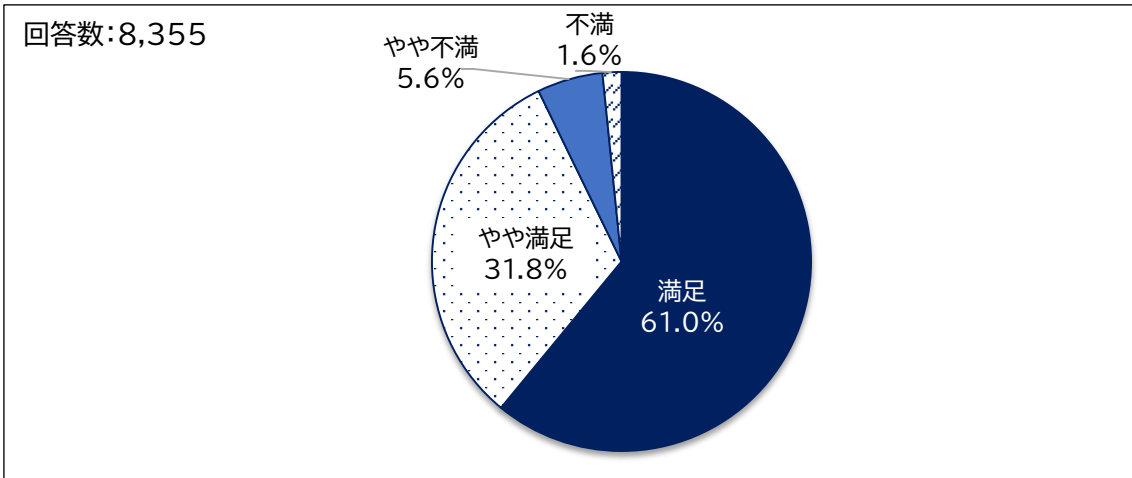
子どもの年齢別クロス集計



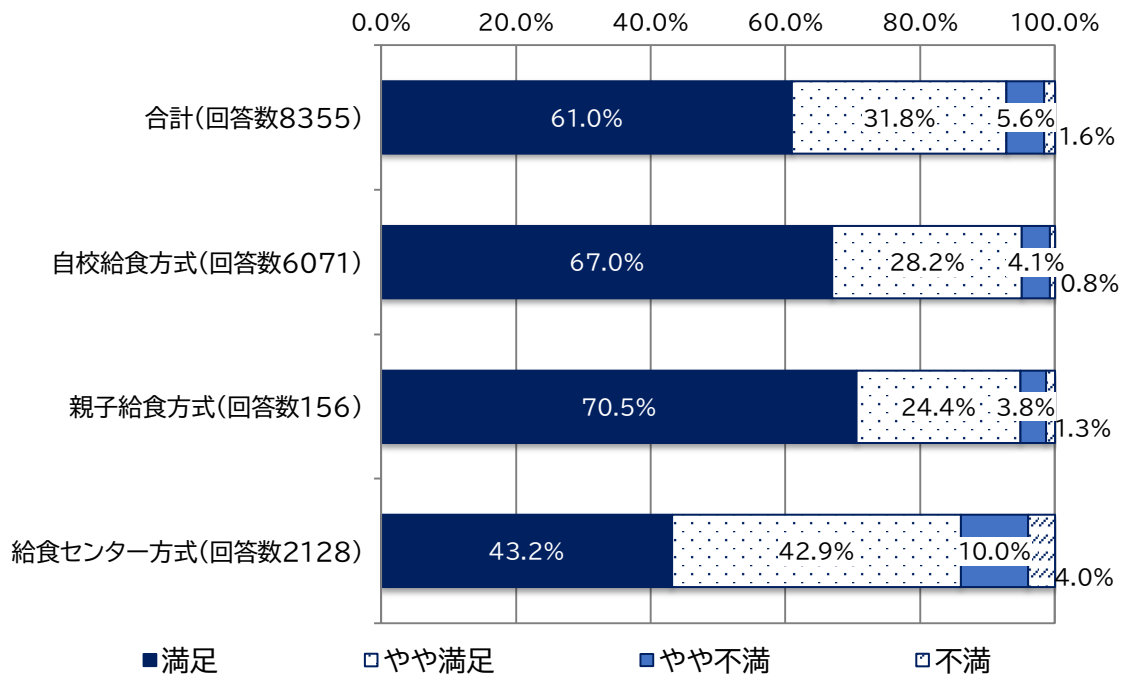
【まとめ】
 ・夕食を毎日一緒に食べられていないと回答した一番の理由で最も多かった項目は、「仕事の関係」で全体の 51.7%、次に多かった項目は、「塾などに行く時間が夕食時と重なるから」で全体の 28.8%となっています。
 ・お子さんの年齢別にみると、小学生保護者の回答で最も多かった項目は、「仕事の関係」で 62.7%、中学生保護者の回答で最も多かった項目は、「塾などに行く時間が夕食時と重なるから」で 47.8%となっています。

問4

(1)-1 現在の給食についてどのように思いますか。(単一回答)



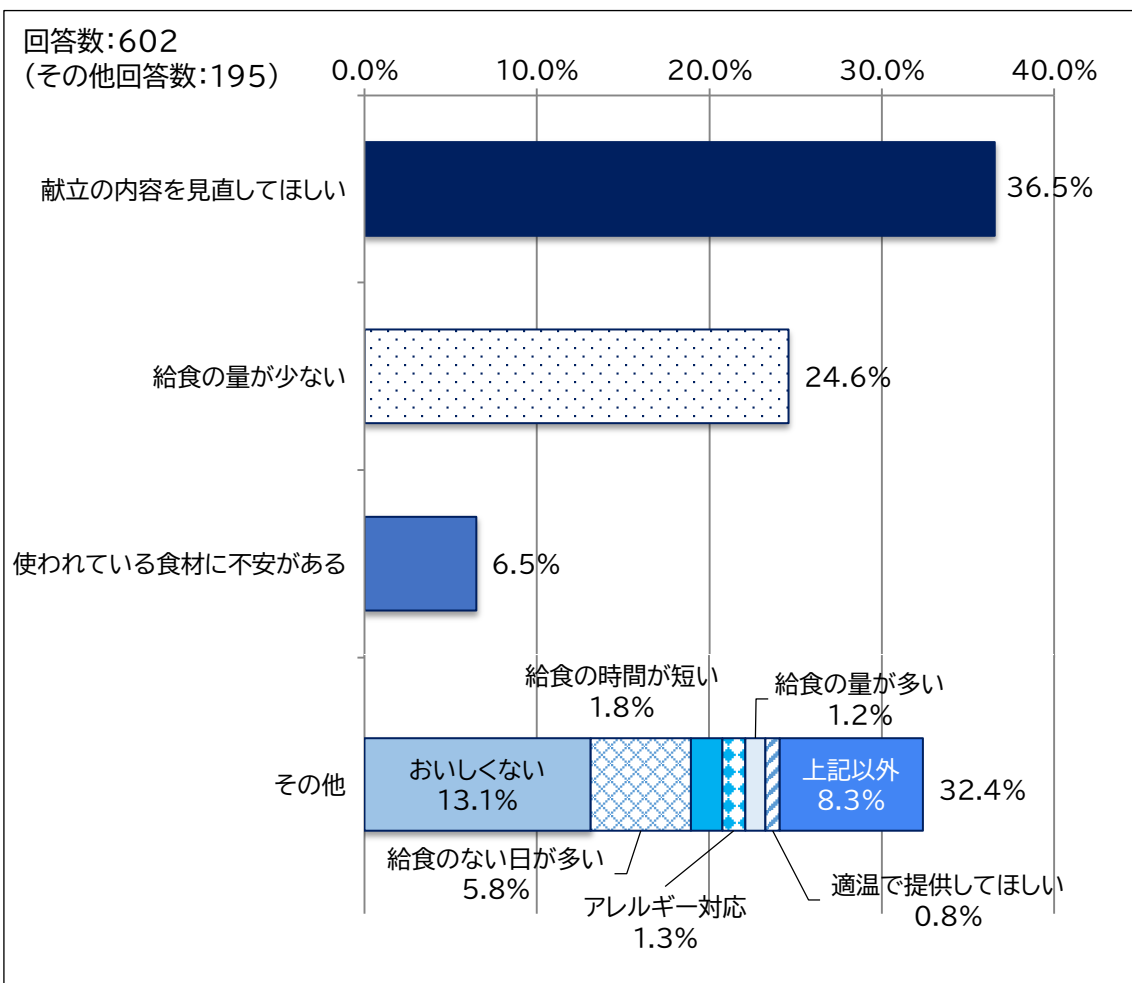
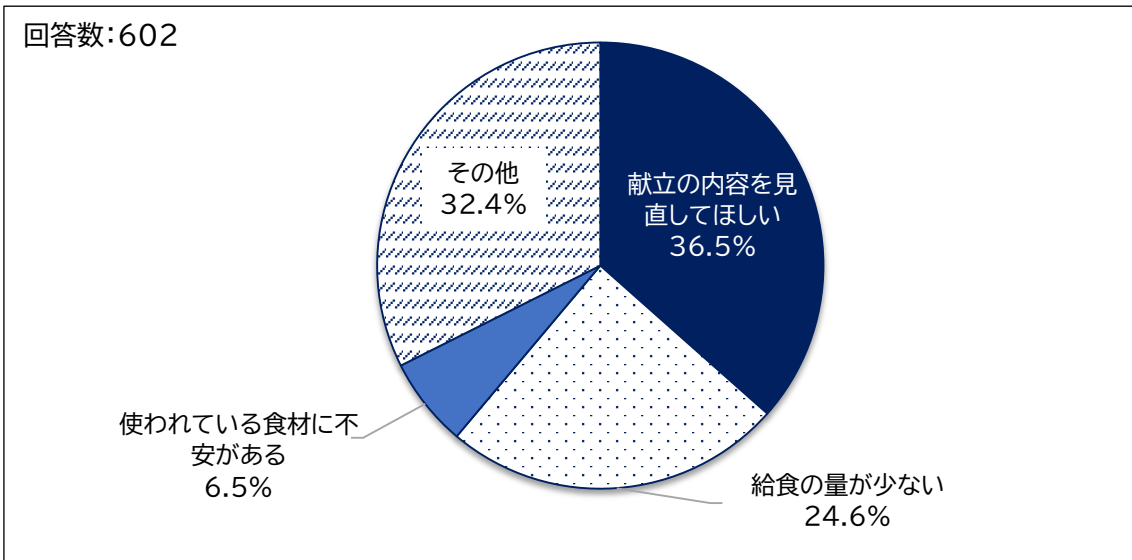
提供方式別クロス集計



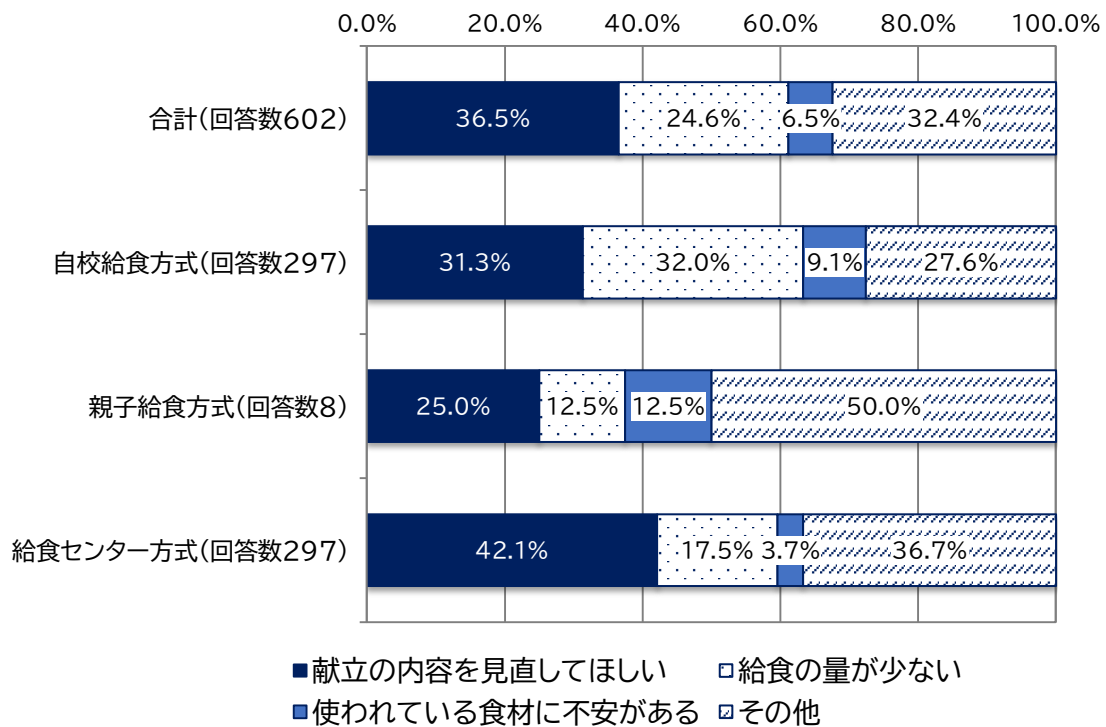
【まとめ】

- ・現在の給食について「満足」と感じている保護者は、全体の 61.0%、「やや満足」は、全体の 31.8%、合わせると、92.8%となっています。
- ・提供方式別にみると、親子給食方式の学校に通っているお子さんをお持ちの保護者が、自校給食方式、給食センター方式と比較し、「満足」と回答している割合が多く 70.5%となっています。
- ・給食センター方式の学校に通っているお子さんをお持ちの保護者の回答をみると、「満足」が 43.2%、「やや満足」が 42.9%、「やや不満」が 10.0%、「不満」が 4.0%となっています。

(1)-2 改善すべきだと思われる項目を選んでください。(問4(1)-1で「やや不満」「不満」と回答した保護者のみ・単一回答)



提供方式別クロス集計



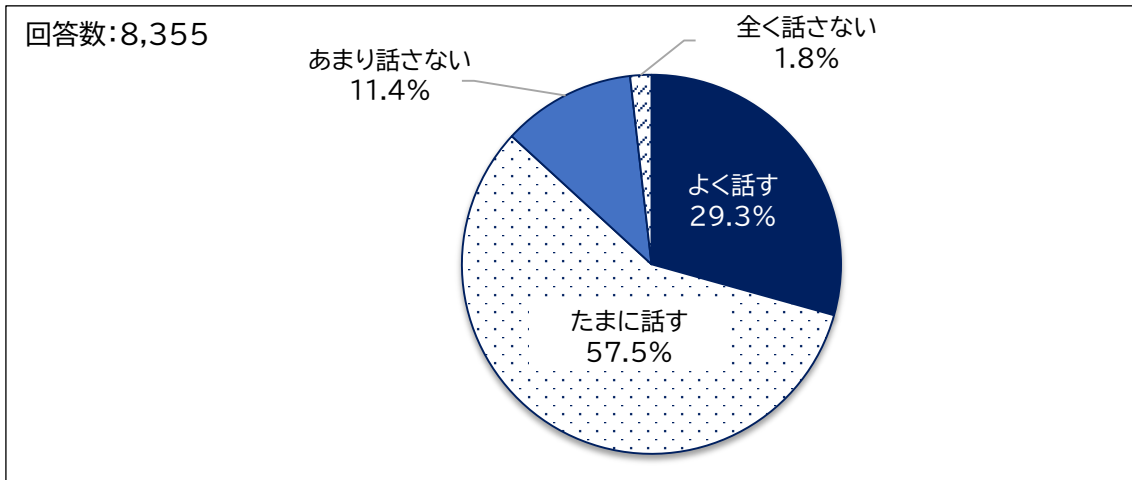
【まとめ】

・問 4(1)で「やや不満、不満」と回答した保護者へ、改善すべきだと思われる項目をきいてみると、最も多かった項目は、「献立の内容を見直してほしい」が全体の 36.5%、「給食の量が少ない」が 24.6%、「使われている食材に不安がある」が 6.5%となっています。

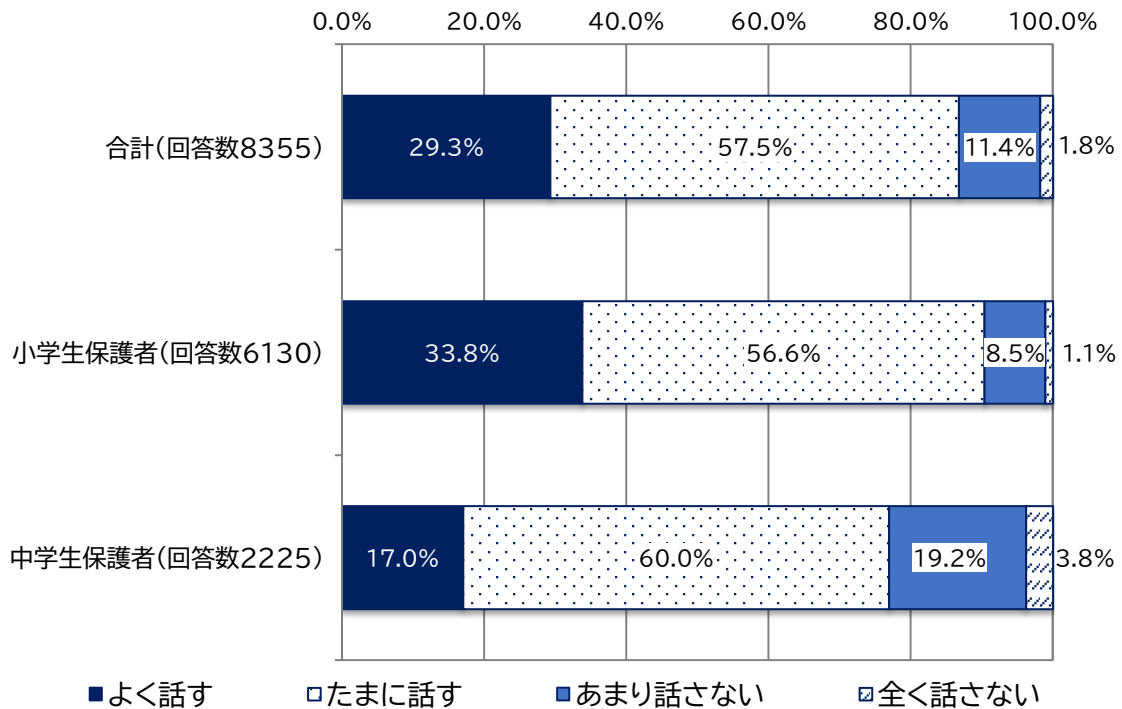
・その他の理由として多かった項目は、「おいしくない」が 13.1%「給食のない日が多い」が 5.8%などが挙がっています。

・給食センター方式の回答割合をみると、「献立の内容を見直してほしい」が 42.1%、「給食の量が少ない」が 17.5%、「使われている食材に不安がある」が 3.7%となっています。

(2)ご家庭で給食の話をしますか。(単一回答)



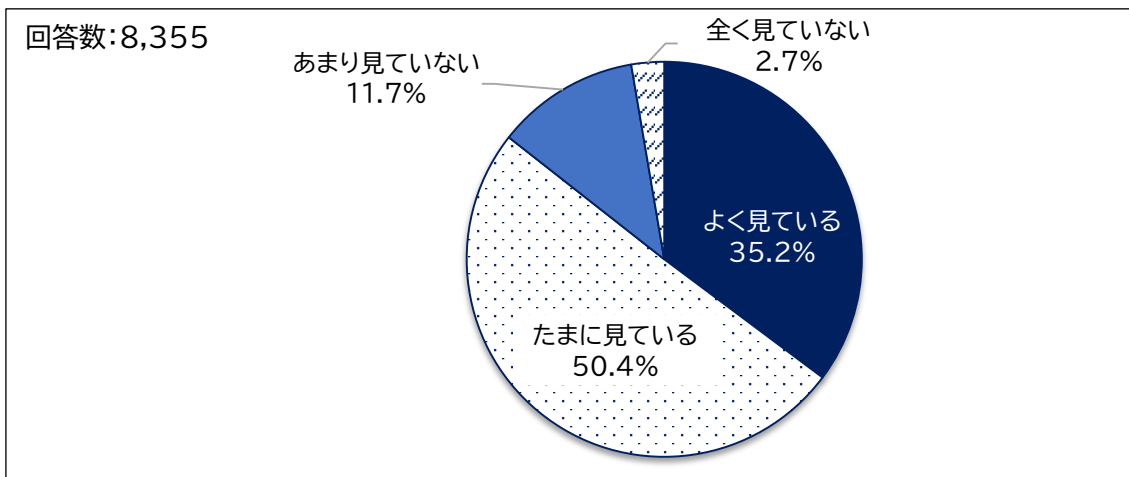
子どもの年齢別クロス集計



【まとめ】

・ご家庭で給食の話を「よく話す」と回答した保護者は、全体の 29.3%、「たまに話す」は、全体の 57.5%で合わせると全体の 86.8%となっています。
 ・お子さんの年齢別にみると、小学生保護者と中学生保護者を比較して、中学生保護者の方が給食の話を「あまり話さない」割合が 10.7 ポイント多くなっています。

(3)各家庭に配付している献立予定表を見ていますか。(単一回答)

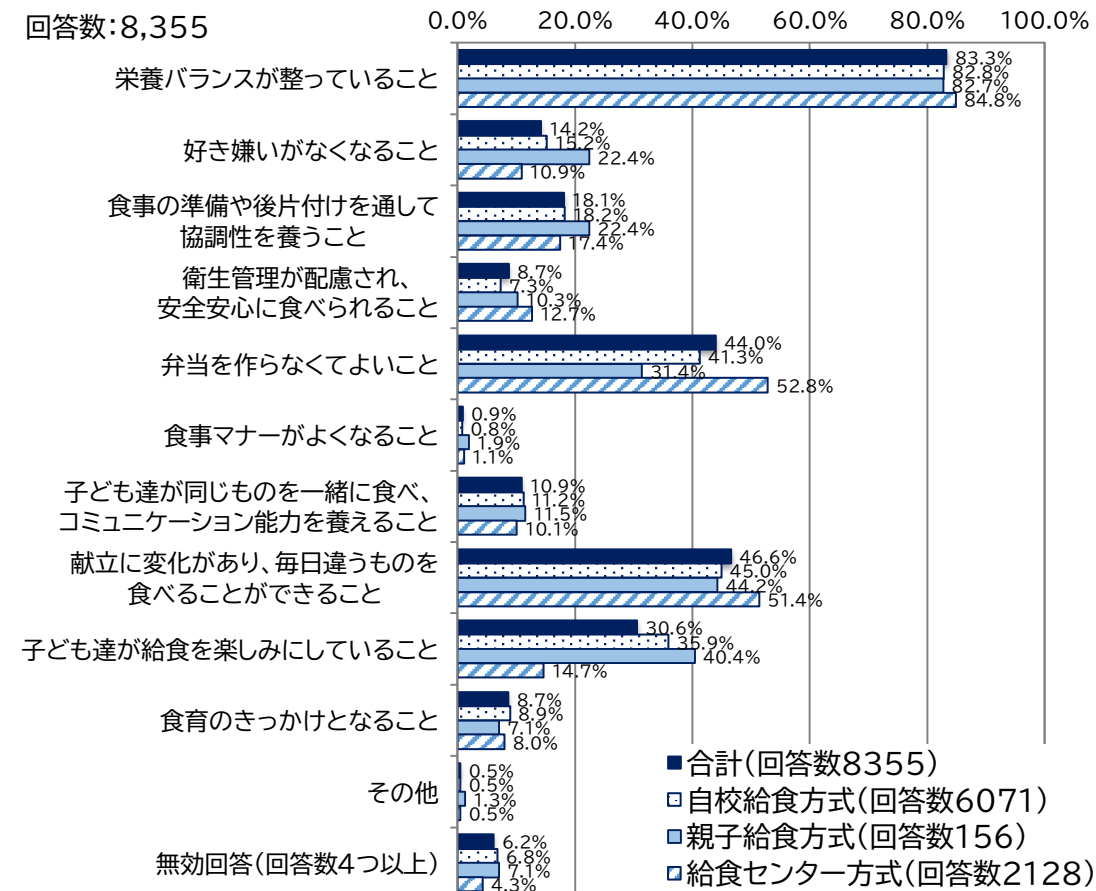


【まとめ】

・各家庭に配布している献立予定表を「よく見ている」と回答した保護者は、全体の 35.2%で、「たまに見ている」は、50.4%となっており、合わせると全体の 85.6%となっています。

(4)給食で良いと思うことは何ですか。(3つまで回答可)

提供方式別クロス集計



【まとめ】

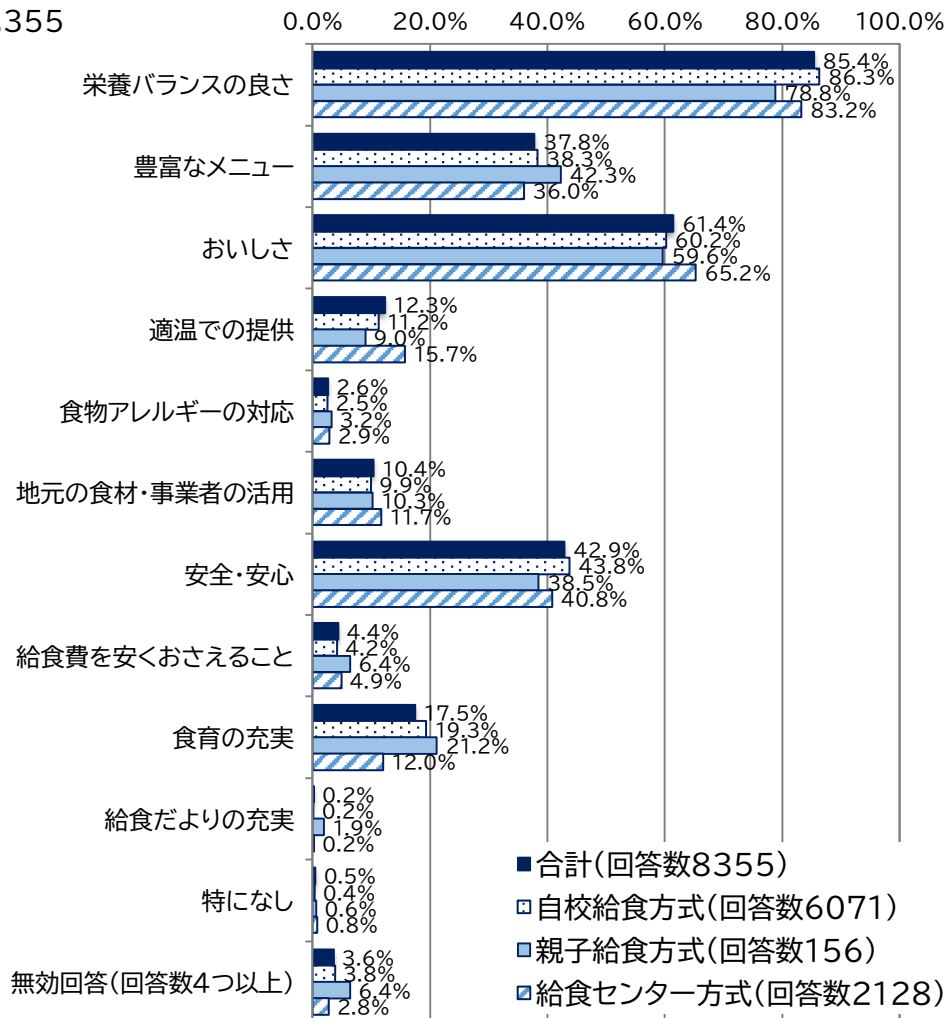
・給食で良いと思うことで最も回答が多かった項目は、「栄養バランスが整っていること」で全体の83.3%、次に「献立に変化があり、毎日違うものを食べることができること」で全体の46.6%となっています。

・提供方式別にみると、給食センター方式で最も回答が多かった項目は、「栄養バランスが整っていること」で84.8%、次に「弁当を作らなくてよいこと」で52.8%、「献立に変化があり、毎日違うものを食べることができること」が51.4%となっています。

(5)学校給食に期待するものは何ですか。(3つまで回答可)

提供方式別クロス集計

回答数:8,355



【まとめ】

・学校給食に期待するものとして、最も回答の多かった項目は、「栄養バランスの良さ」で全体の85.4%、次に「おいしさ」で全体の61.4%となっています。

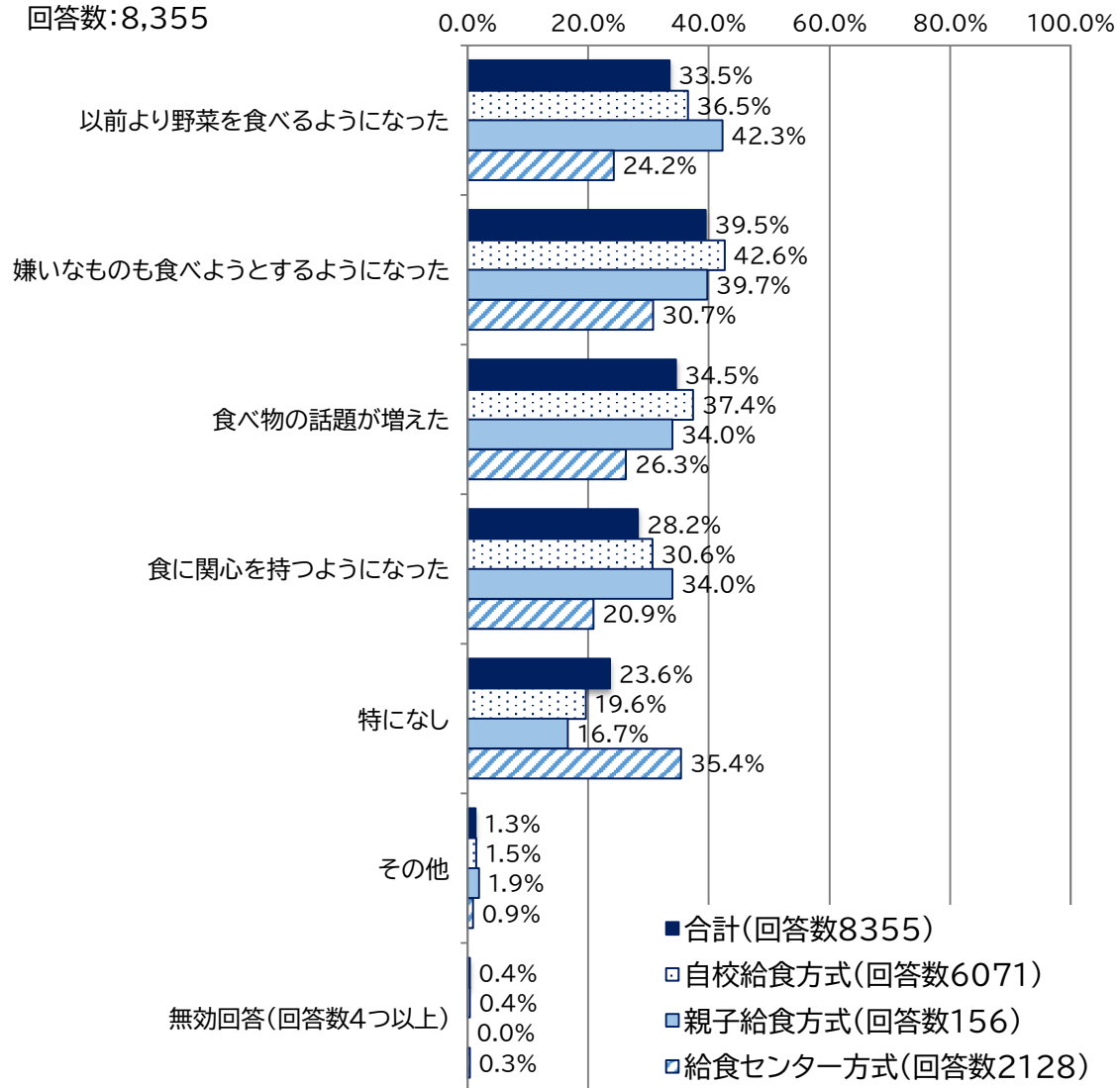
・給食センター方式で最も回答が多かった項目は、「栄養バランスの良さ」で83.2%、次に「おいしさ」で65.2%となっています。

・「食育の充実」を提供方式別にみても、給食センター方式は、12.0%に対し、自校給食方式は、19.3%(7.3ポイント多い)、親子給食方式は、21.2%(9.2ポイント多い)となっています。

(6)学校給食を通じて改善されたことは何ですか。(3つまで回答可)

提供方式別クロス集計

回答数:8,355



【まとめ】

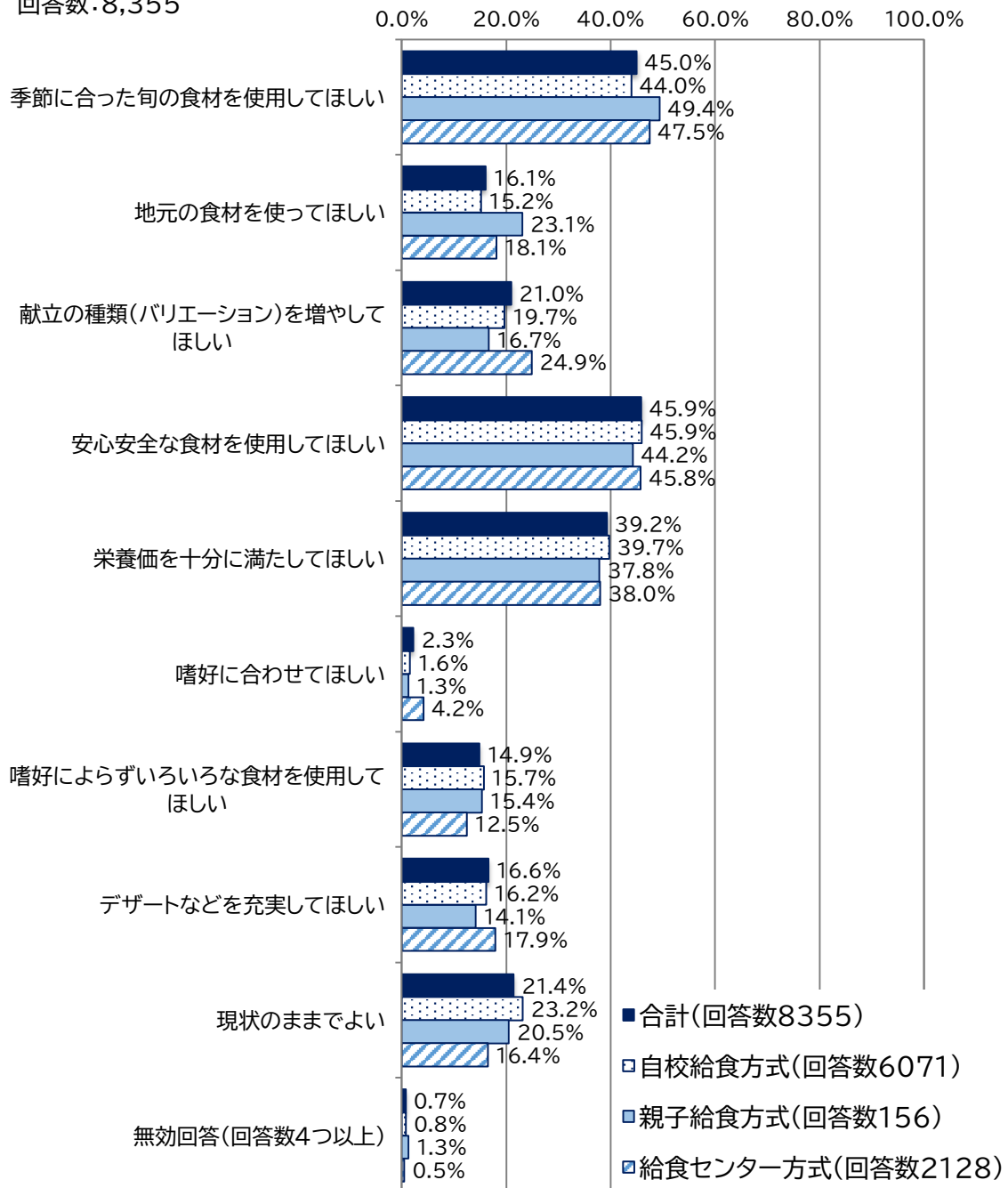
・学校給食を通じて改善されたこととして最も回答が多かった項目は、「嫌いなものを食べようとするようになった」で全体の 39.5%、次に「食べ物の話題が増えた」で全体の 34.5%となっています。

・給食センター方式の回答割合をみると、「特になし」が 35.4%、「嫌いなものも食べようとするようになった」が 30.7%となっています。

(7)献立内容で配慮してほしいことは何ですか。(3つまで回答可)

提供方式別クロス集計

回答数:8,355



【まとめ】

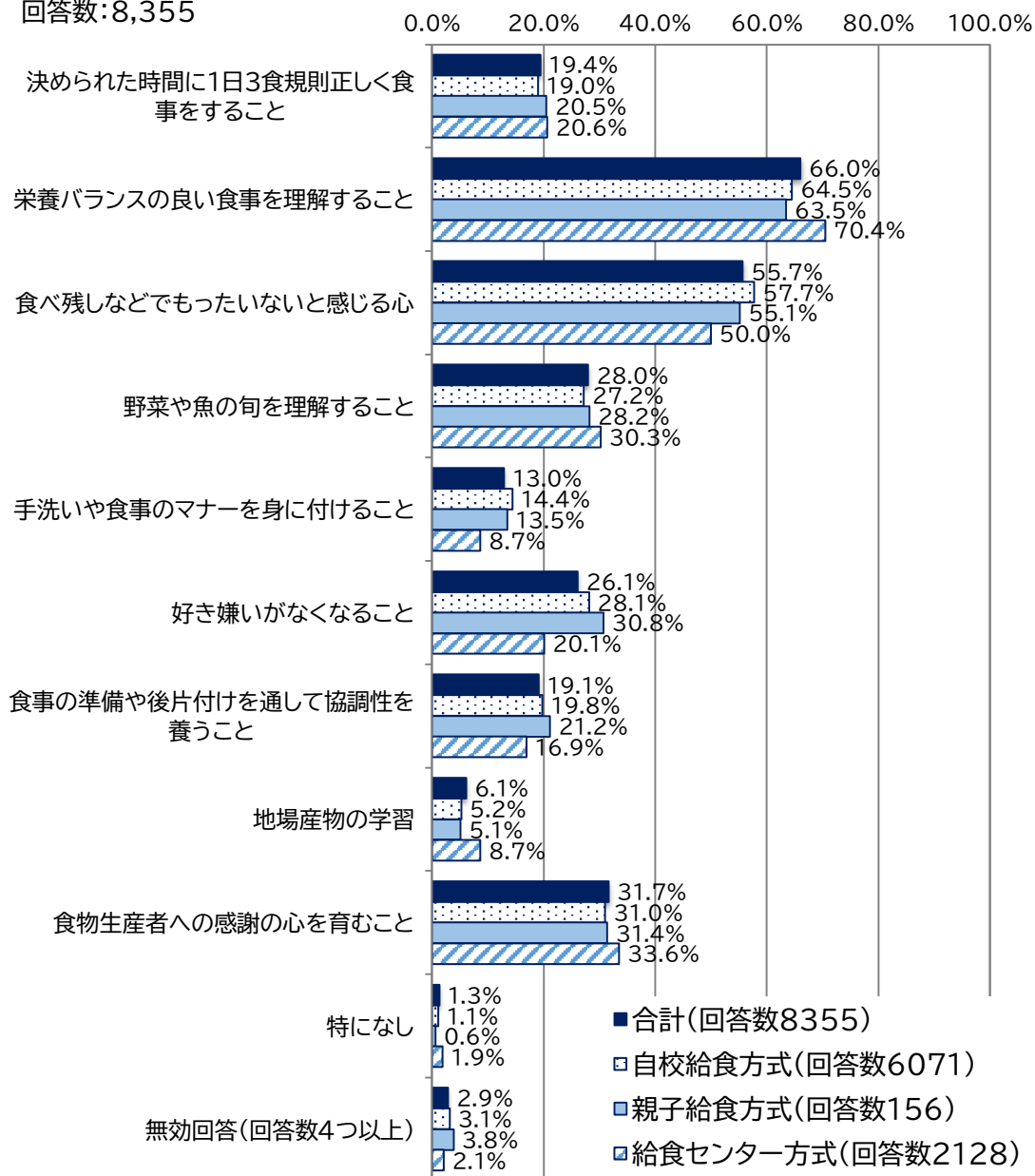
・献立内容で配慮してほしいこととして最も回答が多かった項目は、「安心安全な食材を使用してほしい」で全体 45.9%、次に「季節に合った旬の食材を使用してほしい」で全体の 45.0%となっています。

・給食センター方式の回答割合をみると、最も回答が多かった項目は、「季節に合った旬の食材を使用してほしい」で 47.5%、「安心安全な食材を使用してほしい」で 45.8%となっています。

(8)学校給食を通して学んでほしいことは何ですか。(3つまで回答可)

提供方式別クロス集計

回答数:8,355



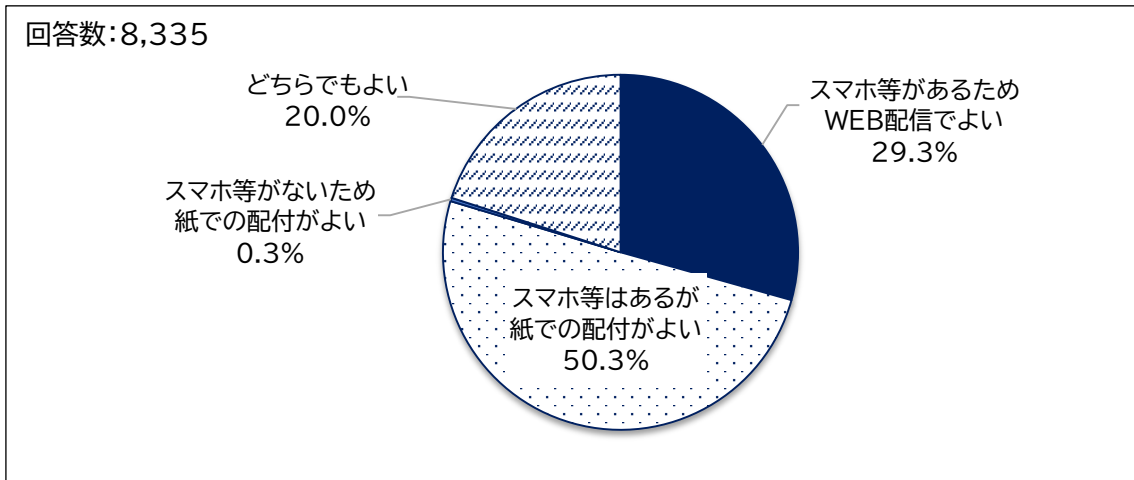
【まとめ】

・学校給食を通じて学んでほしいこととして最も回答が多かった項目は、「栄養バランスの良い食事を理解すること」で全体の 66.0%、次に「食べ残しなどでもったいないと感じる心」で全体の 55.7%となっています。

・給食センター方式の回答割合をみると、最も回答が多かった項目は、「栄養バランスの良い食事を理解すること」で 70.4%となっており、自校給食方式(64.5%)と比較すると 5.9 ポイント多く、親子給食方式(63.5%)と比較すると、6.9 ポイント多くなっています。

・「好き嫌いがなくなること」を提供方式別にみると、自校給食方式は、28.1%、親子給食方式は、30.8%となっているのに対し、給食センター方式は、20.1%となっています。

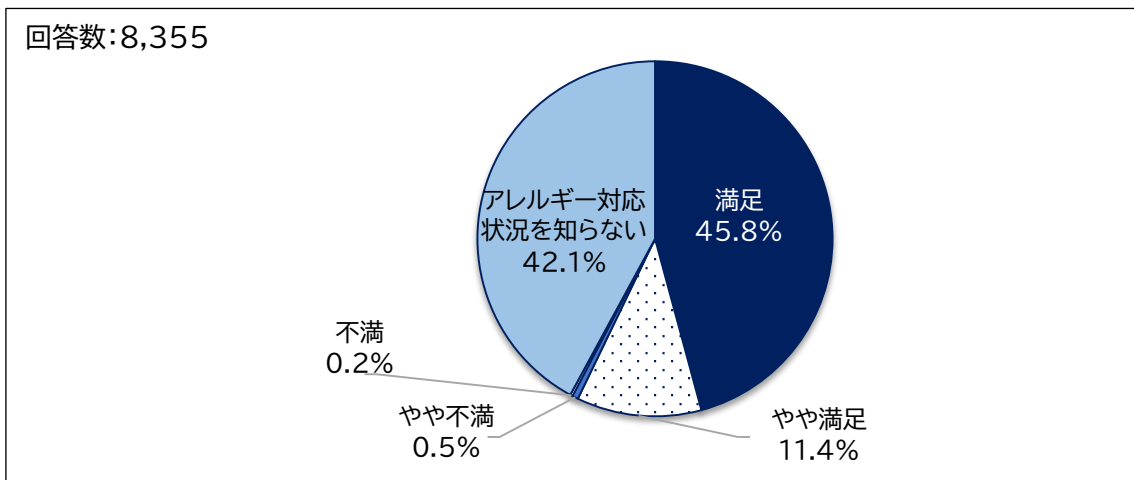
(9)献立表の配付について伺います。(単一回答)



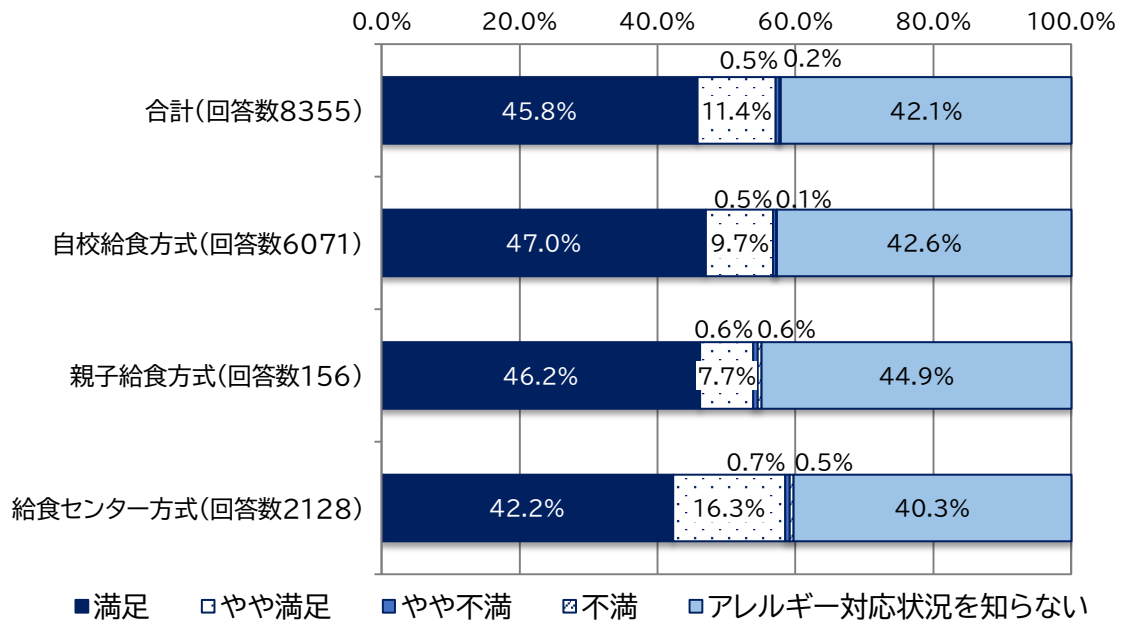
【まとめ】

・献立表の配布について「スマホ等はあるが紙での配布がよい」と回答した保護者は、全体の50.3%、「スマホ等があるため、WEB 配信でよい」は、全体の 29.3%で、「スマホ等はあるが紙での配布がよい」が 21.0%多い状況です。

(10)現在の給食における食物アレルギー対応の満足度はいかがですか。(単一回答)

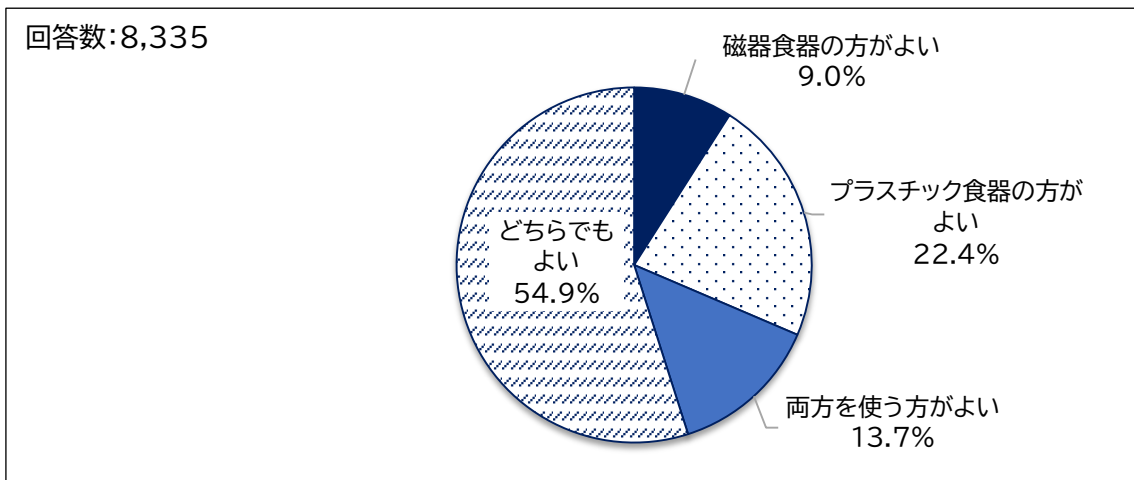


提供方式別クロス集計



【まとめ】
 ・現在の給食における食物アレルギー対応について、「満足」と回答した保護者は、全体の45.8%、「やや満足」は、全体の11.4%、合わせると全体の57.2%となっています。
 ・アレルギー対応状況を知らないと回答した保護者は、全体の42.1%となっています。
 ・提供方式別にみても、どの提供方式でも満足している傾向が見受けられます。

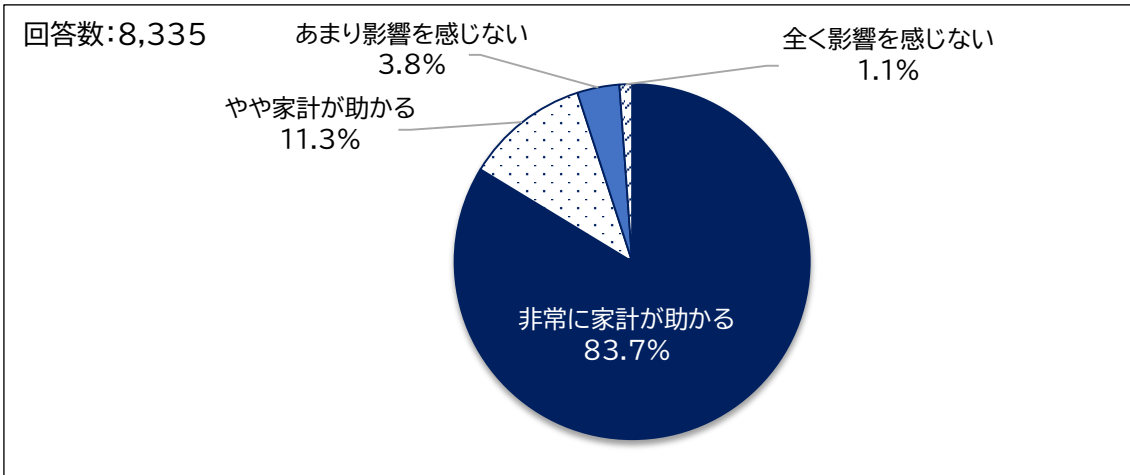
(11)磁器食器とプラ食器はどちらがよいとお考えですか。(単一回答)



【まとめ】
 ・食器の材質について、「プラスチック食器の方がよい」と回答した保護者は、全体の22.4%、「磁器食器の方がよい」と回答した保護者は、全体の9.0%となっています。
 ・「どちらでもよい」と回答した全体の54.9%となっています。

問5

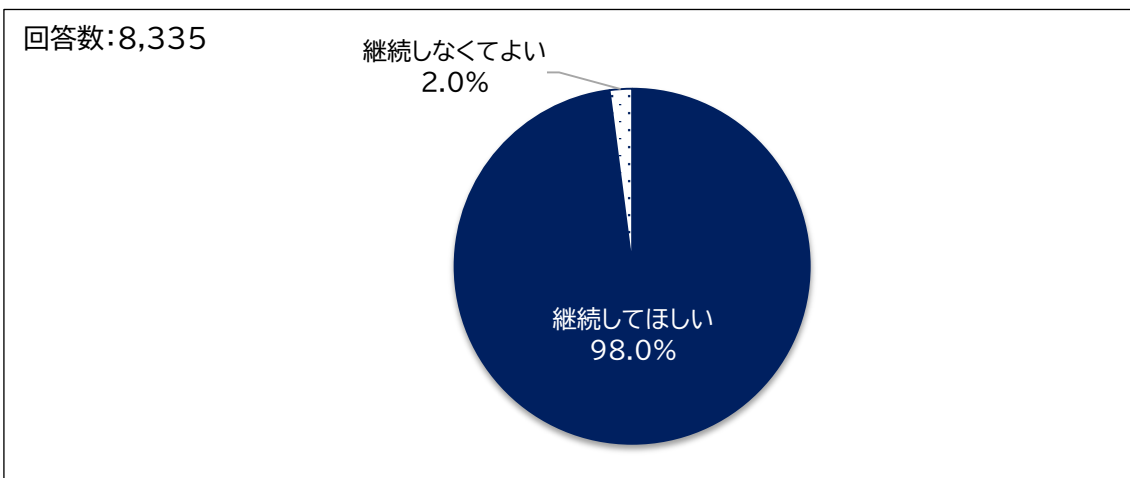
(1)令和5年度の無償化による家計への影響はいかがですか。(単一回答)



【まとめ】

・令和5年度の無償化による家計への影響について「非常に家計が助かる」と回答した保護者は、全体の 83.7%、「やや家計が助かる」は、全体の 11.3%となっており、合わせると全体の 95.0%となっています。

(2)無償化を継続してほしいと思いますか。(単一回答)

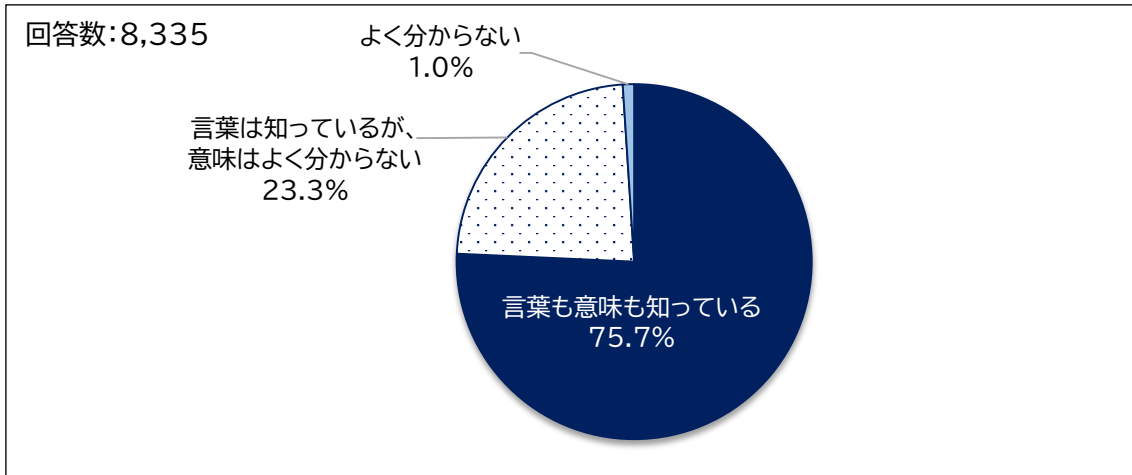


【まとめ】

・無償化を「継続してほしい」と回答した保護者は、全体の 98.0%となっています。

問6

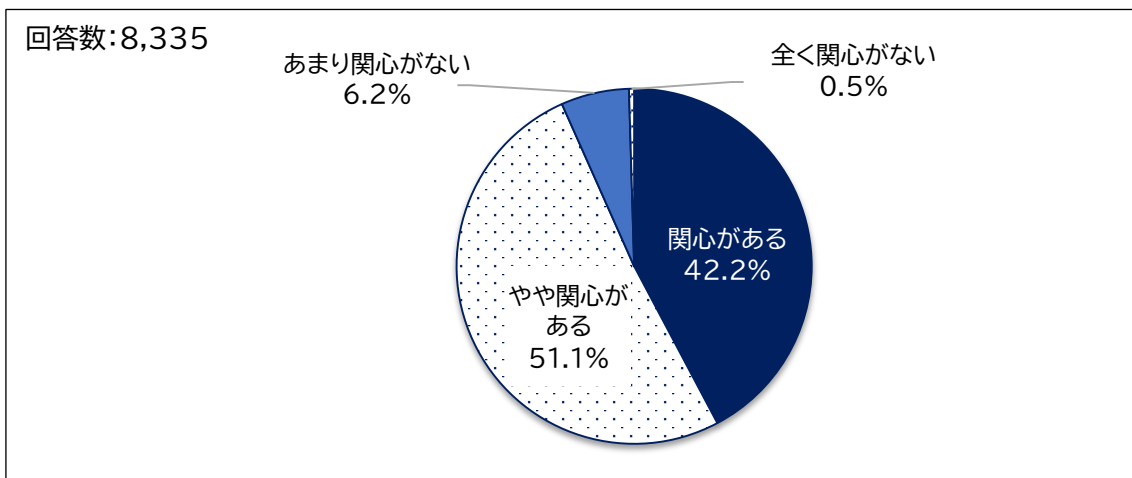
(1)食育という言葉やその意味を知っていますか。(単一回答)



【まとめ】

・食育という言葉やその意味を「知っている」と回答した保護者は、全体の 75.7%となっています。
・「言葉は知っているが、意味はよく分からない」と回答した保護者は、全体の 23.3%となっています。

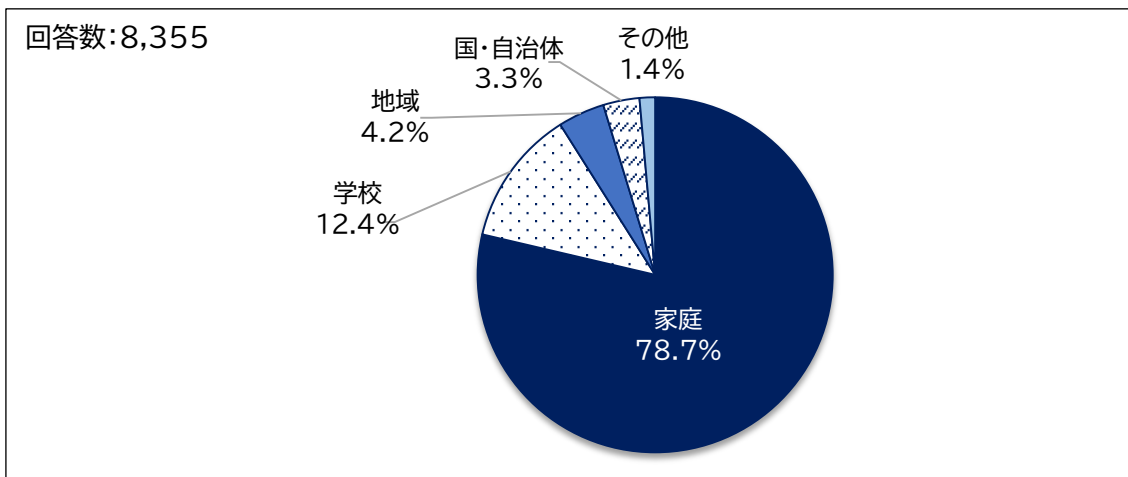
(2)食育について関心がありますか。(単一回答)



【まとめ】

・食育について「関心がある」と回答した保護者は、全体の 42.2%、「やや関心がある」と回答した保護者は、全体の 51.1%で、合わせると全体の 93.3%となっています。

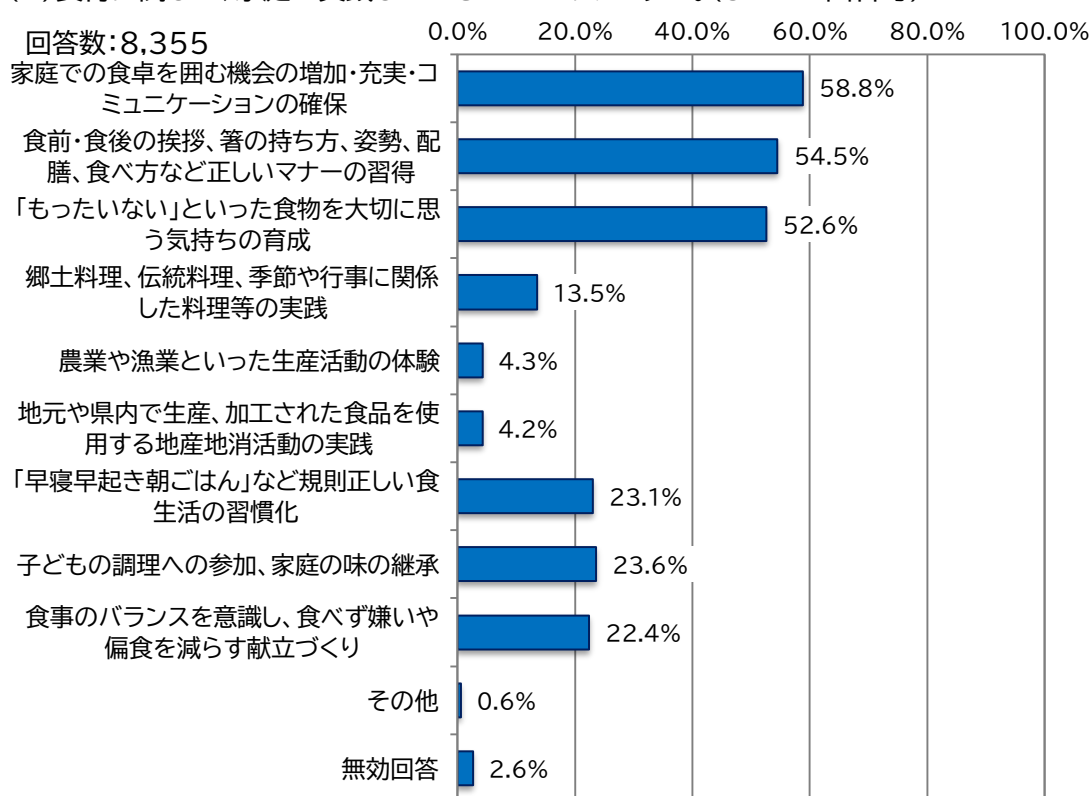
(3) 食育の主な担い手はどこだとお考えですか。(単一回答)



【まとめ】

・食育の主な担い手は「家庭」と回答した保護者は、全体の 78.7%、「学校」と回答した保護者は、全体の 12.4%となっています。

(4) 食育に関して、家庭で実践していることがありますか。(3つまで回答可)

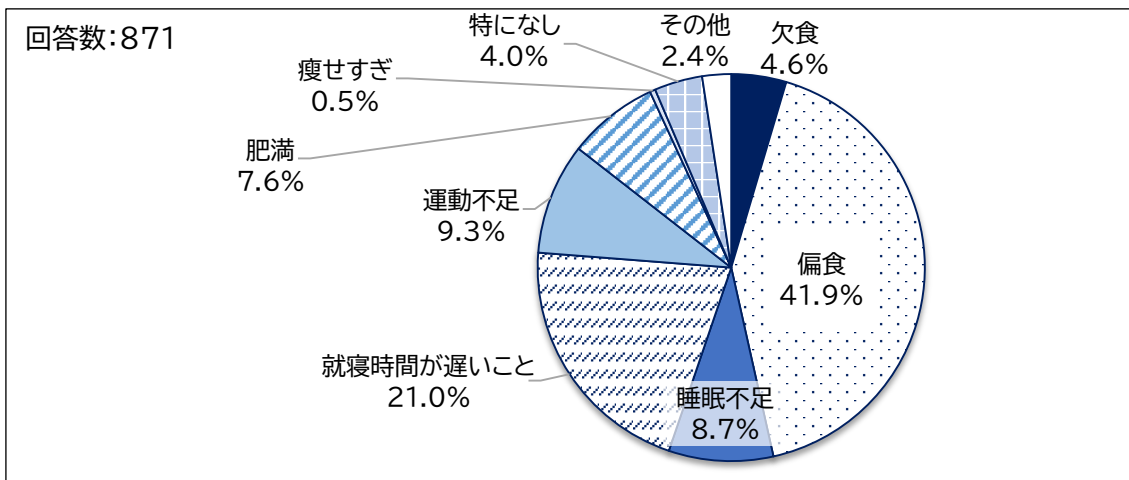


【まとめ】

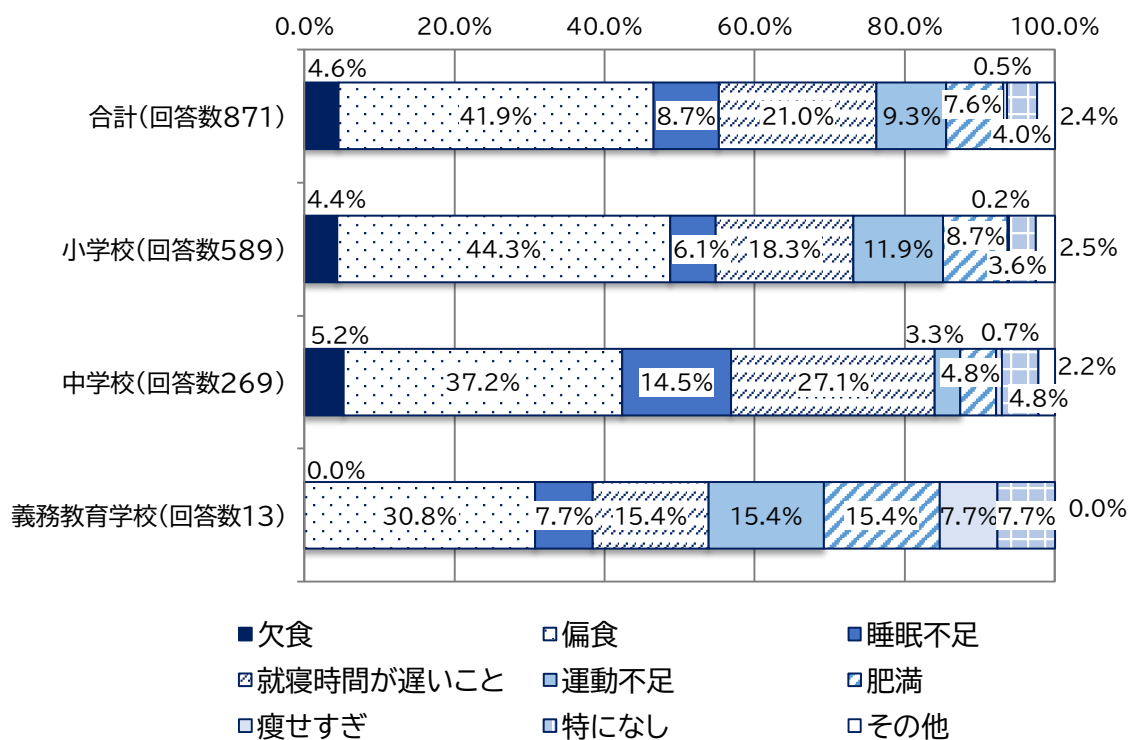
・食育に関して、家庭で実践していることとして最も回答が多かった項目は、「家庭での食卓を囲む機会の増加・充実・コミュニケーションの確保」で全体の 58.8%、次に「食前・食後の挨拶、箸の持ち方、姿勢、配膳、食べ方など正しいマナーの習得」で全体の 54.5%となっています。

4 教職員向け調査の結果

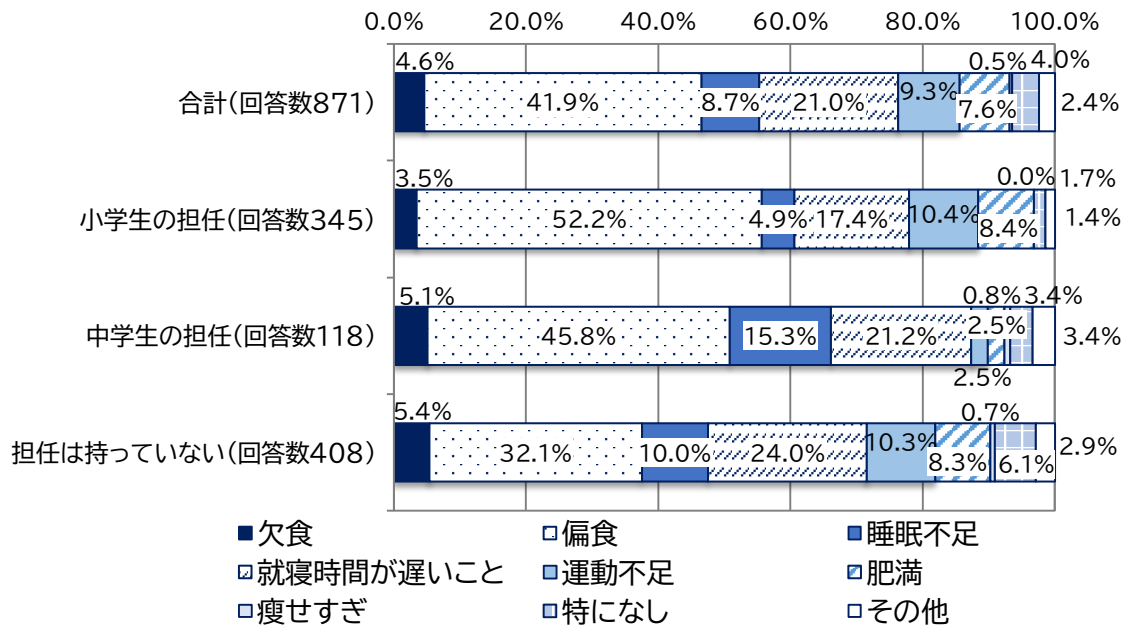
問1 子ども達の生活習慣で問題と感じられることは何ですか。(単一回答)



学校別クロス集計



担任別クロス集計



【まとめ】

・子ども達の生活習慣で問題と感じられていることで最も回答が多かった事項は、「偏食」で、全体の 41.9%となっています。次に「就寝時間が遅いこと」が挙げられ、全体の 21.0%となっています。

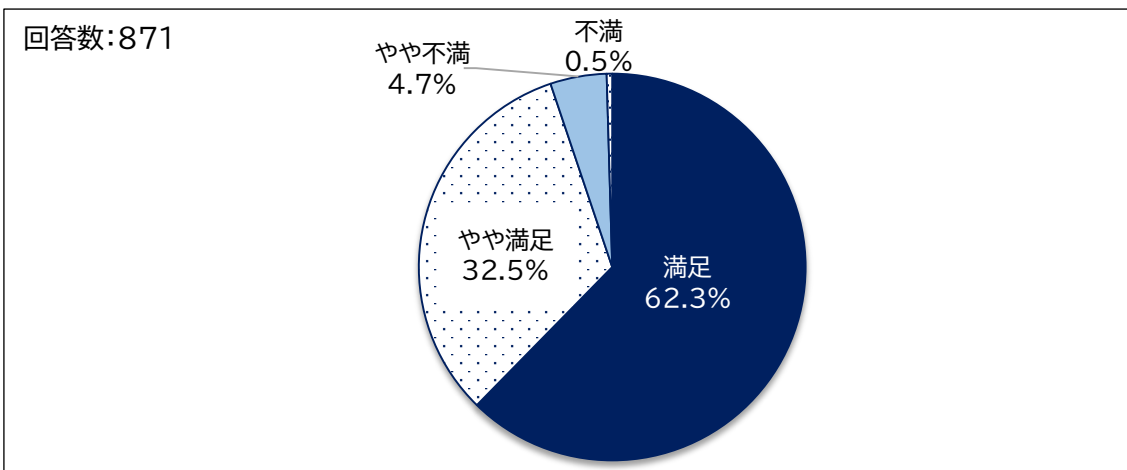
・小学生の担任の回答で、最も割合が多かった事項は、「偏食」で、52.2%です。全体(41.9%)と比較すると、10.3 ポイント上回っています。

・中学生の担任の回答をみると、小学校の担任の回答と比較して、割合が多かった事項は、2 つあります。1 つ目は、「就寝時間が遅いこと」(21.2%)で、3.8 ポイント上回っています。2 つ目は、「睡眠不足」(15.3%)で、10.4 ポイント上回っています。

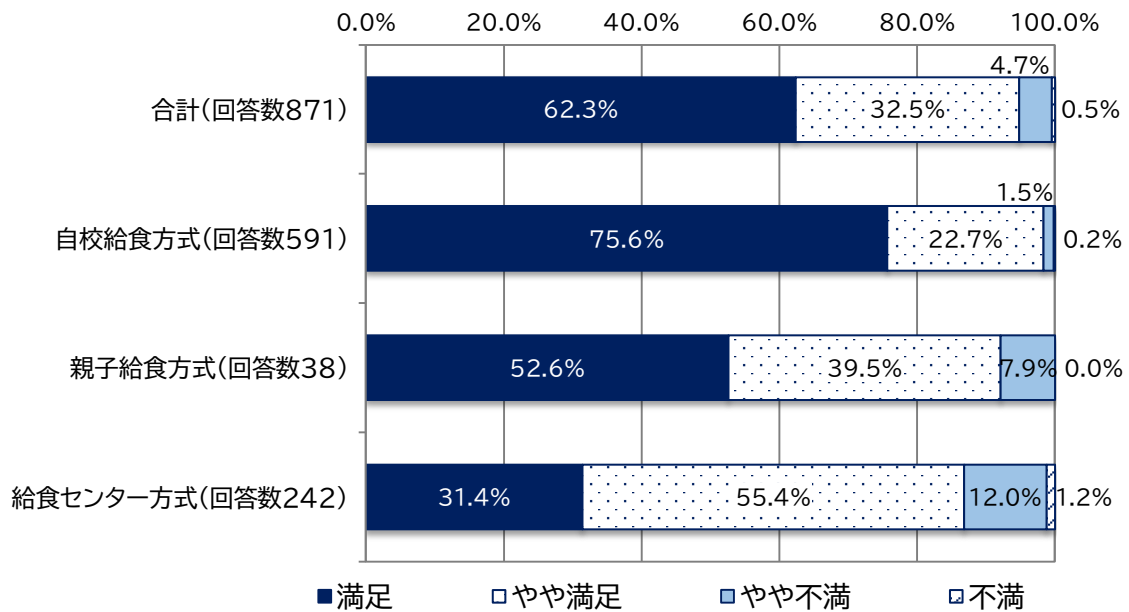
・その他の理由としては、「デジタルメディアとの関わり方」(ゲームや SNS との関わり方、ネット等の使用時間)が挙げられています。

問2 学校給食についておたずねします。

(1) 現在の給食についてどのように思いますか。(単一回答)

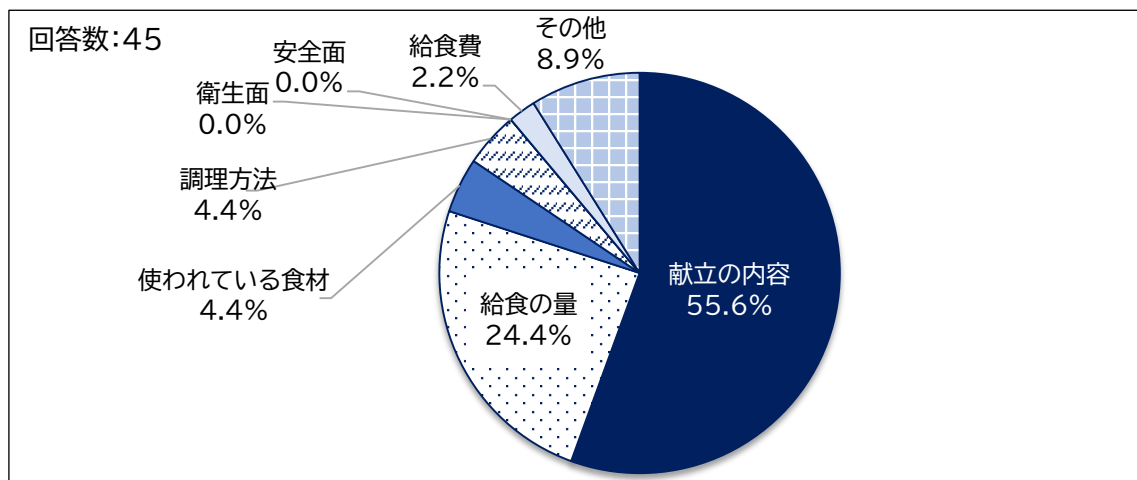


提供方式別クロス集計

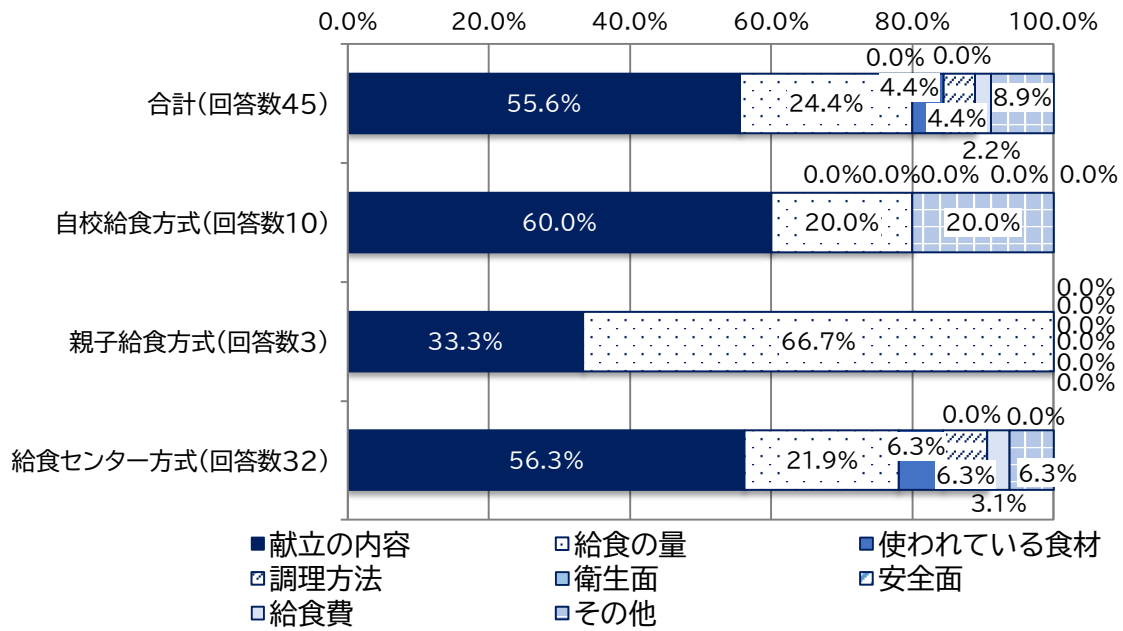


【まとめ】
 ・現在の給食について、「満足」と回答している教職員は、全体の 62.3%、「やや満足」の 32.5% を合わせると、94.8%となります。
 ・提供方式別にみると、「満足」と回答している割合が最も多いのは、自校給食方式で 75.6%となっています。
 ・給食センター方式をみると、「やや満足」が 55.4%と最も多く、次に「満足」31.4%、「やや不満」12.0%となっています。
 ・提供方式別に「やや不満」をみると、給食センター方式が最も多く、12.0%となっています。

(1)-2 改善すべきだと思われる項目を選んでください。(問2(1)で「悪い(改善すべきところが多くある)」と回答した教職員のみ・単一回答)

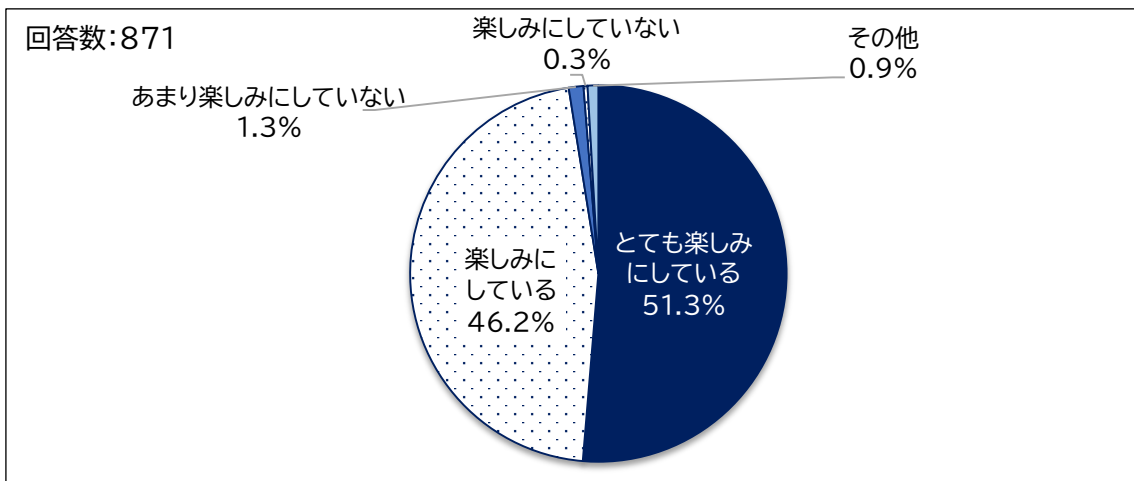


提供方式別クロス集計

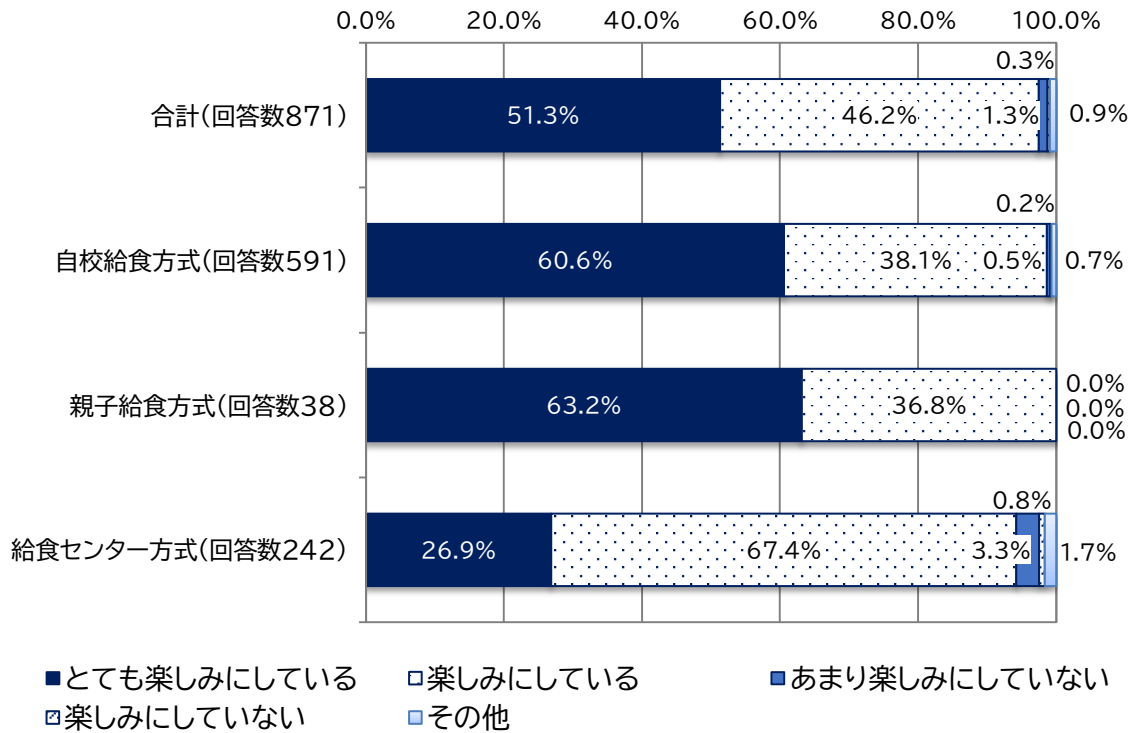


【まとめ】
 ・改善すべきだと思われる項目で最も回答が多かった項目は、「献立の内容」で全体の 55.6% となっています。
 ・その他の理由としては、「個人毎に、食の適量が有ると思う」や「トレイがほしい」などが挙げられます。

(2) 子ども達は給食の時間をどのように感じていると思いますか。(単一回答)

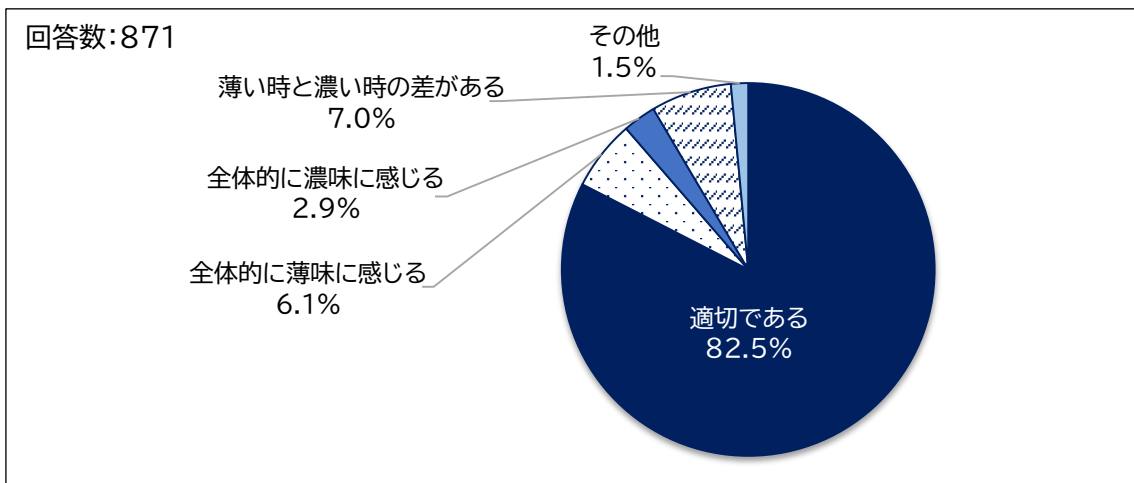


提供方式別クロス集計

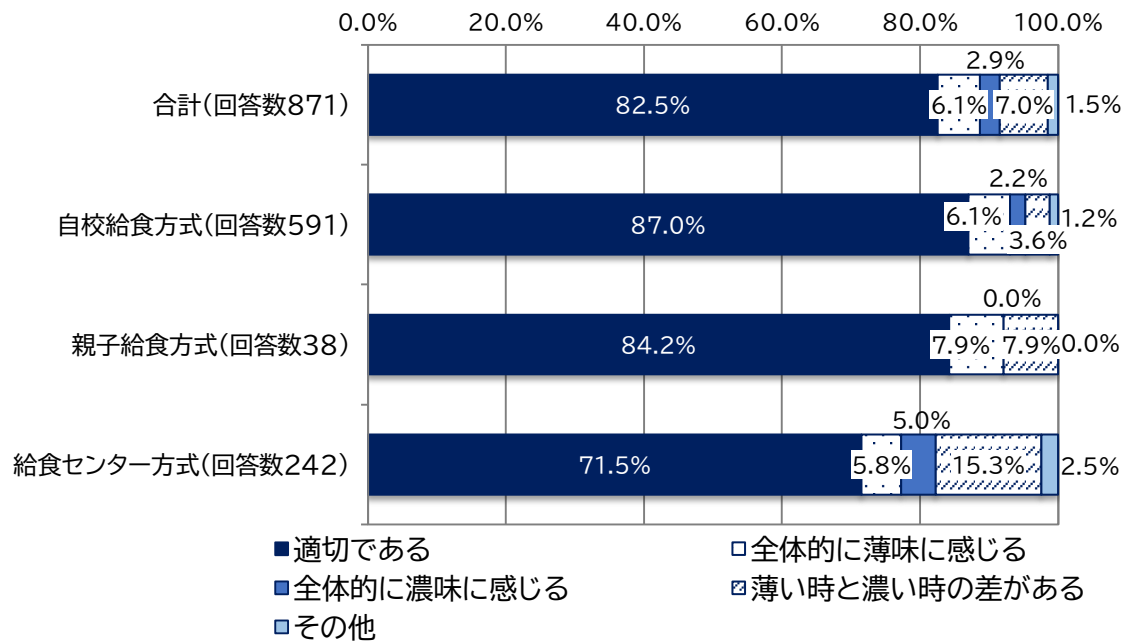


【まとめ】
 ・子ども達の様子をみていて、給食の時間を「とても楽しみにしている」と回答している教職員は、全体の 51.3%、「楽しみにしている」と回答している教職員は、全体の 46.2%となっています。
 ・その他の理由としては、「楽しみにしている子もいれば、そうでない子もいる」という意見があります。
 ・提供方式別にみると、給食センター方式の「とても楽しみにしている」と回答している割合が、26.9%となっており、自校給食方式や親子給食方式と比較して、少ないことが分かります。

(3) 学校給食の味付けは子ども達にとって適切だと思いますか。(単一回答)

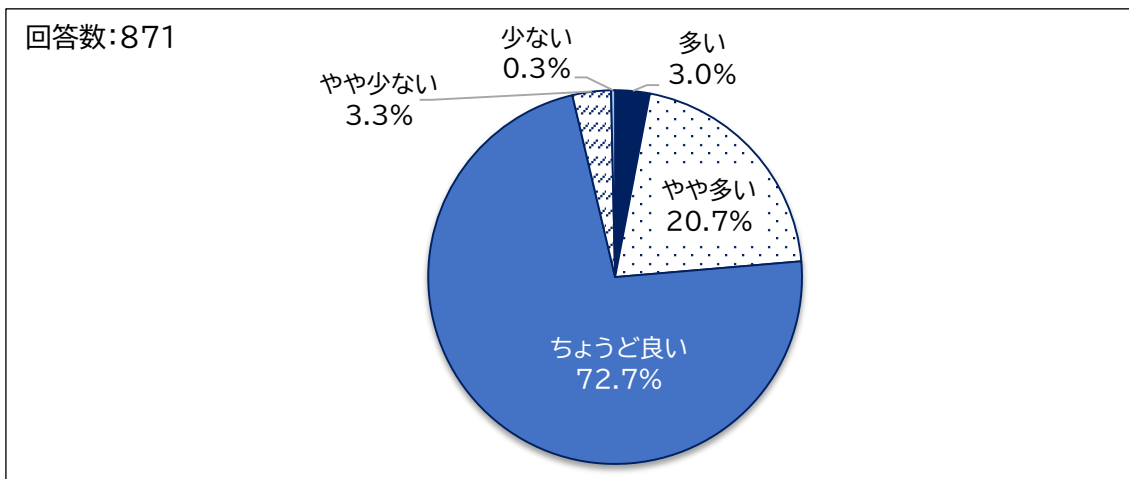


提供方式別クロス集計

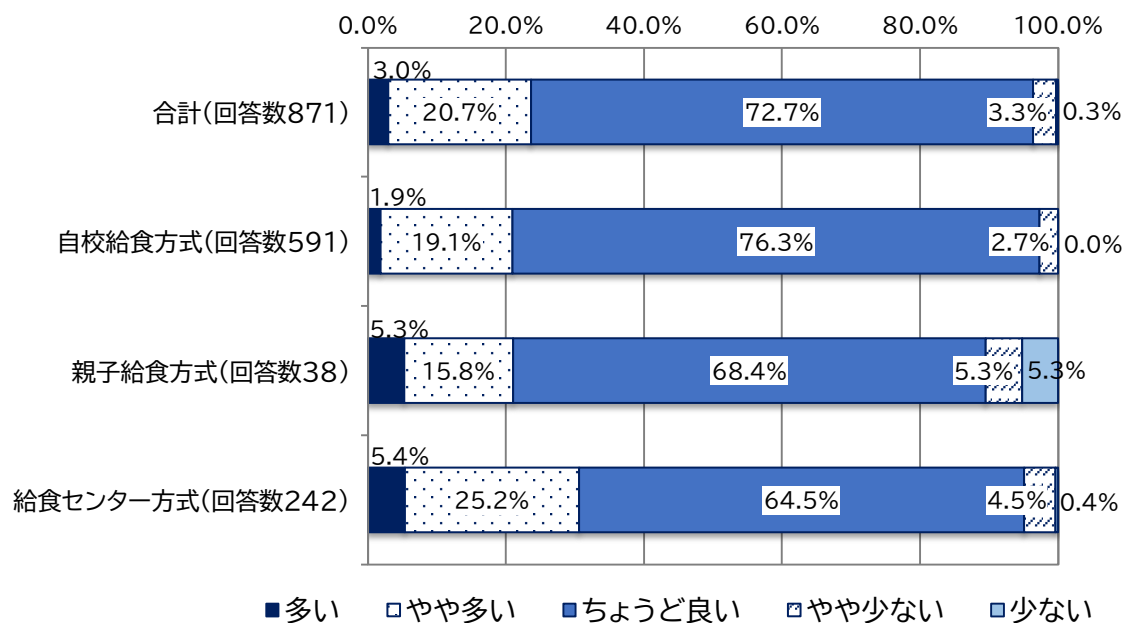


【まとめ】
 ・学校給食の味付けについて、子どもにとって「適切である」と感じている教職員は、全体の82.5%となっています。
 ・提供方式別にみると、どの提供方式でも「適切である」と回答している割合が最も多いです。
 ・「薄い時と濃い時の差がある」をみると、給食センター方式が最も多く 15.3%で全体(7.0%)と比較すると、6.3ポイント上回っています。

(4) 給食の量は子ども達にとってどう思いますか。(単一回答)



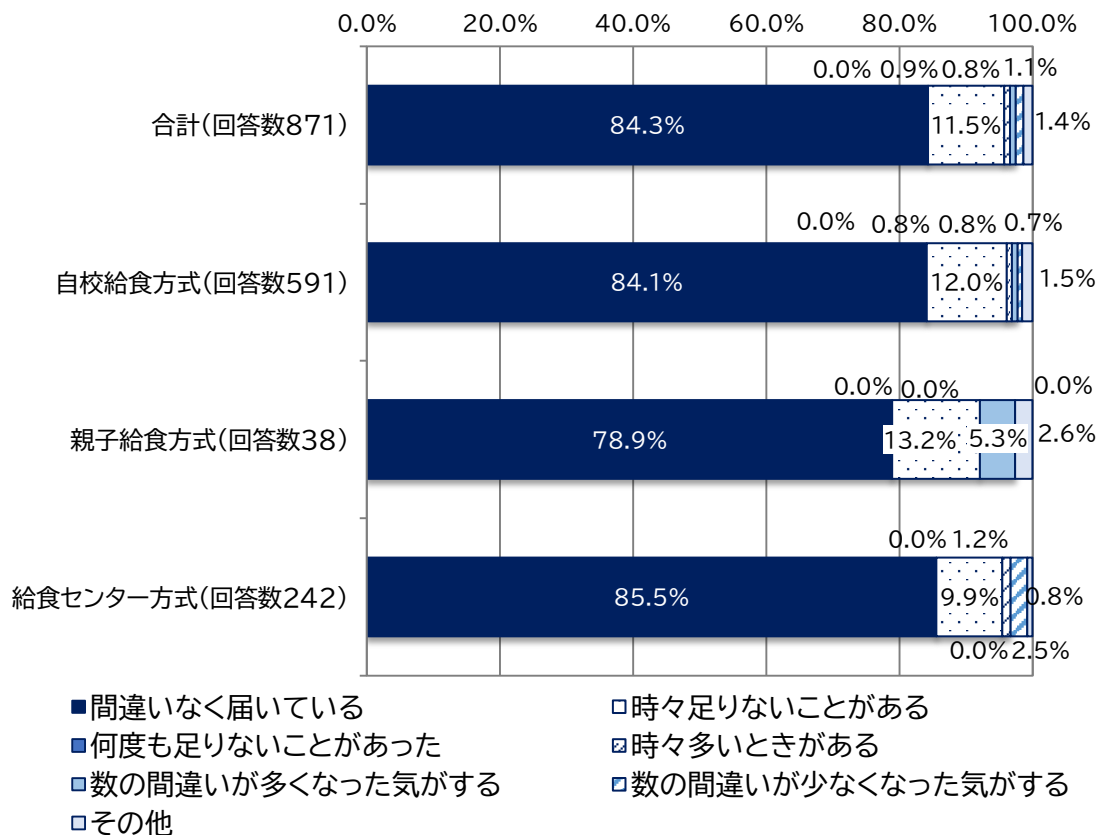
提供方式別クロス集計



【まとめ】
 ・給食の量が「ちょうど良い」と回答している教職員は、全体の 72.7%となっています。
 ・提供方式別にみると、「やや多い」と回答している割合が最も多い方式は、給食センター方式で、25.2%となっています。
 ・親子給食方式の「やや少ない」「少ない」と回答している教職員をみると、10.6%となっています。

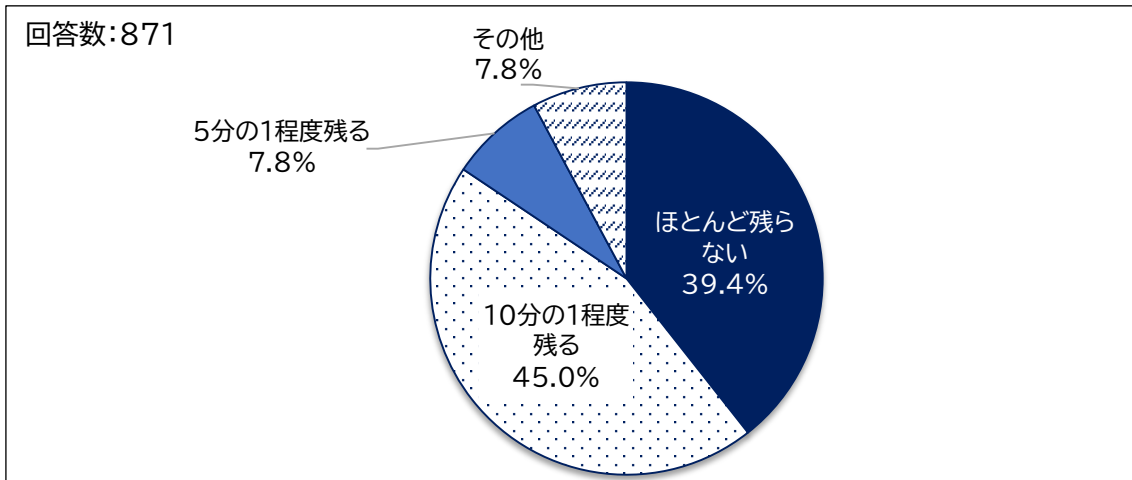
(5) 給食の食品や食器・ランチ皿等の数についておたずねします。(単一回答)

提供方式別クロス集計

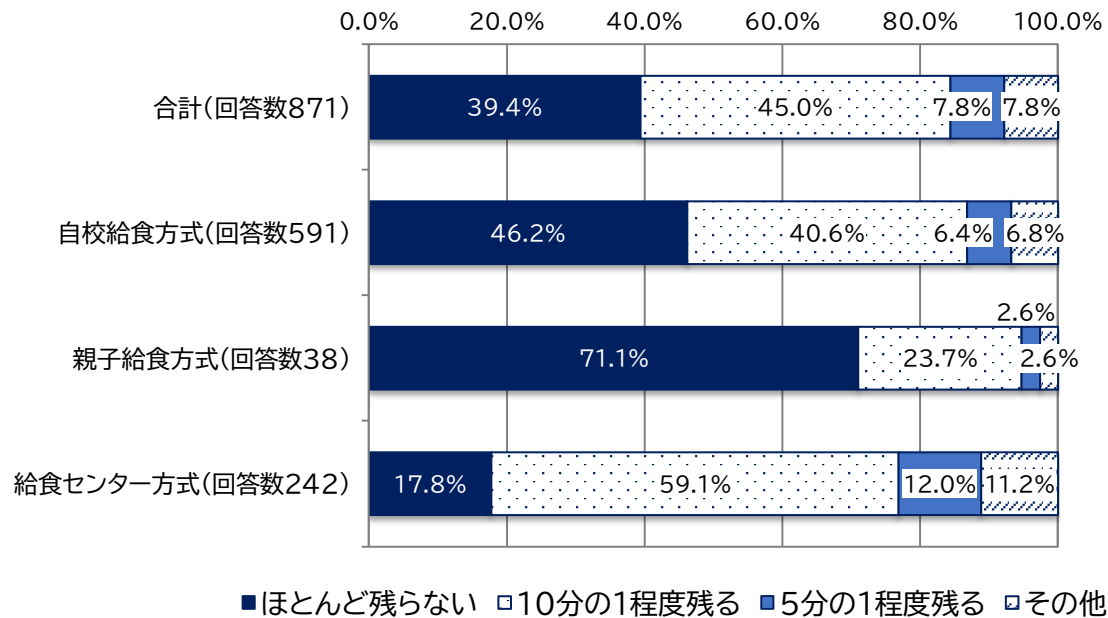


【まとめ】
 ・自校給食方式は、「間違いなく届いている」が 84.1%、「時々足りないことがある」が、12.0%となっています。
 ・親子給食方式は、「間違いなく届いている」が、78.9%、「時々足りないことがある」が、13.2%、「数の間違いが多くなった気がする」が 5.3%となっています。
 ・給食センター方式は、「間違いなく届いている」が 85.5%、「時々足りないことがある」が、9.9%となっています。
 ・その他の理由としては、「食品の数を隣のクラスと間違えられたり、食器の数が多かったり少なかったりすることが多い」という意見が挙げられています。

(6) 給食の食べ残しはどれぐらいですか。(単一回答)



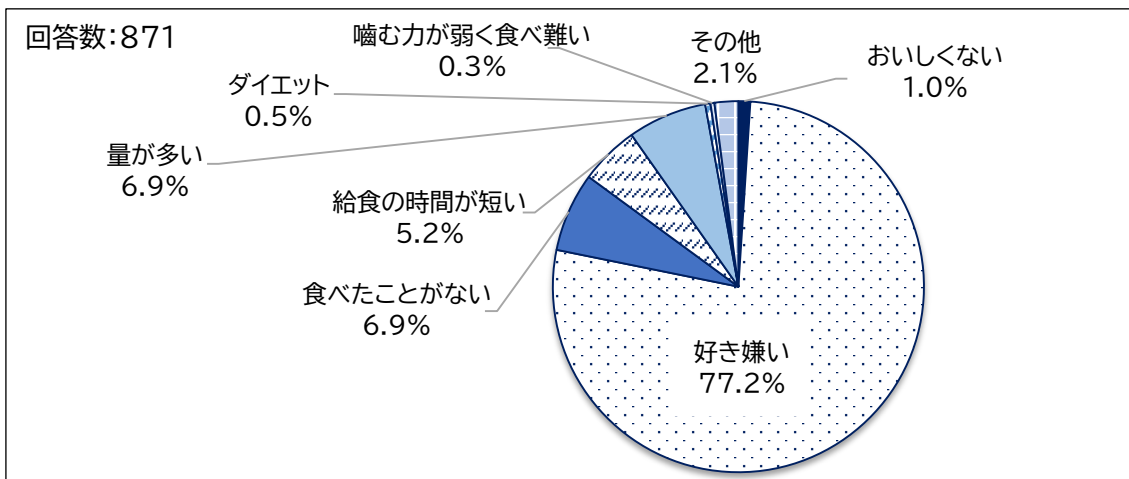
提供方式別クロス集計



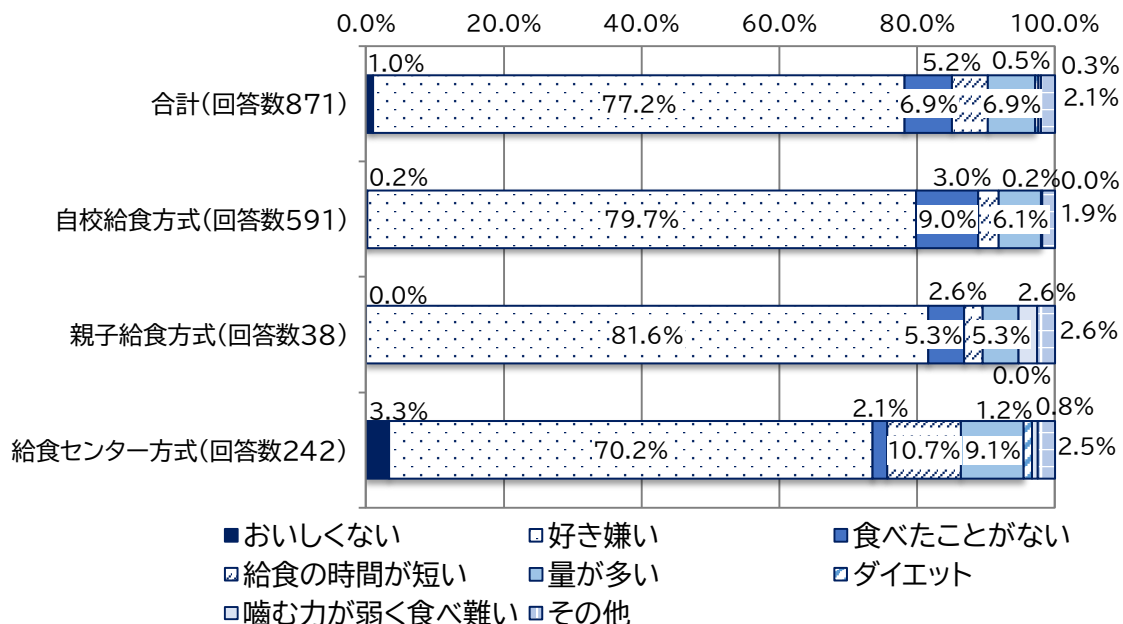
【まとめ】

- ・給食の食べ残しが「ほとんど残らない」と回答した教職員は、全体の 39.4%で、「10 分の 1 程度残る」と回答した教職員は、全体の 45.0%となっています。
- ・親子給食方式をみると、「ほとんど残らない」が、71.1%、「10 分の 1 程度残る」が、23.7%となっています。
- ・給食センター方式をみると、「ほとんど残らない」が、17.8%、「10 分の 1 程度残る」が、59.1%となっており、他の提供方式と比較して、「ほとんど残らない」と回答している割合が少なくなっています。
- ・その他の理由として、「メニューやクラスによってばらつきがある」という意見が挙げられています。

(7) 子ども達が給食を残す理由は何だと思いますか。(単一回答)



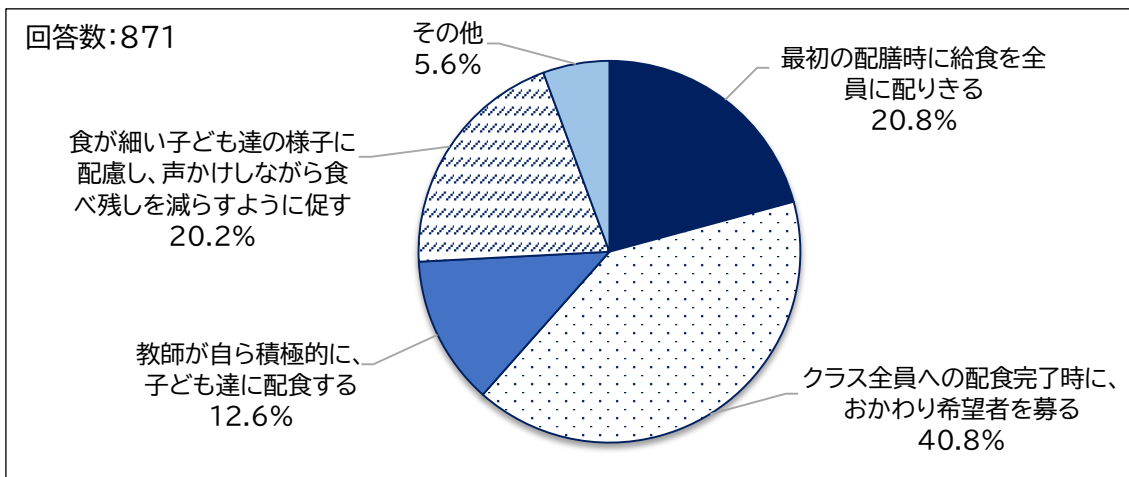
提供方式別クロス集計



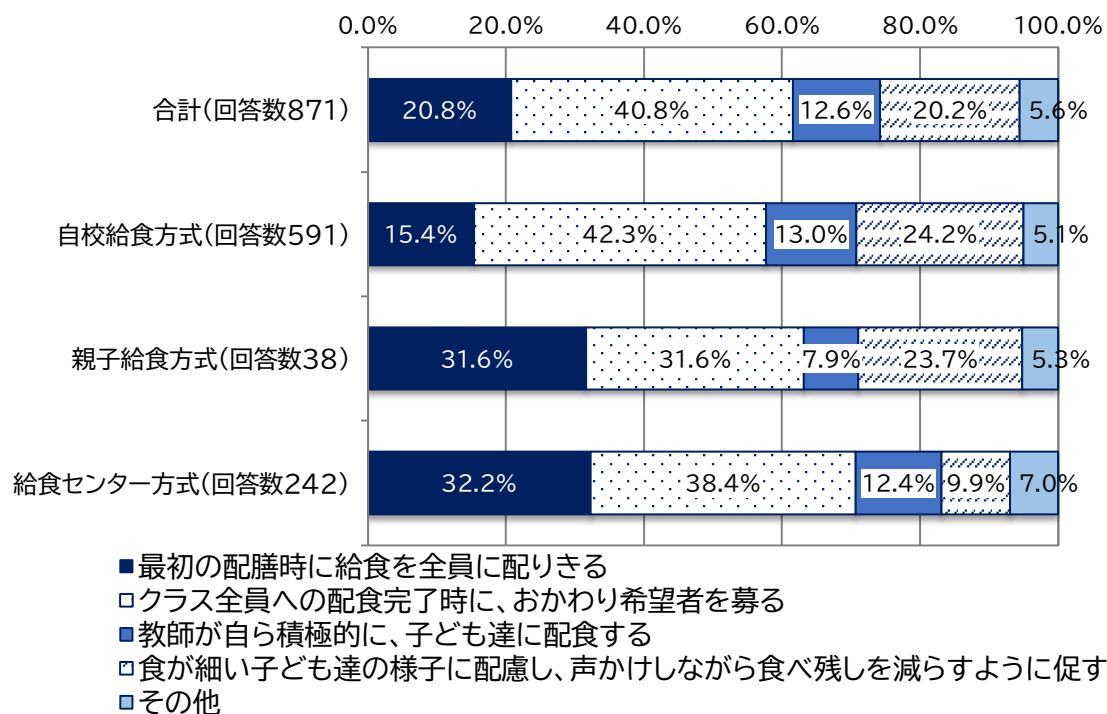
【まとめ】

- ・子どもが給食を残す理由として最も多かったものは、「好き嫌い」で全体の 77.2% を占めています。
- ・自校給食方式をみると、「好き嫌い」が 79.7%、「食べたことがない」が 9.0%、「量が多い」が 6.1%、となっています。
- ・親子給食方式をみると、「好き嫌い」が 81.6%、「食べたことがない」と「量が多い」が 5.3% となっています。
- ・給食センター方式をみると、「好き嫌い」が 70.2%、「給食の時間が短い」が 10.7%、「量が多い」が 9.1% となっています。
- ・自校給食方式と親子給食方式で、「おいしくない」と回答している割合は、1.0% 未満であるのに対し、給食センター方式は、3.3% となっています。
- ・その他の理由としては、「少食」などの意見が挙げられています。

(8) 食べ残しを減らす取組をしていますか。(単一回答)



提供方式別クロス集計



【まとめ】

・食べ残しを減らす取組として、最も多かった取組は、「クラス全員への配食完了時に、おかわり希望者を募る」で、全体の40.8%となっています。

・次に「最初の配膳時に給食を全員に配りきる」が20.8%、「食が細い子ども達の様子に配慮し、声かけしながら食べ残しを減らすように促す」が20.2%となっています。

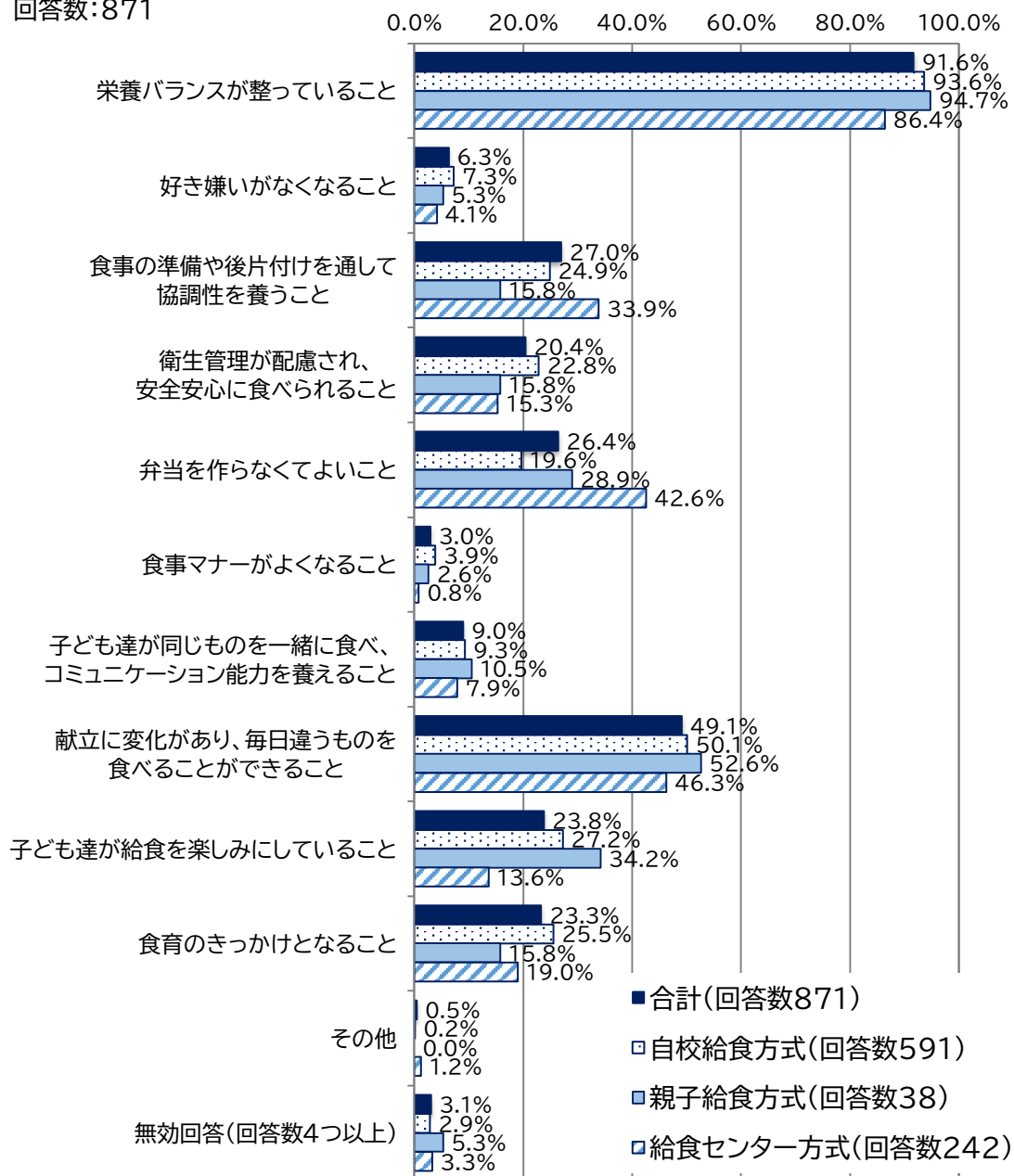
・給食センター方式をみると、「最初の配膳時に給食を全員に配りきる」が32.2%、「クラス全員への配食完了時に、おかわり希望者を募る」が38.4%となっています。

・その他の理由としては、「特に取り組んでいない」や「食べ切れる量に調節する」などの意見が挙げられています。

(9) 給食で良いと思うことは何ですか。(複数回答可:3つまで)

提供方式別クロス集計

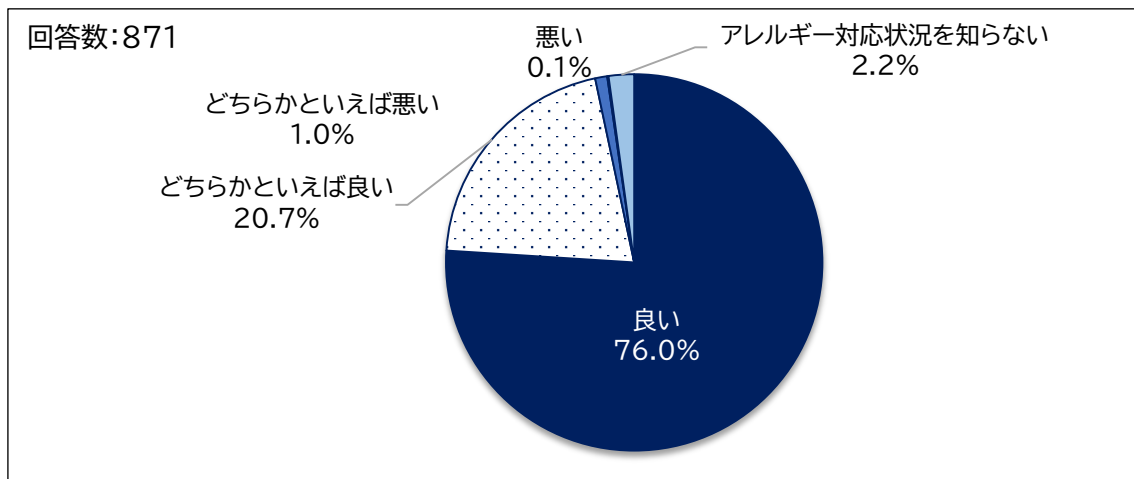
回答数:871



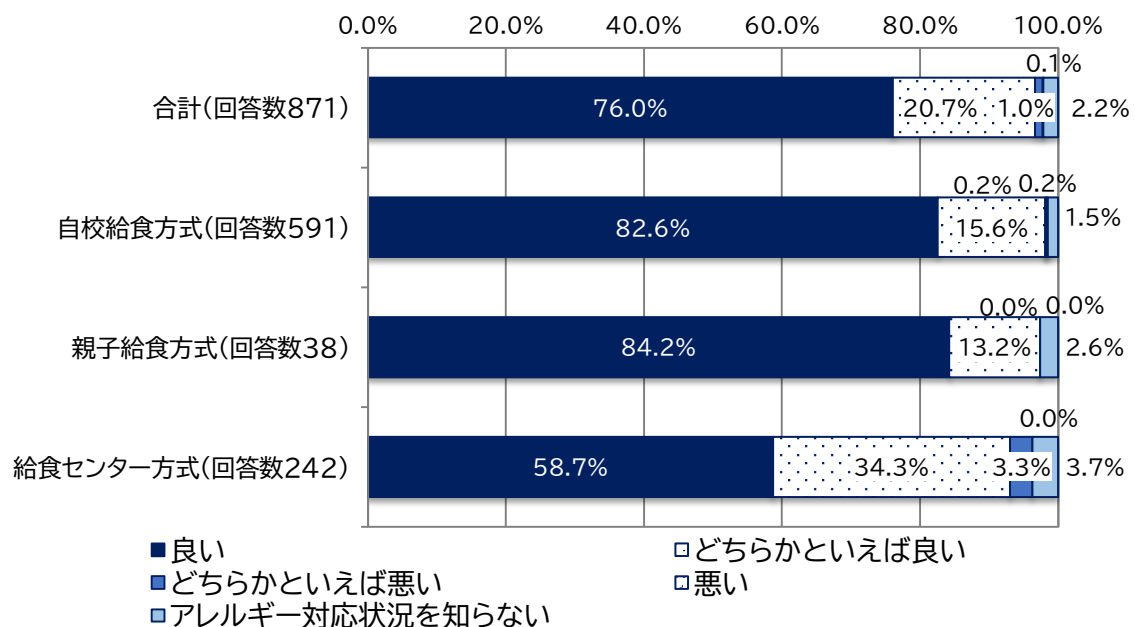
【まとめ】

- ・給食で良いと思うこととして、最も多かったことは、「栄養バランスが整っていること」で、全体の91.6%を占めています。
- ・給食センター方式においても、「栄養バランスが整っていること」が最も多く、86.4%となっています。

(10) 現在の食物アレルギー対応については、どのような印象をお持ちですか。(単一回答)



提供方式別クロス集計



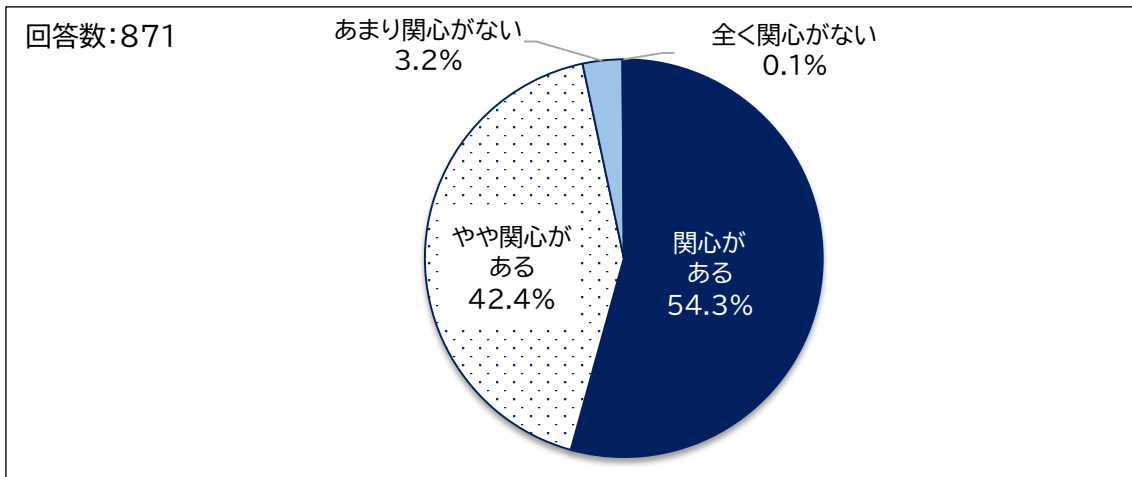
【まとめ】

・現在の食物アレルギー対応について、「良い」と回答している教職員は、全体の 76.0%、「どちらかといえば良い」と回答している教職員は、全体の 20.7%となっており、合わせると 96.7%となっています。

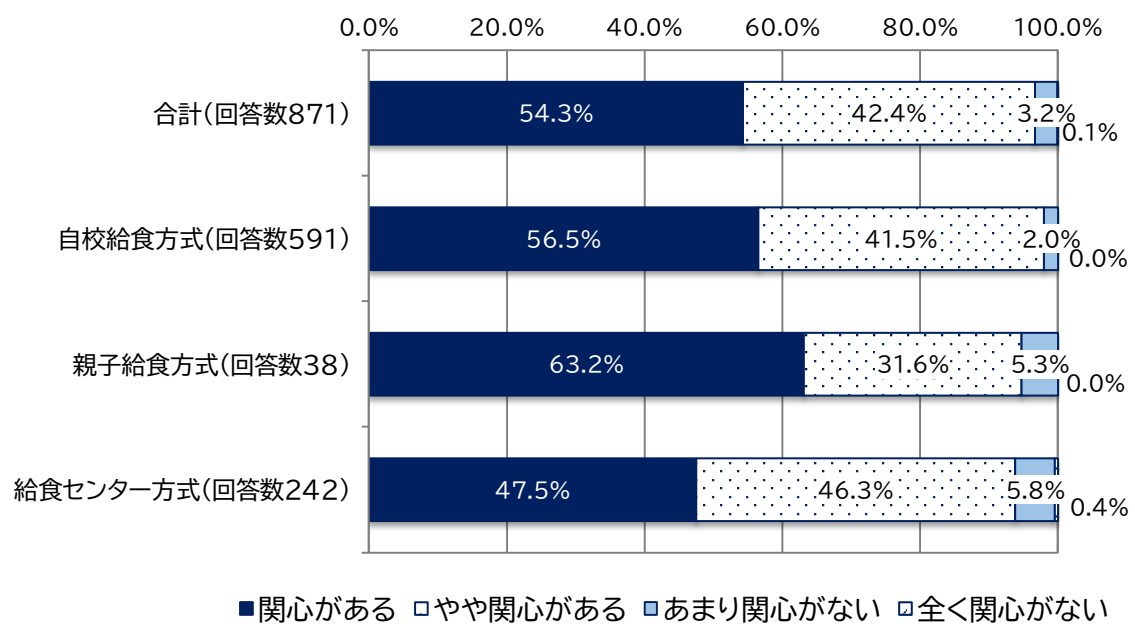
・給食センター方式で、現在の食物アレルギー対応について「良い」と回答している教職員は、58.7%で全体(76.0%)と比較すると、17.3ポイント下回っています。

問3 食育についておたずねします。

(1) 食育について関心がありますか。(単一回答)



提供方式別クロス集計

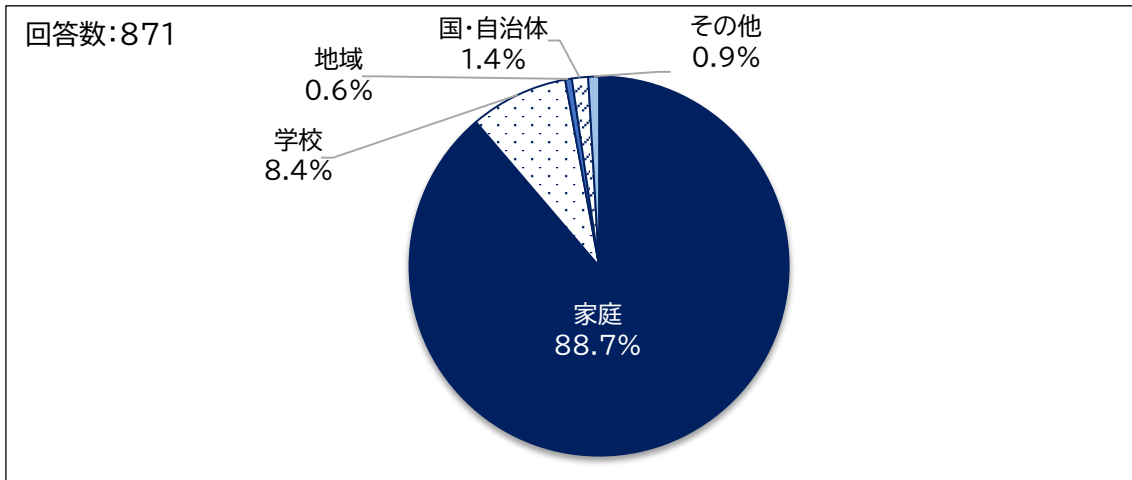


【まとめ】

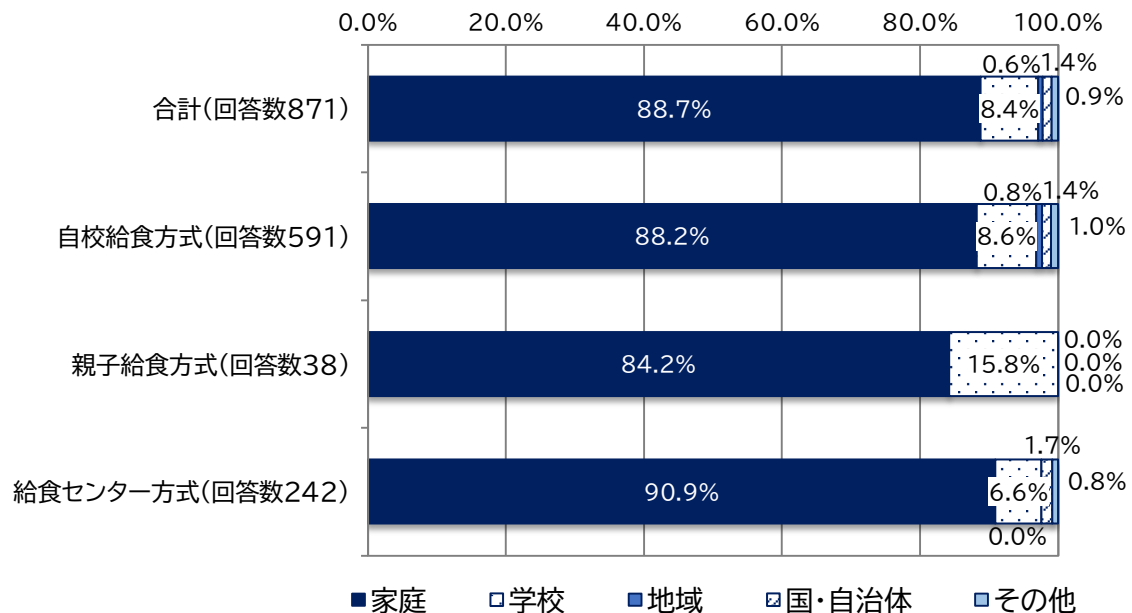
・食育について「関心がある」と回答している教職員は、全体の 54.3%、「やや関心がある」は、全体の 42.4%で合計すると、96.7%を占めています。

・提供方式別にみると、食育について「関心がある」と回答した割合が最も多かったのは、親子給食方式で、63.2%、最も少なかったのは、給食センター方式で、47.5%となっています。

(2) 食育の主な担い手はどこだとお考えですか。(単一回答)



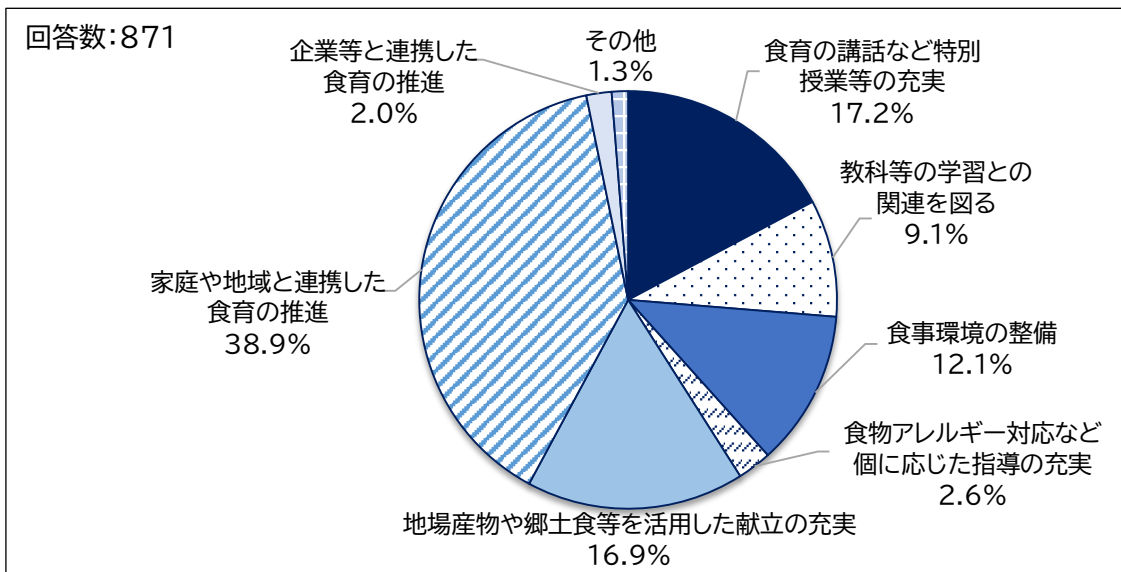
提供方式別クロス集計



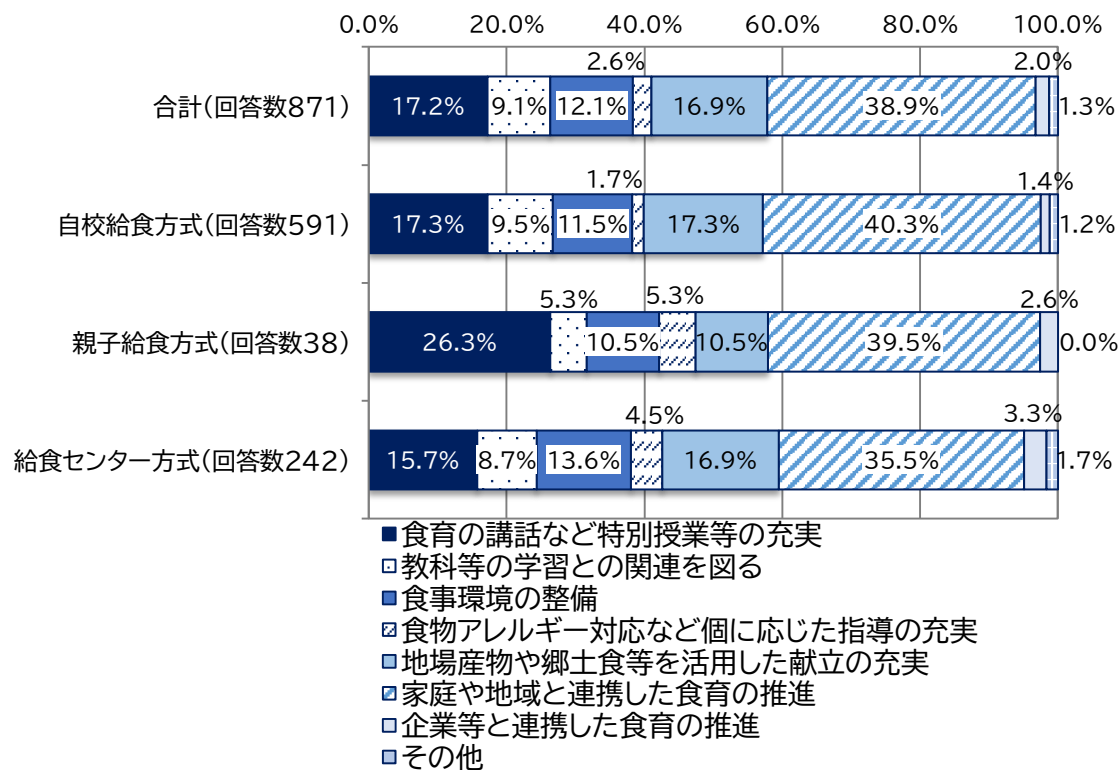
【まとめ】

- ・食育の主な担い手は、「家庭」と回答している教職員は、全体の 88.7% を占めています。
- ・提供方式別にみると、食育の主な担い手は「家庭」と回答している割合が最も多かったものは、給食センター方式で 90.9% となっています。

(3) 食育の充実に特に重視することは何ですか。(単一回答)



提供方式別クロス集計

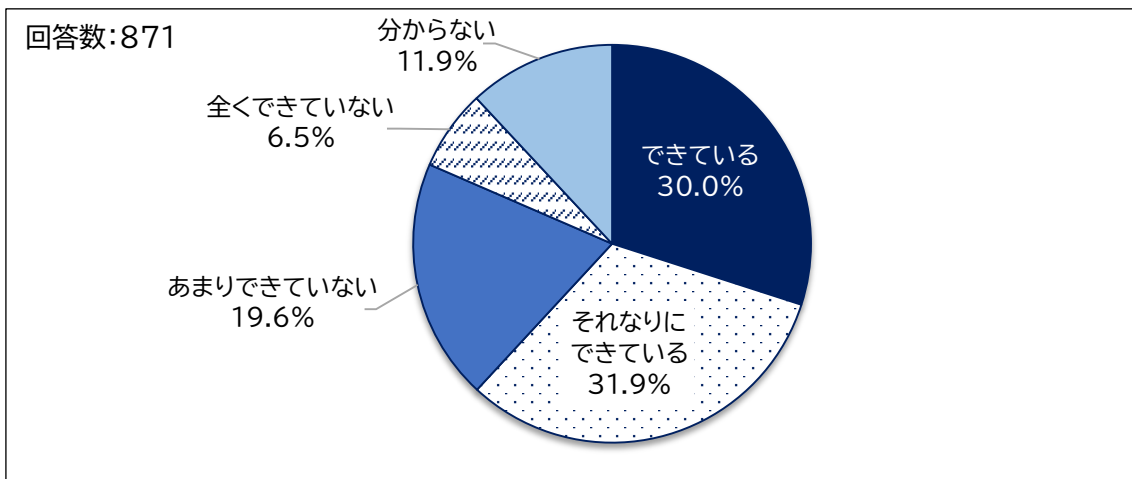


【まとめ】

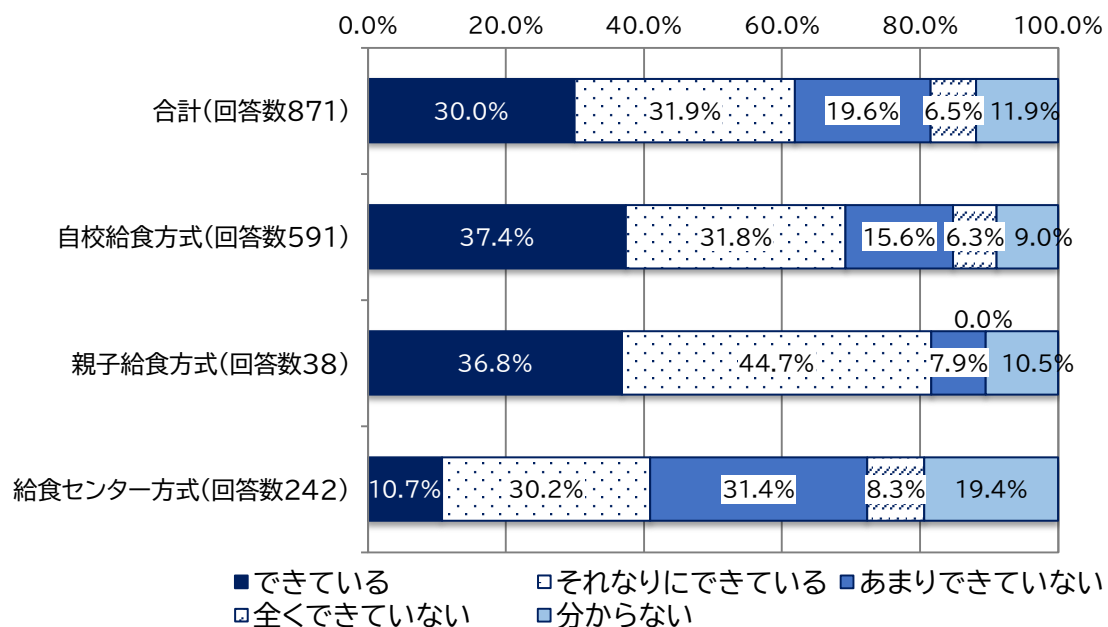
・食育の充実に特に重視することで回答が最も多かった項目は、「家庭や地域と連携した食育の推進」で全体の 38.9%を占めています。次に「食育の講話など特別授業等の充実」で 17.2%、「地場産物や郷土食等を活用した献立の充実」で 16.9%となっています。

・給食センター方式の回答割合をみると、最も多かった項目は、「家庭や地域と連携した食育の推進」で 35.5%、次に「地場産物や郷土食等を活用した献立の充実」で 16.9%、「食育の講話など特別授業等の充実」で 15.7%となっています。

(4) 栄養教諭と連携して食に関する指導を実施できていると思いますか。(単一回答)



提供方式別クロス集計



【まとめ】

・栄養教諭と連携して食に関する指導を実施「できている」と回答した教職員は、全体の 30.0%、「それなりにできている」と回答した教職員は、全体の 31.9%となっており、合計すると、全体の 61.9%を占めています。

・給食センター方式で提供されている教職員の回答をみると、栄養教諭と連携して食に関する指導を実施「できている」と回答した割合は、10.7%となっており、全体(30.0%)と比較すると 19.3 ポイント下回っています。

第4 他調査との回答比較

国や市で実施された他調査と今回調査の比較を行います。比較する調査は、以下のとおりです。

実施主体	報告書名
農林水産省	食育に関する意向調査報告書
総務省	食育の推進に関するアンケート調査
郡山市	2023 年度まちづくりネットモニター第3回調査結果 テーマ「食育について」

1 食育に関する意向調査報告書

1) 調査概要

調査概要は、以下のとおりです。

調 査 対 象	(1) 母 集 団 全国20歳以上の者 (2) 標 本 数 5,000人 (3) 抽出方法 層化2段無作為抽出法
調 査 時 期	令和4年11月2日～11月28日
調 査 方 法	郵送及びインターネットを用いた自記式
調査実施委託機関	一般社団法人 中央調査社
回 収 結 果	(1) 有効回収数(率) 2,370人(47.4%) (2) 調査不能数(率) 2,630人(52.6%) — 不能内訳 — 宛先不明による返送 92 未返送 2364 白 票 2 代理回答・記入不備 148 期間外 2 その他 22

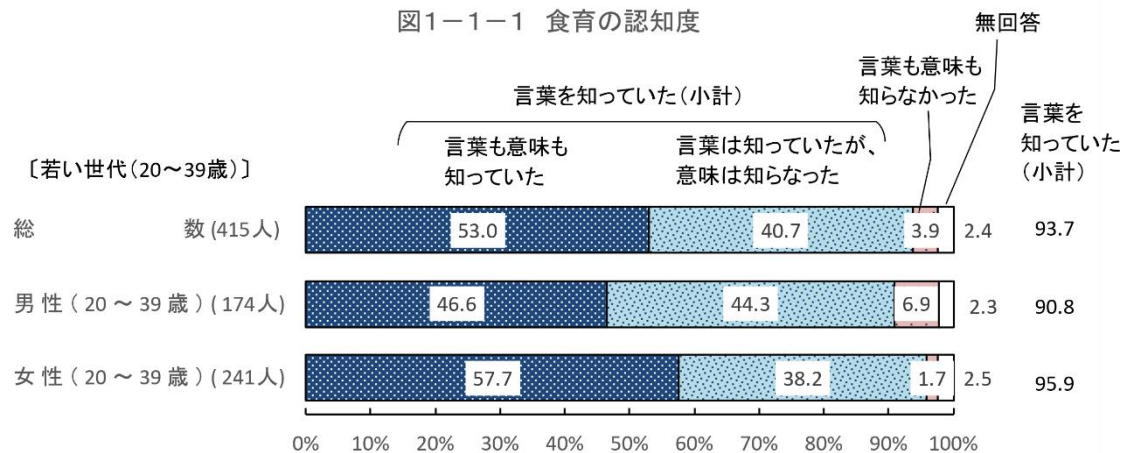
性・年齢別回収結果

性・年齢		標本数	回収数	回収率	性・年齢		標本数	回収数	回収率
男性	20～29 歳	250	66	26.4	女性	20～29 歳	256	97	37.9
	30～39 歳	349	108	30.9		30～39 歳	294	144	49.0
	40～49 歳	398	157	39.4		40～49 歳	428	229	53.5
	50～59 歳	417	182	43.6		50～59 歳	399	232	58.1
	60～69 歳	394	203	51.5		60～69 歳	397	260	65.5
	70 歳以上	651	338	51.9		70 歳以上	767	354	46.2
	計	2,459	1,054	42.9		計	2,541	1,316	51.8

2) 調査比較

(1) 「食育」という言葉やその意味を知っていましたか。

【1 食育への関心について/(1)食育の認知度/問1 より】



出典:「食育に関する意識調査報告書」(令和5年3月 農林水産省)

・農林水産省の調査によると、「食育」という言葉も意味も知っているとした人は、全体の53.0%となっています。
 ・保護者向け調査の問6(1)によると、食育の言葉も意味も知っているとした人は、全体の75.7%となっており、農林水産省の調査と比較すると、22.7ポイント多いです。

2 食育の推進に関するアンケート調査

1) 調査概要

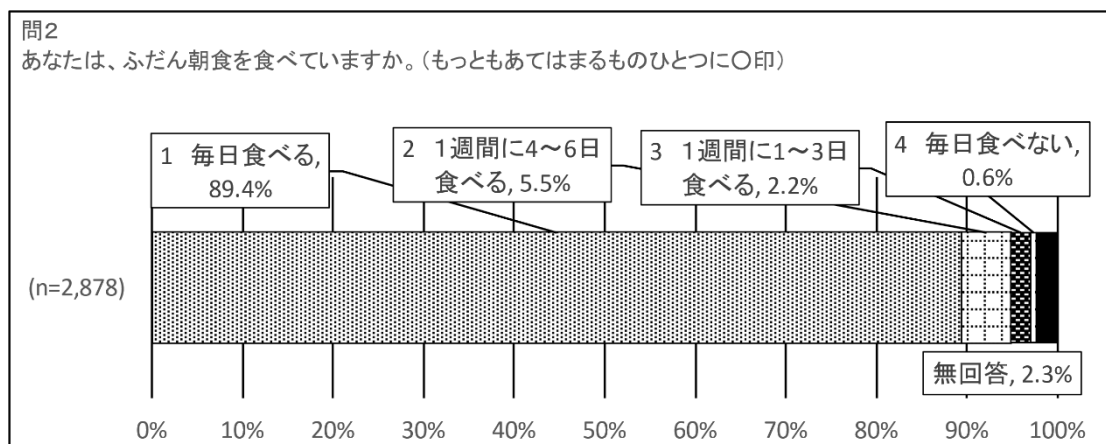
調査概要は、以下のとおりです。

調査対象	<ul style="list-style-type: none"> ・学校アンケート 全国の公立小学校から栄養教諭が在籍している学校 50 校、学校栄養職員が在籍している学校 50 校、両方とも在籍していない学校 50 校の計 150 校ずつ抽出し、事前にアンケートの許諾を得た学校を対象 ・児童・保護者アンケート 学校アンケート対象校に在籍している 6 年生の児童とその保護者の 4,378 人
回収数及び回収率	<ul style="list-style-type: none"> ・学校アンケート 145 校(96.7%) ・児童・保護者アンケート 2,878 人(65.7%)
調査方法	学校アンケートは、各対象小学校に郵送し、自計申告方式(回答者自身が調査票に回答を記入する調査方式)により実施。 児童・保護者アンケートは、各学校から児童に手渡しをしてもらい、自計申告方式により実施。 なお、回答者の希望によりWEBによるオンラインでの回答も受け付けた。
調査期間	平成 26 年 10 月 22 日～11 月 14 日 (調査票の配布から回収までの期間)

2) 調査比較

(1) あなたは、ふだん朝食を食べていますか。

【Ⅱ児童アンケート/(2)問 2 朝食の摂取状況 より】

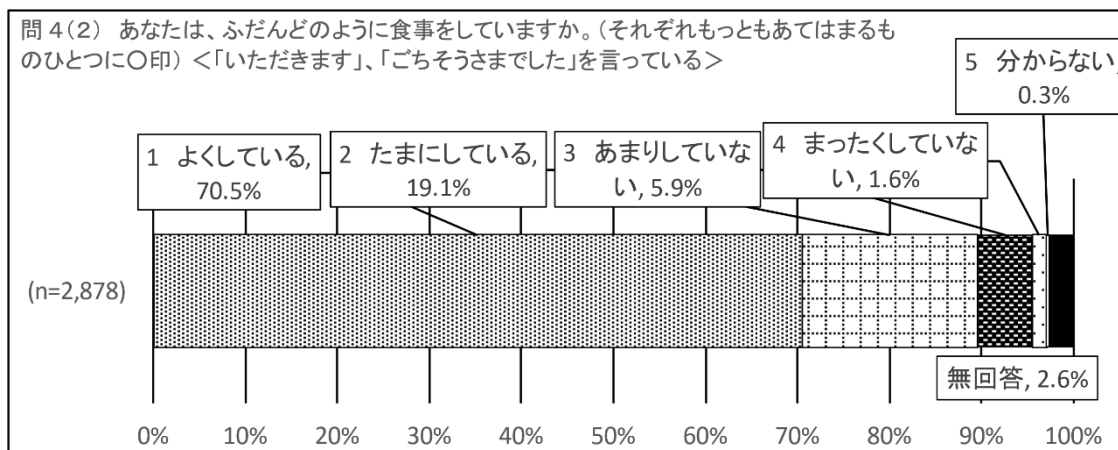


出典:「食育の推進に関するアンケート調査(学校、児童及び保護者編)」(平成 27 年 10 月 総務省行政評価局)

- ・総務省の調査によると、朝食を「毎日食べる」と答えた人は、全体の 89.4%となっています。
- ・児童生徒向け調査の問 1(1)によると、朝食を「毎日食べる」と回答した人は、全体の 89.1%となっており、総務省の調査と比較すると、同程度の割合となっています。

(2) あなたは、ふだんどのように食事をしていますか。

【Ⅱ児童アンケート/(5)問 4(2)「いただきます」等の挨拶の状況 より】



出典:「食育の推進に関するアンケート調査(学校、児童及び保護者編)」(平成 27 年 10 月 総務省行政評価局)

- ・総務省の調査によると、ふだんの食事で「いただきます」、「ごちそうさまでした」をよく言っていると答えた人は、全体の 70.5%となっています。
- ・児童生徒向け調査の問3(2)によると、「いつも言っている」と回答した人は、全体の 72.6%となっており、総務省の調査と比較すると、2.1 ポイント多いです。

3 2023 年度まちづくりネットモニター第 3 回「食育について」

1) 調査概要

調査概要は、以下のとおりです。

調査期間	令和5年6月6日(火)～6月15日(木) (10日間)
モニター数	398名 (男性172名 女性226名)
回答数	372名 (男性163名 女性209名)
回答率	93.5%

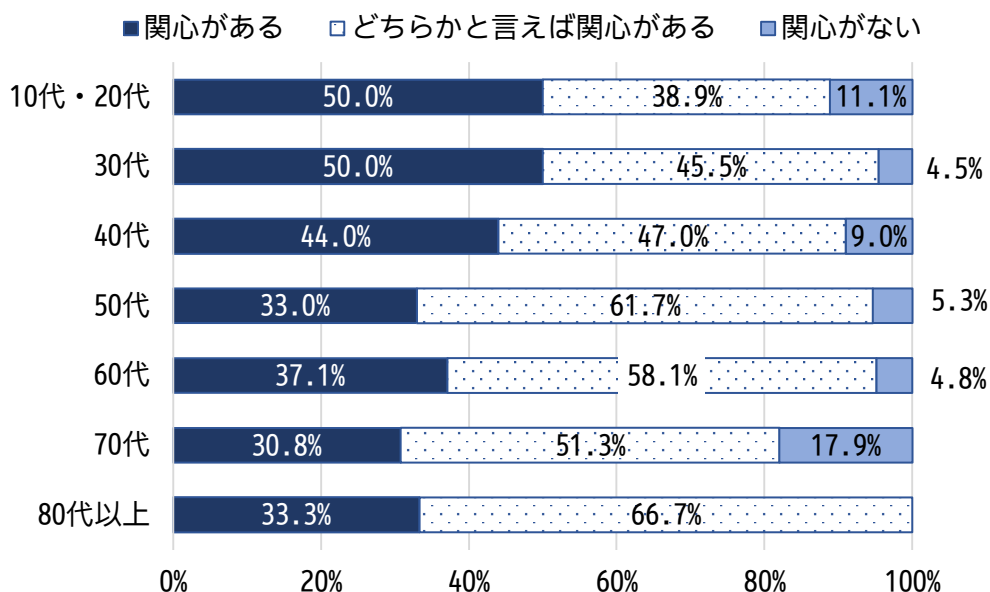
《回答者内訳》

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	全体
女性	2	10	38	65	50	37	7	0	0	209
男性	0	6	6	35	44	25	32	14	1	163
合計	2	16	44	100	94	62	39	14	1	372

2) 調査比較

(1) 「食育」に関心がありますか。

【第1章認知度について/問2より】



出典:2023 年度まちづくりネットモニター第3回「食育について」

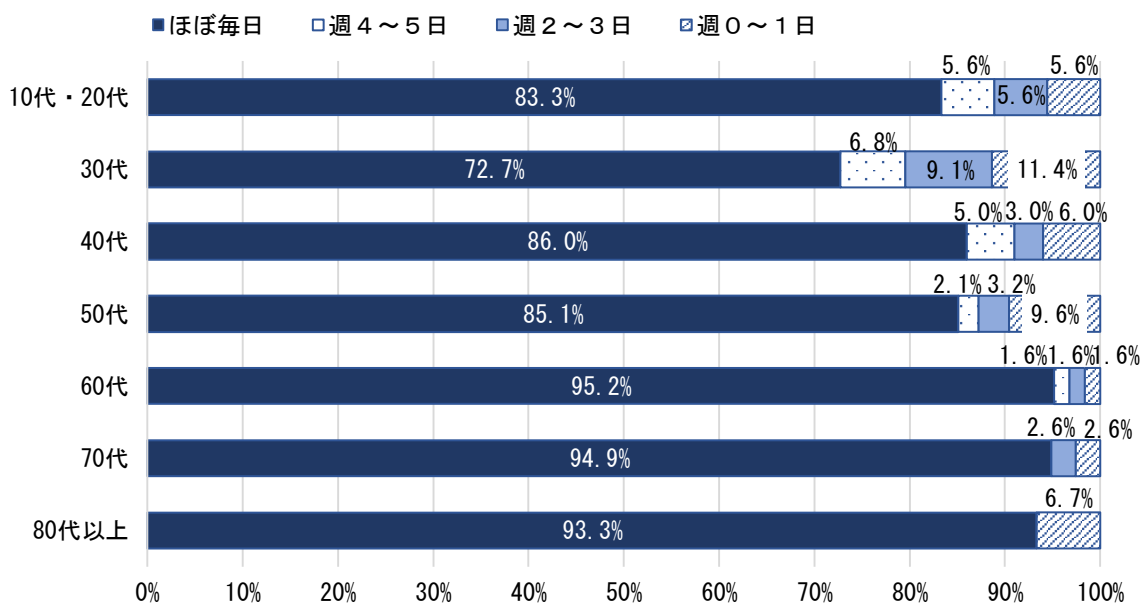
・郡山市の調査によると、「食育」に関心があると答えた30代は、全体の50.0%、40代は、44.0%となっています。

・保護者向け調査の問6(2)によると、食育に関心があると回答した人は、全体の42.2%であり、郡山市の調査と比較すると、同程度の割合となっています。

・教職員向け調査の問3(1)によると、食育に関心があると回答した人は、全体の54.3%であり、郡山市の調査と比較すると、同程度の割合となっています。

(2) 朝食を毎日食べていますか。

【第2章食習慣について/問10 より】



出典:2023年度まちづくりネットモニター第3回「食育について」

・郡山市の調査によると、朝食をほぼ毎日食べていると答えた10代・20代は、全体の83.3%となっています。

・児童生徒向け調査の問1(1)によると、朝食を「毎日食べる」と回答した人は、全体の89.1%となっており、郡山市の調査と比較すると、同程度の割合となっています。

第5 調査結果のまとめ

1 児童生徒及び保護者、教職員の考えや実態

調査結果より、児童生徒及び保護者、教職員の考えや実態は、次に示すとおりと考えられます。

児童生徒	家での食習慣について	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食、夕食ともに全体の 9 割近くの児童生徒が毎日摂取している状況であることがわかりました。 ・朝食、夕食ともに毎日食べない最も多かった理由として、「おなかがすかないから(食欲がないから)」ということがわかりました。
	学校給食について	<ul style="list-style-type: none"> ・給食の量、味付けや温度は、ちょうどよいと感じている児童生徒が半数以上を占めていることがわかりました。 ・給食を少しでも残してしまう、「残さずに食べよう」などとあまり気にしていない児童生徒が全体の約 4 割近くいることがわかりました。 ・給食で一番残すものは、野菜で、特に、給食センター方式で給食を食べている児童生徒は、ごはんを残す割合が多い状況がわかりました。 ・牛乳を残さずに飲む児童生徒が全体の 9 割近くいることがわかりました。 ・給食当番の時に特に困っていない児童生徒が 4 割程度である一方、配膳の際に一人分の量をよそうことが難しいと感じている児童生徒が全体の 3 割近くいることがわかりました。
	食育について	<ul style="list-style-type: none"> ・家での食事について、全体の 9 割近くの児童生徒が、楽しみながら食事をしており、食事の最初と最後の挨拶を言っている状況です。 ・テレビや本、スマホ、タブレットなどを見ながら食べている児童生徒の割合が、全体の半数以上を占めていることや、家での食事好きなものだけ食べる児童生徒の割合が、全体の半数以上を占めている状況から、食習慣やマナーについて改善が必要であることがわかりました。
	保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・お子さんの生活習慣で心配なことは「特になし」と回答している保護者が、全体の 3 割近くを占めており、「偏食」や「就寝時間が遅いこと」が 2 割近い状況です。 ・半数以上の保護者が、朝食・夕食ともにお子さんと一緒に食べている状況です。
保護者	学校給食について	<ul style="list-style-type: none"> ・「満足」「やや満足」と感じている保護者が全体の 9 割を占めています。 ・給食センター方式の学校に通っているお子さんをお持ちの保護者の回答をみると、他の提供方式と比較して、「やや不満」の割合が少し多い状況です。 ・献立表は、紙での配布を希望する意見が多い状況です。 ・令和 5 年度の無償化によって、非常に家計が助かるとの意見が多いです。
	食育について	<ul style="list-style-type: none"> ・食育という言葉やその意味を知っている保護者は、全体の 7 割近くおり、関心を示している保護者は、全体の 9 割となっています。 ・食育の主な担い手は「家庭」と回答している割合は全体の 8 割近くとなっています。 ・食育に関して家庭で実践していることは、「家庭での食卓を囲む機会の増加・充実・コミュニケーション確保」「食前・食後の挨拶、箸の持ち方、姿勢、配膳、食べ方など正しいマナーの習得」「もったいない」といった食物を大切に思う気持ちの育成」などの割合が高くなっています。 ・一方で、「郷土料理、伝統料理、季節や行事に関係した料理等の実践」「農業や漁業といった生産活動の体験」「地元や県内で生産、加工された食品を使用する地産地消活動の実践」の割合は低くなっています。

教 職 員	家での食習慣について
	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達の生活習慣で、偏食が問題だと感じている教職員が全体の 4 割いることがわかりました。特に小学生の担任をしている教職員が偏食について気にしていることがわかりました。 ・中学生の担任をしている教職員は、小学生の担任をしている教職員同様、偏食を問題だと感じている傾向にありますが、就寝時間が遅いことに対しても問題だと感じている傾向にあり、小学校の担任している教職員の回答より割合が多いです。
	学校給食について
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食について満足・やや満足と感じている割合が全体の約9割を占めています。 ・給食センター方式になると、やや不満の傾向が若干強くなります。 ・学校給食で改善すべきと思われる項目として、自校給食方式と給食センター方式は、献立の内容、親子給食方式は、給食の量が挙げられます。 ・味付けや給食の量は、適切でちょうど良いと感じている教職員が 7 割以上を占めています。 ・現在の食物アレルギー対応状況について、良いと感じている教職員は、全体の 7 割を占めています。 ・食べ残しを減らす取組を実施しているものの、給食の食べ残しが少しでもある状況であると回答した教職員が全体の 6 割を占めており、その理由として、好き嫌いが最も多く挙げられています。
	食育について
	<ul style="list-style-type: none"> ・食育に少しでも関心がある教職員は、全体の 9 割を占めています。 ・食育の主な担い手は「家庭」と回答している割合も全体の 9 割を占めています。 ・食育の充実特に重視することとしては、「家庭や地域と連携した食育の推進」「食育の講話など特別授業等の充実」「地場産品や郷土食等を活用した献立の充実」の順で割合が高くなっています。 ・栄養教諭との連携状況について、食に関する指導がある程度できている(全体の 6 割)状況にあります。

また、提供方式別にみると、次に示すことがわかりました。

自 校 給 食 方 式	児童生徒	<ul style="list-style-type: none"> ・60.3%が、給食の量は、「ちょうどよい」と感じています。 ・56.6%が、「いつも残さずに食べている」と回答しています。 ・88.4%が、「味はちょうどよい」と感じています。 ・77.1%が、給食の温度は、「ちょうどよい」と感じています。 ・71.8%が、給食を食べる時間は「足りている」と回答しています。
	保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・67.0%が、現在の給食について「満足」と感じています。 ・47.0%が、食物アレルギー対応について「満足」と感じている一方、42.6%が、「アレルギー対応状況を知らない」と回答しています。
	教職員	<ul style="list-style-type: none"> ・75.6%が、現在の給食について「満足」と感じています。 ・60.6%が、子ども達の様子をみていて、給食の時間を「とても楽しみにしている」と受け取っています。 ・87.0%が、給食の味付けは、子ども達にとって「適切である」と感じています。

親子給食方式	児童生徒	<ul style="list-style-type: none"> ・55.0%が、給食の量は、「ちょうどよい」と感じています。 ・70.0%が、「いつも残さずに食べている」と回答しています。 ・86.4%が、「味はちょうどよい」と感じています。 ・74.0%が、給食の温度は、「ちょうどよい」と感じています。(親校) ・71.6%が、給食の温度は、「ちょうどよい」と感じており、28.4%が「温かい」と感じています。(子校) ・68.5%が、給食を食べる時間は「足りている」と回答しており、28.8%が「あまり足りていない(短い)」と回答しています。(親校) ・77.6%が、給食を食べる時間は「足りている」と回答しており、22.4%が「あまり足りていない(短い)」と回答しています。(子校)
	保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・70.5%が、現在の給食について「満足」と感じています。 ・46.2%が、食物アレルギー対応について「満足」と感じている一方、44.9%が、「アレルギー対応状況を知らない」と回答しています。
	教職員	<ul style="list-style-type: none"> ・52.6%が、現在の給食について「満足」と感じている一方、7.9%が「やや不満」と感じています。「給食の量」について改善すべきと感じている教職員が、66.7%います。 ・63.2%が、子ども達の様子をみていて、給食の時間を「とても楽しみにしている」と受け取っています。 ・84.2%が、給食の味付けは、子ども達にとって「適切である」と感じています。
給食センター方式	児童生徒	<ul style="list-style-type: none"> ・50.2%が、給食の量は、「多い」「やや多い」と感じています。 ・46.7%が、給食を残すことがある状況です。 ・73.8%が、「味はちょうどよい」と感じており、11.7%が「味が薄い」と感じています。 ・62.7%が、給食の温度は、「ちょうどよい」と感じている一方、12.8%が、「冷たい」と感じており、他の方式と比べて多いことがわかります。 ・55.6%が、給食の時間は、「足りている」と回答しており、37.8%が「あまり足りていない(短い)」と回答しています。
	保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・43.2%が、現在の給食について「満足」と感じており、42.9%が「やや満足」、10.0%が「やや不満」と感じています。「献立の内容を見直してほしい」という意見が、42.1%と多いです。 ・42.2%が、食物アレルギー対応について「満足」と感じている一方、40.3%が、「アレルギー対応状況を知らない」と回答しています。
	教職員	<ul style="list-style-type: none"> ・31.4%が、現在の給食について「満足」と感じている一方、12.0%が「やや不満」に感じています。「献立の内容」について改善すべきと感じている教職員が56.3%います。 ・26.9%が、子ども達の様子をみていて、給食の時間を「とても楽しみにしている」と受け取っています。 ・71.5%が、給食の味付けは、子ども達にとって「適切である」と感じています。

2 郡山市における学校給食のあり方

約9割が現在の給食に一定程度満足していることから、大多数の満足度を下げないように留意しつつ、「1 児童生徒及び保護者、教職員の考えや実態」を踏まえ、さらなる満足度向上を図るために考え得る課題とその対応方策は、次のとおりです。

1 温かい給食の提供

今回の調査より、給食センター方式において、給食の温度が冷たいと感じている児童生徒がいることがわかりました。給食が冷たい場合、おいしい食事の提供ではなくなり、食べ残しにつながる可能性があります。食品ロスの減少のためにも温かい給食の提供が必要です。

具体方策:保温性の高い食缶の導入、調理後～食べ始めまでの時間の見直し(改善)

2 食育の支援

今回の調査より、「献立の内容を見直してほしい」という保護者の意見や「献立の内容」について改善すべきとの教職員の意見がありました。栄養バランスの良さや豊富なメニュー、地元の食材・事業者の活用などを駆使し、充実した給食の提供が求められています。

具体方策:卸売市場などと連携した地場産食材の調達

3 十分な給食時間の確保

今回の調査より、親子給食方式と給食センター方式において、給食の時間があまり足りていない(短い)と感じている児童生徒がいることがわかりました。給食時間の不足は、食べ残しの増加や、共食の大切さ(規則正しい食生活)を学ぶ機会の損失につながる可能性があります。充実した給食時間とするためには、十分な時間の確保が必要です。

具体方策:配送時間の見直し、お昼休みの時間も含めた、給食時間の適正な設定

4 配膳における苦勞の解消

今回の調査より、給食当番の時に「一人分の量をよそうことが難しい」と感じている児童生徒がいることがわかりました。適切な量を配膳できないと、均等に給食が行き渡らず、適切な栄養摂取ができなくなる可能性があります。食品ロスの減少や食材費の縮減のためにも、適正量の配分が必要です。

具体方策:配膳の1人分の量がわかるコンテンツを用意